

金ヲ追徴ス

- 第十八條 第十二條第十三條ノ届書ニ詐偽ノ記載ヲ爲シ又ハ第十五條ノ検査ヲ拒ミテル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十九條 第三條ニ違ヒ鑑札ヲ携帶セスシテ仕入又ハ出賣ヲ爲シタル者及ヒ第七條ニ違ヒ鑑札ヲ借借賣買又ハ讓受讓渡シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十條 第五條第六條第十二條第十三條届出ヲ怠リタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第二十一條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス
- 第二十二條 菓子營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

○博覽會共進會ニ際シ菓子烟艸等出品販賣取扱方

二十一年一月七日

大藏省訓令第一號
北海道廳府縣

- 博覽會共進會開設ニ際シ煙草菓子賣藥ヲ出品シ且ツ其會場内外ニ於テ特ニ販賣スルトキ其取扱方ハ左ノ通心得ヘシ
- 但明治十一年六月内務大藏兩卿連署乙第四十七號達ハ自今廢止ス
- 明治二十一年一月七日 大藏大臣 伯耆松方正義
- 從來免許ノ營業人ニシテ出品スルモノハ別段免許鑑札ヲ受ルニ及ハス
- 一 印紙ノ貼用ヲ要スル物品ハ総テ其規則ニ遵テ印紙ヲ貼用スヘシ
- 一 出品主ニシテ其出品ノ販賣店ヲ開設スルモノモ亦前二項ニ準ス但其店頭ニ免許何

營業人住處氏名ヲ記載セル標札ヲ掲出スヘシ

- 一 前項販賣店開設ヲ許可スルニ當リ場内狹隘ノ爲メ止ムヲ得サルトキハ其場近傍ニ一定ノ區域ヲ限リテ之ヲ許可スルコトヲ得

(參照) 明治十一年六月内務大藏兩省乙第四十七號達

各府縣ニ於テ一時博覽會相開候節列品中酒類煙草賣藥等販賣方成規有之物品場中ニ於テ賣渡ノ義ハ其出品人兼テ營業免許ノ者ニ候ハ、別段受賣免許鑑札申受ニ及ハス尤煙草ノ義ハ假令見本品タリ共需求ニ應シ賣渡候節ハ成規ノ通り印紙貼用可致此旨相達候事

但開場中一時賣物店開設開届候向モ本文ニ準シ受賣鑑札申受ニ不及候得共何營業免許人何某ト記載セル本製ノ看板ヲ見易キ場所ヘ必ス揭示可致事

●同指令

●西洋菓子課税ノ儀ニ付高知縣ヨリ大藏省ヘ伺(電) 十八年五月十八日
西洋菓子、卸小賣ヲ爲ス者ハ菓子稅則ニ據リ課税スヘキモノナルヤ
指令(電) 十八年五月二十六日
申出ノ通心得ヘシ

●菓子稅則ノ儀ニ付東京府ヨリ大藏省ヘ伺 十八年五月二十二日

一 稅則第八條ニ掲ケル菓子營業者ノ雇人ハ菓子製造及ヒ仕入出賣店等ニ從事スル者ニ限ラス一家總テ雇人(炊飯裁縫等ニ使役スル者共)ヲ指タルモノニ有之候哉果シテ然ラハ菓子營業者ニシテ他ノ營業ヲ兼メモノハ其雇人中菓子一途ニ從事スルモノト他ノ營業ニ從事スルモノトハ自カラ區別アルヘシト雖モ同ク一家ノ雇人タルハ應レテ菓子營業ノ一方ヨリ視ル時ハ殆ト分別シ難シ況ンヤ炊飯等ノ雜事ニ使役スルモノハ顯ニ其限界ヲ定メ兼候如斯モノ、區別ハ如何相心得可然哉

一 稅則第十七條ニ製造器械ヲ沒收ストアリ然ルニ製造器械員數届出ノ明文無キヲ以テ實際處分ノ場合ニ應ミ其區

別ハ檢査員ノ認定ニ有之價ト相心得可然哉

一左記品目ノ如キモ菓子ノ範圍内ニ有之候哉

- 煎餅類 圓煎餅(ハッパ煎餅) 辻占煎餅 飴類 汁子類 汁子 饅頭 菓子類 醬油菓子 餠菓子 黃餅類 阿部餅類
- 餅類 萩餅 牡丹餅 ツクバネ煎餅 菓子 砂糖豆類 關西豆 茶豆 源氏豆 南京豆 菟豆 金花糖 オコシ
- 柿餅 柏餅 柿餅類 パン 菓子 砂糖菓子類 空豆 類 砂糖菓子類 ヒテ包 和菓子類
- カキ餅 吹寄類 輕燒 カリン糖 紅梅燒 氷菓子 アイスクリーム 白玉 トコロチン 砂糖菓子類 寒天 甘露糖 砂糖
- 種煎金時 揚ヶ餅 切り揚 氷砂糖 砂糖 菓物 齒 蔬菜類 類 ナ乾燥シテ砂 シンゴ細工 文珠燒 干柿

指令 十八年六月四日

伺之趣左ノ通可相心得候事

第一項 税則ノ廢入トハ菓子ノ製造其他菓子業ニ從事スルモノヲ指ス故ニ菓子業ニ從事セシテ專ラ他ノ業務ヲ執ルモノハ輸入セサルモノトス但シ附屬業務ノ者其他手帳等ノ名義ヲ以テスルモノト雖モ雇人同様に業務ヲ執ルモノハ総テ輸入セス

第二項 菓子製造ノ用ニ供シタルモノハ没收スルモノトス

第三項 圓煎餅(餠) 汁子(懷中汁子) 菓子類(餅類) 饅頭類(大饅頭ノ類ニシテ) 食鹽糖 氷砂糖 白玉(心太寒天) (ナ除ク) 切り揚 眞粉 細工 干柿 氷菓子 砂糖漬ノ内糖汁ニ浸シタルモノノ類ハ菓子ノ範圍外トス

●菓子税則中疑團ノ儀ニ付栃木縣ヨリ大藏省ヘ伺 十八年五月二十六日

第一條 税則第八條第三項ニ露店又ハ呼賣ヲ業ト爲スモノハ其營業稅ヲ免除ストアリ右呼賣トハ路上ヲ發賣行商スルモノヲ指稱スルヤ也又タ單ニ需求者ノ家宅ニ臨ミ販賣スル行商モ呼賣ト併稱スヘキヤ

第二條 家屋外下ヘ戸板或ハ椽等ヲ設キ菓子類ヲ販賣スルモノハ露店ト同視スヘキヤ

第三條 本年六月卅日ニ以前製造ノ菓子モ七月一日以後ノ販賣ニ係ルモノハ無論賣上金高ニ超過納稅セシムヘキヤ 指令 十八年六月八日

第一條 俄國申出ノ週

第二條 申出ノ週

但自家ノ軒下ニ於テスルモノハ此限ニアラス

第三條 申出ノ週

●菓子税則中疑團ノ儀ニ付石川縣伺 十八年五月二十八日

税則中呼賣トハ路頭ヲ徘徊スルモノノ出賣トハ露店ヘ立寄リ又ハ小賣露店等ヘ發賣クモノヲ指稱スヘキヤ 指令 十八年六月八日

伺ノ趣呼賣トハ店舖ヲ設ケス專ラ需用人ニ賣歩クモノノ出賣トハ定マリタル店舖ヨリ他ニ派出シテ同業者又ハ需用人ニ販賣スル儀ト可相心得事

●菓子税則中疑團ノ儀ニ付神奈川縣伺(續) 十八年五月十八日

第五條 税則第八條ニ掲クル雇人トハ其家ニ戶籍ヲ入レ又ハ寄留スルモノニ止マラス一兩度(俗ニ渡リ職人ト云フ)ノ者モ含有スルノ義ナルヤ

第六條 露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者トハ自リ製造シ又ハ製造者ヨリ買受自己又ハ家族ヲ以テ營業ニ從事シ自家店頭ノ營業ヲナス要スルニ徴々タル業體ノ者ヲ指スノ意義ニ候ヤ果シテ然ラハ別ニ出賣證札ヲ下付セス(任入證札ヲ下付スルハ勿論)營業證札ヲ携帶セシムルモノニシテ其業體一家賃人ニ止マルモノニ候ヤ

但本文ニ掲レハ本人ニ代リ其證札ヲ以テ家族一時營業ヲ助クル場合アルモ苦シカラズヤ

第七條 露店呼賣者ト事實ヲ同フスルモ自家ニテモ營業ヲナス上ハ出賣者トシテ賣上高ヲ合算シ課稅スルハ勿論ナルヤ

第八條 菓子營業ト他ノ營業トヲ兼スル者ニシテ一店內區域ヲ異ニセス雇人ヲ區別セサルモノハ其役員ニ就キ課稅シ一店內ト雖モ自ラ區域ヲ異ニシ雇人ノ區別アルモノハ之ヲ分別シ課稅スヘキヤ

第十二條 租稅及貨紙幣公債區間納費

指令 十八年六月九日

第五條 第七條申出ノ通

第六條 露店又ハ呼賣ヲ業トスルモノハ一家壹人ニ限ラヌ營業各人ニ其額札ヲ下付スヘシ
但シ家族ノ者露店又ハ呼賣先ニ於テ其業ヲ助クルハ苦シカラヌ

第八條 雇人ハ申出ノ通
但店內ノ區域ヲ異ニスルト否トニ關セヌ

●菓子營業者仕入鑑札下付方ノ儀ニ付靜岡縣ヨリ大藏省ヘ伺(電) 十八年六月五日

菓子製造人原質品買入及ヒ自製ノ菓子小賣スルモノハ仕入鑑札ヲ受クルニ及ハヌヤ

菓子原質品買入又ハ自家ニテ仕入チナス者ハ仕入鑑札ヲ要セス

●菓子露店呼賣鑑札下付ノ儀鹿兒嶋縣ヨリ大藏省ヘ伺(電) 十八年六月九日

菓子露店業ノ者子弟ヲシテ呼賣ヲ爲スモノハ出資鑑札ヲ下付シ又一人ニシテ露店呼賣ヲ業スル者ハ營業鑑札ニ
次下付スヘキヤ

指令(電) 十八年六月十三日

露店業ノ者子弟ヲシテ呼賣ヲ爲サシムル中ハ更ニ其子弟ニ呼賣ノ鑑札ヲ下付シ出資鑑札ヲ下付スルノ限リニア
ラス又露店業ノ者呼賣ヲ業スルトキハ鑑札ニ露店呼賣ト列記シ二枚ヲ下付スルニ及ハヌ

●菓子税則中疑義之廉千葉縣ヨリ大藏省ヘ伺 十八年六月十五日

第一項 税則第二條但書ニ一人ニテ二箇所以上ノ營業場ヲ設クル者(中)ハ各別ニ營業鑑札ヲ受クヘシトアリ
然レハ營業税モ亦隨テ其場所毎ニ之ヲ徵收スヘキハ勿論ニ之アルヘシ就テ一人ニテ甲乙二箇所ノ營業場ヲ有
シ而シテ一名ノ雇人ヲシテ甲乙二日ニ何日ト定メ其職其業ニ從事セシムル時ハ甲乙致モ二人以下ノ雇人アル
者ト見做サレバ得ヤル儀ト心得可然哉

第二項 一期内ニアリテ甲某チ一旬日乃至半箇月ツノ之ヲ數回ニ雇人ル、者ハ引續ノ雇人ト見做シ得可キ乎果シテ
然トセハ一月ニ甲某チ雇入レ二月ニ之ヲ止メ代ルニ乙某チ以テ等數次ニ及ヘハ一期中自然甲乙丙丁ノ數人ニ涉
ルヘシト雖モ同時ニ三名以上ノ現員ニ至ラサル限リハ尙ホ二人以下ノ雇人ト見做シ得可キ儀ト心得可然哉

第三項 税則第十條但書ニ雇人増加シタル時ハ該期ノ増税ヲ納ムヘシトアリ右ハ例ヘハ雇人ナキ小賣人ニテ中途ニ
至リ一名若クハ二名ヲ雇入ル、時ハ之ニ對スル半箇年ノ稅額即チ金壹圓五拾錢ノ内ヨリ當初納稅額ナル五拾錢ヲ
扣除シ其全ク増税ニ係ル暨間ヲ徵收スヘキ注意ナラン果シテ然リトセハ小賣人ニテ製造又ハ卸賣ヲ業子ントスル
者ハ差引其全ク増税ニ係ル者ノミチ徵收スヘキ儀ト心得可然哉

第四項 税則取扱心得書第六項ニ露店又ハ呼賣專業ノ者ニハ出資鑑札ヲ下付スルノ限ニ在ラストアリ就テハ露店又
ハ呼賣專業ノ者ニ限リテハ該營業權之徵証ヲ所持セシテ何レノ場所ヲ問ハス其營業ヲ爲シ得ラル、儀ト心得可
然哉

第五項 露店又ハ呼賣專業ノ者ニ下付スル免許鑑札ハ唯リ鑑札面記載ノ人ニ限リ其効力ヲ有スヘキモノナレハ其父
子兄弟タリト雖モ更ニ鑑札ヲ受クルニ非サレハ一時免許人ニ代リ其營業ヲ爲ス如キハ法理上不相成儀ト心得可然
哉

第六項 露店及ヒ呼賣ヲ兼業スル者ニ下付スル鑑札ヘハ税則取扱心得書第一號雛形ニ準シ露店呼賣ト併記スル儀ト
心得可然哉

第七項 税則上ノ雇人トハ平素雇主ノ家ニ寢食スル者ノミニ限ラス日雇或ハ臨時雇ノ者又ハ手代番頭等ニテ日々雇
主ノ家ニ通勤スル者又ハ雇主ノ親族等ニテ賃金ヲ受ケス臨時ニ來リテ業務ノ助ケヲ爲ス者ノ如キモ渾テ均
ク雇人ノ範圍内ヲ以テ論ス可キ儀ト心得可然哉

第八項 前項果シテ雇人ヲ以テ論ス可キ者トセハ今コノ雇人ヲシテ税則第三條ニ據リ仕入又ハ出資ヲ爲サシムルモ
妨ケナキ儀ト心得可然哉

第九項 演劇場寄席又ハ極弓場等ニ於テ其席主ノ販賣スル者ハ小賣營業者ト心得可然哉

第十項 下々職ト唱ヘ常ニ自宅ニ在リテ製造人ヨリ送附セル物品ノ製造「モナカ」ノ皮ノ類ノミチ製スルニ止ルアリ
或ハ落雁ノ類ノ如キハ直ニ仕上クテ爲スアリ

第十一條 租稅及貨物稅公債區別附則

（一）ニ從事シ日給又ハ其製造高ニ應シ賃金ヲ受クル者ハ雇人ナリテ論シ難キ者タルハ税則範圍ノ外ト心得可然哉
 第十一項 菓子類（干菓子ノ種別ヲモ）ヲ製シ專業ト爲ス者アリ右ハ其資先ノ營業者ト否トナ間ハス總テ税則範圍ノ外ニ付ス可キ心得可然哉

第十二項 税則上ニ掲ケアル露店トハ常ニ一定ノ營業場ヲ有セス神佛ノ緣日夜見世市場等ニ於テ其都府所謂露店又ハ遊藝場等ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ノ類ノミニ限ラス立場茶屋（家屋ノ構造ヲ爲スモ）路傍常設ノ遊藝場社寺境内ノ掛茶屋（茶菓子トシテ來客ニ出ス）等ニ於テ販ク者其他方言床見世ト唱ヘ朝ニ來リテ店ヲ開キ夕ニ去リテ之ヲ閉ル者ノ如キ平常一定ノ營業場ヲ設ケ販賣スル者モ亦均ク露店ノ範圍内ト心得可然哉
 但在村居宅ノ片隅若シクハ掛出シ等ヲ設ケ農圃或ハ雜菓子ヲ賣ク者ノ如キモ本項ニ準シ可然哉
 附令 十八年六月廿六日

何之趣左之通可相心得事
 第一項第三項第六項第八項及第十一項申出之通
 第二項 申出之通

但其都府雇人ノ氏名ヲ届出サシムヘシ
 第四項 營業鑑札ヲ携帶セシムヘシ
 第五項 家族ノ者一時免許入ニ代ルハ苦シカラス
 第七項 申出之通

但祭禮等ノ場合ニ於テ業務繁多ノ爲メ一時手傳ヲ爲サシムルモノハ此限ニアラス
 第九項 申出之通
 但揚子場等ニ於テ茶菓子トシテ出スモノハ此限ニアラス

第十項 日給ヲ受クル者ハ雇人トシ製造高ニ應シ手間賃ヲ受クル者ハ申出ノ通
 第十二項 飲食セサルモノナレハ申出之通但露店ト稱スルノ限ニアラス

●菓子營業人製造税金納者處分方ノ件ニ付東京府ヨリ大藏省ヘ伺 十九年三月十二日
 （十九年三月二十三日官報）

菓子製造小賣ヲ兼業スルモノニテ其製造税ヲ不納スルモノアリ之ヲ處分スルニ當リ税則第八條但書ニ二種以上ヲ兼タルモノハ其税額ノ多キモノニ就テ納税スヘシトアリテ其小賣營業ハ製造ニ附帶シテ免許ヲ得タルモノナレハ各營業ヲ停止シ可然モノノ如シ然リト雖則第一條 於テ各管人ノ資格ヲ業ガメサレ第二條但書ニ於テ二種以上ヲ兼タルモノハ各別ニ鑑札ヲ受クヘシトアリテ畢竟製造小賣各別ニ營業權ヲ得タルモノト解釋セサル能ハス然レモ製造税ノミ忠納スルノ場合ニ於テ各營業ヲ停止スルハ不穩當ト相考候若シ各資格ノ異ナラサルモノトシ小賣ヲモ併セテ營業ヲ停止シ公賣處分等ヲ爲スモノトセハ小賣人ノ資格ヲ以テ他ヨリ買入レタル菓子モ均ク公賣セサルヲ得ス然ルニ該菓子ハ専モ自家製造ニ關係ナキ物品ナレハ之ヲ公賣スルハ頗ル穩當ナラサルモノト存候旁各資格ノ異ナリタルモノト見認メ處分シ可然哉

追テ製造營業ノミ停止候ニ於テハ小賣營業ハ既ニ當初營業權ヲ得タルモノナレハ營業中ハ別段税金ハ徵收不致積ニ有之候此段添テ相伺候
 附令 十九年三月十八日
 何ノ趣總テ申出ノ通可相心得事
 但營業税不納ニ係ルモノハ本文ノ限外ト心得ヘシ

●菓子税則不納處分方ノ件長野縣ヨリ大藏省ヘ伺 十九年四月二十四日

第一條 菓子製造營業ニシテ卸小賣兼業ノモノ當十九年分前中期營業税上納済ノ後十八年第二期七月ヨリ十二月三ニ係製造税徵收ニ付テ該税不納ニ付キ成規ノ趣直ニ處分ニ付テ手製物品並ニ器機鑑札等ヲ兼押ヘ營業ヲ停止セリ然ルニ卸賣小賣等ヲ兼メル者、營業税ハ税額多キ分ニ引付テ營業税ヲ徵收ナル儀ニ有之今營業税ノ最多キ製造税不納ノキメ製造營業ヲ停止スルルハ營業モ之ト共ニ附帶シニ營業權消滅スル儀ナラヤ
 第二條 菓子製造營業ノ不納ニ係ルモノハ假令營業税ハ重キ分ニ付キ徵税スルモ製造營業ノミ停止シ卸小賣ノ兼業ヲ

不問ニ措クモノトスレハ卸小賣ノ營業稅ハ更ニ徵收セサルモ差支ノキヤ

第三條 卸小賣業停止ノ限ニテラストスレハ兼業ニ屬スル卸小賣業札面米穀製造ノ文字ヲ塗抹シテ取扱主任之ニ認印スヘキヤ

第四條 前條製造稅不納處分ヲ受ケ物件ヲ公賣ニ付シ其金額ヲ納稅ニ充テ剩餘アルハ本人ニ還付シ不足ノルハ官ノ損失ニ歸スルハ勿論假令公賣處分ヲ受ケルモ納稅義務ヲ盡シタルモノハ重テ營業スルヲ得ルモ若シ納稅義務ヲ了セルモノ其不足稅ヲ完納シ營業出願スル場合ニ於テハ其年ノ前中期營業稅ハ已ニ納済ナレハ直ニ營業セシムヘキヤ又ハ更ニ營業稅ヲ徵スヘキ哉

指令 十九年四月一日

何ノ趣在ノ海可相心得事

第一條 兼業ハ消滅セス

第二條 當期ノ營業稅ハ徵收スヘキモノニアラス

第三條 申出ノ通

第四條 卸小賣ノ兩業ニ對スル稅額ト製造業ノ稅額ト比較シ其増減アルモノハ其差額ヲ徵收シタル上差額ナキモノハ直ニ營業ヲ許スヘシ

●菓子稅ノ件愛知縣ヨリ大藏省ヘ伺十九年三月廿七日(十九年四月八日官報)

菓子製造人ノ製造高ヲ帳簿ニ記載スルハ賣上ケ高等ニ參照檢査緊要ナルモノナレハ之カ記載ヲ怠リ又ハ詐偽ノ記載ヲ爲シタルモノハ稅則第十四條ニ包含スルモノト解釋シ該條違犯ノ廉ヲ以テ告發シ可然哉

指令 十九年四月二日

何ノ折稅則第十四條ノ帳簿トハ稅則取扱心得書第十三項ノ菓子賣上帳及製造原品買入帳ニ限ル範疇ト可相心得事

●菓子營業者轉業ノ節鑑札書換ノ件靜岡縣ヨリ大藏省主稅局ヘ問合十九年八月九日(十九年八月廿一日官報)

菓子營業者ノ内營業ノ都合ニ因リ露店呼賣事業ヨリ普通營業又ハ普通營業ヨリ露店呼賣ニ轉業スルモノハ鑑札ハ露店呼賣ノ廉加除訂正主任者檢印ノ上下與シ苦カラヌヤ又ハ新鑑札書換下與スヘキヤ御明示相成度

回答 十九年八月十八日

御問合ハ菓子營業者轉業ノ節鑑札書換ノ價ハ後段御見込ノ通

●菓子營業者廢業後再營業ノ者納稅ノ件ニ付靜岡縣ヨリ大藏省主稅局ヘ質問

二十年四月八日(同月二十八日官報)

菓子製造兼小賣營業ニシテ雇四人チ有スルモノ納稅後ソノ製造ヲ廢シ雇一人ノ小賣トナリシカ其半期中再ヒ雇一人ヲ増シ製造兼小賣トナリシモノアリ疑ノ製造ハ一旦廢業シタルモノニ付更ニ製造ニ對シ其四五拾錢ノ營業稅ヲ徵收シ然ルヘキモノト思考スルモ明治十八年六月二日栃木縣ヨリノ照會並ニ回答書(栃木縣照會ニ云フ小賣營業者雇云フ該營業者ノ廢シ卸賣一方ニ轉シタルトキハ稅額ニ三圓ノ差額ヲ生スルモ)ノ精神ニ據レハソノ半期中既ニ納稅シタルモノ限リニアラスヤ(回答 卸賣ニ轉業スルモノハ其差額ヲ追徵ス)ノ精神ニ據レハソノ半期中既ニ納稅シタルモノ以テ更ニ營業稅徵收セサルモノ可ナルモノ、如シ又茲ニ一ノ論點ヲ掲ケレハ廢ニ製造兼小賣タリシトキ雇三人以上アル者ノ稅金半期五圓ヲ納メタルハ單リ製造ノミナラス併セテ小賣稅ナモ納メタルノ資格チ有スルカ故製造營業ヲ廢シタル後ハ雇一人アル小賣營業ト認メサルヲ得然ラハ雇一人ヲ増シ再ヒ製造營業ヲ願フ者ハ其營業稅ノ差額即チ差額ヲ徵收シ可然ヤ

回答 二十年四月二十三日

菓子稅則第八條ノ精神タル他ノ諸稅則ノ營業稅ト大ニ其趣チ異ニシ即チ一旦甲種ノ業ニ就テソノ免許ヲ受ケタル者ハ他日乙種又ハ丙種ヲ兼スルトモ若クハ乙丙兩種ヲ兼スルトモソノ營業稅ハ當初甲種ノ納稅金額ニ照シテ不足ナサモノハ別ニ加徵スルヲ要セス若シ不足アルモノハ其差金タテ追徵スルニ止ムルヲ當然トス今般實議ノ場合ノ如キハ再營ノ稅金ヲ徵收スルニ及ハサルハ無礙トス

●菓子稅則取扱方ノ件(秋田縣)問合明治廿一年四月五日

菓子稅則取扱方則示アリ其二項取査員ノ意見トハ製造人各自ニ就テノ事力又四項取査員ノ報告トアルハ意見ノ既

答ナルヤ御報アレ

(大蔵省主税局)回答 明治廿一年四月五日

前段ハ御見込ノ通り後段ハ郡區長ノ求メト否トニ拘ラス検査シタルキ必要ト認メ郡區長ニ報告シタル書類ヲ云フ

菓子税則取扱方要領ノ件(神奈川縣)照會明治廿一年四月六日

菓子税則改正相成候ニ付取扱方要領大蔵大臣ヨリ訓令有之候處其第四項ニ租稅検査員ノ報告書云々ト有之右報告書トハ同第二項ニヨリ郡區長カ検査員ニ意見ヲ聽キタル場合之ニ對シ検査員ノ費上ケ見込額ヲ各營業者ノ届出高二比照シ其意見アルモノヲ報告スル儀ニ可有之哉又同第六項ノ精神ハ検査員ハ常ニ一般營業者ノ分限並ニ其不正ヲ巡視シ内正業者ニ對シテハ寛待ノ検査ヲ與ヘ不正業ニ向テハ嚴密ノ検査ヲナスト云フ意歟將々正業者ニハ検査ヲナキス單ニ不正業者ノミニ検査ヲナス儀ニテ果シテ然ラハ稅則第十五條ノ検査ハ不正業者ニ向テ施行スルニ止マル儀ニ可有之乎隨テ前報報告書ハ隨時臨檢セシ不正業者中意見アルモノトミニ就テ之ヲ報告スル儀ト心得可然乎

(大蔵省主税局)回答 明治廿一年四月十日

要領第四項報告書トハ第二項郡區長ヨリ意見ヲ聽キタルトキ報告スルモノニ非ラス又不正業者ニ關スル意見ノミヲ報告スルモノニモ無之部テ検査員ニ於テ正業者不正業者ノ別ナク稅額調査上必要ト認メタル車狀アルトキハ何時モ報告スヘキ儀ニ有之又第六項検査ハ不正業者ノミニ止ムルト云フノ精神ニハ無之正業者ト雖モ必要ト認ムル場合ニ於テハ何時モ臨檢スルハ勿論ニ有之只不正業者ト同ク類繁臨檢シテ彼レカ營業ノ傾ヲナス等ノ弊ナキナ期スルノ精神ニ有之候

菓子税則取扱心得及取扱要領中疑義ノ件(長野縣)同明治廿一年四月七日

本年二月勅令第八號ヲ以テ菓子税則御改正相成續テ三月廿日付ヲ以テ本年七月以後該稅則取扱方要領御訓達相成候處左ノ各項疑義ニ涉リ候間相伺候

第一項 菓子税則第十四條御改正ニ付テハ同則取扱心得書第十三項ハ消滅ノ義ナルカ果シテ然ラハ稅額調査ノ材料ナキニヨリ便宜縣令ヲ以テ相定メ可歟

第二項 御訓達第一項ハ各營業人ヨリ届出タルモノヲ調査ノ上不相當ナキモノト認ムルモ製造高價上高納稅額一人別表ヲ製シ租稅検査員ニ付廻シ當否ノ如何ヲ聽クノ精神ナルヤ

第三項 同第三項ハ一月一回カ又ハ二ヶ月ニ一回カ郡區長ニ於テ臨時検査ヲナシ豫想ヲ定メ置キ尙稅額ヲ調査スル前必ス郡區長各營業者ニ就キ視察スルノ儀ナルカ將々稅額調査ノ際ニ當リ視察スルノ儀ナルヤ又ハ同第四項ニ時宜ニ應ジ收稅長ニ協議ノ實地ノ検査ヲ求ムルコトアルヘシトアルヲ以テ見レハ郡區長ハ實地ノ検査ヲナサス唯營業者各自ヨリノ届出ト前期ノ製造高價上高等ヲ参照シ尙後營業上ノ盛衰ヲ察見ノ當否ヲ調査スルニ止ル儀ナルヤ

第四項 同第四項ニ郡區長ハ租稅検査員ノ報告書ヲ参照シ云々トアルハ同第二項郡區長ヨリ租稅検査員ノ異見ヲ聽ク爲メ廻付スル一人別表ニ對シ検査員ヨリ報道セシ報告書ヲ参照シ當否ヲ考察スルノ儀ナルヤ

(大蔵省)指令 明治廿一年四月十四日

同ノ趣第一項ハ山ノ通第三項以下ハ今般主税局長ヨリ收稅長ヘ廻付シタル菓子税則取扱方要領問答ニテ了解スヘシ

第百十八章

酒造稅則暨製營業稅則賣藥印紙稅則

烟草稅則ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則ノ證憑取調處

分方 明治十六年十一月二十日

酒造稅則暨製營業稅則賣藥印紙稅則烟草稅則ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則アリト認知シ若クハ思料スルトキハ其場所ニ立入り犯則ノ證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其實官吏ハ主任タルノ證憑ヲ携帶スヘシ

酒造稅則等ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則ノ證憑取調處分時限及立會方

明治十六年十二月二十一日

本年第四十三號布告ニ依リ人民ノ家宅内ニ立入り証憑取調ノ處分ヲ爲スハ日出後日没前ニ於テシ其地戶長若クハ用掛隣佑ノ内ナシ立會ハシメ候様取計フヘシ此旨相達候事

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

○酒稅其他諸印紙稅營業稅等逋稅取締ノ爲メ租稅

官吏ニ於テ警部以下ハ監査打合方

明治十一年五月三十日大坂省ヨリ府縣東京府ヲ除クハ逋

酒類稅其他諸印紙稅諸營業稅等逋稅取締ノ義ハ租稅專務ノ吏員警部等ト打合セ取締相立候儀勿論ニ有之候處當省租稅局員巡回ノ節モ其時宜ニヨリ直チニ警部以下ハ監査爲打合候義モ可有之ニ付豫メ警部以下ハ相達置可申此旨相達候事

●伺指令

●租稅官吏職務上家宅搜查ノ儀ニ付長崎縣ヨリ司法省ヘ伺(電報)十七年一月十日

客年第四十三號公布ニヨリ主任官吏規則ノ証憑取調ルル本入拒ムトモ家宅倉庫ヲ搜查スルノ權アリヤ

指令 十七年一月十四日

客年第四十三號公布ニ依リ家宅倉庫搜查ノ件ハ何ノ通

●郡區役所書記ニ於テ稅則違犯者取調處分ノ儀ニ付京都府伺十七年四月十日

明治十六年十二月第四十三日布告酒造稅則營業稅則賣烟稅則等ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則アリト認知シ若シクハ思料スルトキハ其場所ニ立入り犯則ノ證憑取調ノ處分ヲナスコトヲ得但其實吏ハ主任タルノ證憑ヲ携帶スヘシトアリ右ハ郡區役所租稅取扱主任ノ書記ニ於テモ同様處分スルヲ得ヘキ儀ニ候哉果シテ然ラハ證憑ハ其郡區役所ニテ寫宜調製致サセ該費用ハ國稅徵收費ノ内ヨリ支出致シ然ルヘキ哉

指令 十七年四月十九日

伺ノ趣郡區書記ヲシテ國稅檢査ニ係ル事務爲取調儀ハ不相成ト可心得申

第百十九章 地方稅規則 明治十三年四月八日 第六號布告

明治十一年(七月)第十九號布告地方稅規則左ノ通改正候條此旨布告候事

第一條 地方稅ハ左ノ目ニ從ヒ徵收ス

- 一 地租三分一以內
- 一 營業稅并ニ雜種稅
- 一 戶數割
- 第二條 營業稅雜種稅ノ種類ハ別段ノ布告ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目左ノ如シ
 - 一 警察費
 - 一 警察廳舍建築修繕費
 - 一 土木費
 - 一 區町村土木補助費
 - 一 府縣會議諸費
 - 一 衛生及病院費
 - 一 教育費
 - 一 區町村教育補助費
 - 一 郡區廳舍建築修繕費
 - 一 郡區吏員給料旅費及廳中諸費
 - 一 救育費
 - 一 捕役場及難破船諸費
 - 一 諸通書及揭示諸費
 - 一 勘業費

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

十八年九月號內務省令
 以テ其地所
 有者其地所
 居住所ノ長
 所住ルニテ
 地力稅サレ
 納ムル爲メ
 代人ナル定
 府人ナル定
 府人ナル定
 府人ナル定
 府人ナル定
 府人ナル定
 府人ナル定

一戸長以下給料旅費
 一地方稅取扱費府縣廳ニ屬スル爲換方給料爲
換手數料現金運送等ノ費用
 一府縣廳舍建築修繕費
 一府縣監獄費
 一府縣監獄建築修繕費
 以上費目互ニ流用スルコトヲ許サス
 一豫備費豫算外ニ生シタル事件ノ費途
及豫算ノ臨時不足ニ充ツ者
 右ノ外特ニ費目ニ増加ヲ要スルトキハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大
 藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ
 第四條 其年四月ヨリ翌年三月迄ヲ一週年度トナシ府知事縣令ハ前年十月迄ニ地方稅
 ナ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算並地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣
 會ノ議決ヲ取り其年二月ヲ以テ內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ
 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事件數年ヲ期シテ施行スルモノハ初年ニ於テ其年期間各年
 度ノ經費豫算ヲ定メ府縣會ノ議決ヲ取り府知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀シ認可ヲ得テ
 其年期間之ヲ施行スルコトヲ得
 第五條 非常ノ費用ハ(豫算ニ立ツルヲ得サル天災時變ノ費用豫備費ヲ以テ給足セサル
 モノヲ云)別ニ賦課スルヲ得ルト雖モ其府縣會ノ議決ヲ取り內務卿及大藏卿ニ報告ス
 ヘシ

前年度經費決算ノ場合ニ於テ已ムヲ得サル事故アリテ費目中不足ヲ生スルモノアル
 トキハ府知事縣令ハ府縣會ノ議決ヲ取り其補充費ヲ徵收スルコトヲ得
 第六條 地方稅徵收ノ期限ハ府知事縣令適宜ニ之ヲ定ムヘシ
 第七條 府知事縣令ハ一週年度間ノ出納ヲ計查シ精算帳及計表ヲ製シ翌年通常會議ノ
 初メニ於テ之ヲ府縣會ニ報告シ然ル後內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ
 第八條
 第九條 島嶼ノ地方稅ニ係ル經費ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀
 シ其裁定ヲ得テ本屬府縣ノ經費ト之ヲ分別スルコトヲ得
 第十條

○營業稅雜種稅ノ種類及制限明治十三年四月八日
第拾七號布告

明治十一年^{十二}第三十九號布告地方稅中營業稅雜種稅ノ種類及ヒ制限左ノ通改正候條
 此旨布告候事

第一條 營業稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ但國稅アルモノハ課稅ノ限ニアラス十五年第三
號布告ヲ以
テ全條
改正

商業
工業

第二條 雜種稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ同上
 料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店ノ類
 湯屋

第十二條 租稅及貨紙幣公債區區村費

理髮人
備入受宿

遊藝師匠遊藝隊人相撲俳優習問藝妓ノ類
市場

演劇其他興行遊覽所

遊技場 玉突大弓揚弓
射的吹矢ノ類

入寄席

船 船漁船海艇及五車馬車人力車荷積馬車荷積大ヒ大
十石未滿海艇 八車荷積中車荷積牛車ノ類

但國稅ノ額ヲ超過スヘカラス

水車

乘馬

屠畜

漁業採藻ノ類

但漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若シ其慣例ヲ改正シ又
ハ新稅ヲ賦課セントスルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩
卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

第三條 同上
削除

第四條 府知事縣令ハ府縣會ノ決議ヲ以テ第一條第二條類目中ニ於テ賦課スル者ヲ取

捨スルヲ得

第五條 府知事縣令ハ其賦課スヘキ各業ノ盛衰ヲ觀察シ府縣會ノ決議ヲ以テ各個ノ稅
額ヲ査定スヘシ 同上(決議ヲ以テ)
ノ下八字ヲ削ル

第六條 同上
削除

第七條 同上

第八條 第四條第五條ニ於テ確定シタル課目課額ハ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ報
告スヘシ

第九條 第一條第二條課稅種類ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ
府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ 同上(第三條)ノ下(第三條稅
目)ヲ改メ(課稅種類)トス
明治十四年三月八日
第拾七號布告

○集治監ニ入ルヘキ囚徒並ニ其費用區分方

集治監ニ入ルヘキ囚徒並ニ其費用ノ區分區分ノ內左ノ通相定メ本年七月ヨリ施行候條
此旨布告候事

第一條 集治監ニ入ルヘキ囚徒ハ刑期終身ノ者及ヒ國事犯刑期五年以上ノ者トス其費
用 府縣會ニ向留中ノ費用并ニ
集治監ニ押送ノ費用トモ 國庫ヨリ支給スヘシ

第二條 府縣會ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在ル者ノ費用ハ其刑ヲ宣告セシ地方ノ
地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

○官用ノ船舶車馬ヘ地方稅ヲ賦課スルヲ得ス

明治十五年十月廿八日
內務大藏兩省乙第七拾

五號府縣(函館浦津札幌
根室ノル縣ヲ除ク)ニ達

官用ノ船舶車馬ハ明治十六年度以降地方稅ヲ賦課スルヲ得サル儀ト可心得此旨相達候事
但從前ノ達及指令之ニ矛盾スルモノハ廢止ス

○皇族所有ノ車馬ハ地方稅ヲ賦課スルヲ禁ス

明治十六年六月九日
內務大臣兩省乙第三拾

號府縣(函館札幌根室
浦津四縣ヲ除ク)ニ達

皇族所有ノ車馬ハ明治十六年度以後地方稅賦課不相成候條此旨布告候事

○乘馬飼養令ニ依リ飼養スル乘馬ハ地方稅ヲ賦課セス

明治十七年十
月八日第八拾
三號府縣ニ達

本年八月第六十六號達ニ依リ飼養スル乘馬ハ地方稅ヲ賦課スルノ限リニ在ラサル儀ト心得
得ハシ此旨相達候事

○地方稅不納者公賣ノ未欠額及地方稅年度末殘額處分方

明治十
一年十一月二十八日
內務省乙第七拾九號府縣ニ達

本年第十九號公布中左ノ條々處分方心得ノ爲メ相達候事

一 地方稅ヲ不納スルモノ十年第七十九號公布ニ據リ財產公賣徵收スルモ猶不足スル片

ハ其欠額ハ管内一般ノ損失トシ賦課スヘシ

一 地方稅年度尾ニ至リ其一年度間ノ出納實費ニ就キ殘額アル時ハ之ヲ翌年度ニ繰越ス

ヘシ 十三年乙第四十四號省達ヲ
以テ結尾三十六字ヲ削ル

○地方稅ヲ以テ施行スル事業ニ對シ寄付スル金穀物件仕拂

及仕用方

明治十五年十二月二十七日內務大臣兩省乙第七
拾五號府縣(函館浦津札幌根室四縣ヲ除ク)ニ達

地方稅ヲ以テ施行スヘキ事業ニ對シ寄付スル金穀物件ハ地方稅豫算ニ編入セス直ニ寄付
者指定ノ費途ニ仕拂及使用ス可シ此旨相達候事

但從前ノ令達訓示本文ニ抵触スルモノハ消滅ス

○囚人證人及無罪解放ノ者警察官吏ノ處分ニ依リ支給スヘ

キ旅費滯留日當仕拂方

明治九年十一月八日
內務省乙第七拾七號府縣(東京府ヲ除ク)ニ達

罪囚證人及無罪解放ノ者旅費支給方ニ付本年第六十三號及ヒ第百三十二號ヲ以テ公布
之趣有之候警察官吏ノ處分ニ依リ旅費滯留日當支給スヘキ分ハ渾テ警察費ヨリ可仕拂
此旨相達候事

○管内限諸達書及揭示諸費從來官費ニ係ル者支辨方

明治十二年
二月七日
第六號府
縣ニ達

明治十一年七月第十九號布告地方稅費目第十項管内限諸達書及揭示諸費并郡區役所ニ設
置スル布告類揭示場新築修繕諸費ノ儀ハ從來官費ニ係ル部分ト雖モ自今地方稅ヨリ支
辨スヘシ此旨相達候事

○營業鑑札下附及鑑札費支辨方

明治十二年四月四日
內務大臣兩省乙第七拾七號府縣ニ達

客年第三十九號公布中各業ノ者ハ鑑札下附儀ハ不苦ト雖モ鑑札料手数料等ハ收入不
致儀ト可相心得此旨相達候事

但鑑札下附之費用ハ警察上ヨリ下附スルモノハ警察費ヨリ支辨シ收稅上ヨリ下附ス
ルモノハ地方稅廳中費ヨリ支辨可致儀ト可相心得事

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

二百六十三

九平第六十
二號布告ヲ
以テ無罪證
人旅費ヲ定
ム(第二章百
四十五號)

十七年第六
拾六號訓示
以テ乘馬飼
養令(第二
百六十二號)

警察署分署建築修繕費國庫下渡金地方稅連帶支辨方

明治十三年四月三十日
官舎建築修繕費等官費ト相定候旨明治十年一月第十六號ヲ以テ相達置候處警察署分署建築修繕費ハ本年七月以後國庫下渡金ト地方稅ト連帶支辨スヘキ儀ト心得ヘシ此旨更ニ相達候事

警察上賞與等巡查以下ハ給與ノ分國庫下渡金ト地方稅ト

連帶支辨方
明治十三年五月二十日
警察上賞與吊祭扶助療治料等交付方ニ付明治八年十月當省乙第百卅四號達ノ趣有之候處十三年度ヨリ別途不相渡候條巡查以下ハ給與スヘキ分ハ警察費ニ屬スル國庫下渡金ト地方稅ト連帶支辨可致尤右賞與等伺届ノ節一般人民ト區別候儀ハ從前ノ通可心得此旨相達候事

警察官吏並ニ之ニ準スル傭内外人諸給與支給方

明治十四年三月十八日
但一般人民ハ給與候分ハ客歲第五十號公達ノ習途ヨリ支出スヘシ
本年二月第十六號布告第三條警察官吏並之ニ準スヘキ傭内外人ノ諸給與ハ從前ノ通國庫ヨリ支給ストアルハ是迄全ク國庫ノ支辨ニ係リシ費項ヲ指シタルモノニシテ地方稅ト連帶支辨ニ係ル費項ニ關係ナキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

巡查並警察諸傭等懲罰金巡查還納被服類及警察署不用品

賣却代金地方稅費ヘ仕拂方
明治十四年四月十一日
巡查並警察諸傭等懲罰金巡查還納被服類及警察署不用品賣却代處分方之儀ニ付明治九年當省乙第二十一號同年乙第九十五號同年乙第百八號本年乙第一號ヲ以テ相達候處右ハ相廢シ候條以來該金ハ地方稅一般ノ費途ヘ可仕拂此旨相達候事
但十三年當省乙第四十六號達中賣却金ノ項ヲ除ク外ハ總テ廢止ト心得ヘシ

國庫下渡金割合方

明治十四年四月十五日
本年二月第十六號布告第二條地方稅支出高拾分ノ三トアルハ警察費給高ノ内第三條ノ費用ヲ除キ餘ル金員ノ十三分ノ三ト心得ヘシ此旨相達候事

已決囚ニ係ル經費區分實地取計方

明治十四年七月二十一日
本年第十七號公布ヲ以テ已決囚ニ係ル經費區分等被定候ニ付テハ實地取計方左ノ通可心得此旨相達候事
一豫算ヲ以テ受入タル監獄費中國庫金ト地方稅トハ混一シテ諸費(懲役人ノ諸費)ヲ仕附置每一ヶ月ニ囚員ノ延數ニ照シ平均ヲ以テ一囚若干ノ費金タルヲ算出シ而シテ刑期終身ノ者ト國事犯五年以上ノ者ト延人員ニ乘シタル金額ヲ以テ國庫費ノ支出ニ可取計事
但臨時加給療養費埋葬費寫真費移轉費ノ如キ惣囚ニ關ラサル費項ハ其囚員限リノ平均ヲ以テ算出スヘシ
一府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在モノハ經費モ前項ノ例ニ依リ地方稅支出方可取計事

堤塘使用料並本貸渡料地方稅ニ合セ土木費ニ使用セシム

明治十四年七月二十九日
堤塘使用料及並本貸渡料ノ義ハ從來雜收入トシテ大藏省ヘ上納致來候處十四年度以

後ハ地方税ニ合セ土木費ニ使用スヘシ此旨相達候事

○集治監ニ入ルヘキ囚徒ノ費用管理方

明治十四年九月一日 内務省乙第四拾壹號警視廳府廳

東京府ヲ除ク

本年第十七號布告ニ係ル費用ハ當省ニ於テ管理候條該布告第一條國庫下附金ハ當省ヨリ可下渡候ニ付以後豫算帳及ヒ決算帳等渾テ當省ヘ可差出第二條地方税受拂方ハ集治監ニ於テ直ニ爲取扱候條此旨相達候事

○堤塘使用料下渡方

明治十四年九月二十八日 内務省乙第四拾六號府廳(沖繩縣ヲ除ク)ハ達

堤塘使用料之義ニ就テハ明治十一年九月乙第五十八號及本年七月乙第三十五號ヲ以テ相達候次第モ有之候處十四年度以降地盤ノ官民有ニ拘ラス使用地ノ修繕地方税負擔ニ係ル者ハ本年乙第三十五號達ノ通相心得協議費負擔ニ係ル者ハ協議費支出ノ町村ヘ下渡堤塘修繕費ニ充シムヘシ尤連帶支辨ニ係ル者ハ其主擔ノ方ヘ可属此旨相達候事

○警部長ニ属スル俸給雜給支辨方

明治十四年十二月十二日 内務省乙第六拾壹號府廳(東京府沖繩縣ヲ除ク)ハ達

本年十一月十九號公達警部長ニ属スル俸給及雜給ハ從前警部給與ノ内ヲ以テ支辨スル儀ト可心得此旨相達候事

○警察廳舎建築修繕費國庫金算出方

明治十五年一月二十六日 内務省乙第八號府廳(沖繩縣ヲ除ク)ハ達

本年第二號布告第三條第二項警察廳舎建築修繕費ハ警察費ヨリ分裂セシ科目ニ付客年第十六號布告ニ依リ國庫下渡金ヲ算出スル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○賣洋罰金支拂費目

明治十五年三月十三日 内務省乙第七號府廳(府廳(東京府沖繩縣并ニ北海道三縣ヲ除ク)ハ達

九年當省乙第廿五號賣洋罰金支拂費目相達置候處有ハ若使費警察探偵費ニ遣拂仍ホ餘リアノハ檢徵費ニ補充苦シカラスト改正ス尤モ徵收高及ヒ遣拂明細書届出ノ儀ハ從前

通ノ此旨相達候事

○警部給與ノ内俸給雜給ノ科目流用方

明治十五年六月十二日 内務省乙第三拾七號府廳(東京府

沖繩縣函館札幌根室ノ四縣ヲ除ク)ハ達

警部給與ノ内俸給雜給ノ科目 神奈川長崎ノ二縣ハ 彼是流用セントスルハ該金額前以當省ニ伺出候儀ト可心得此旨相達候事

○在府縣獄囚徒費小科目流用方

明治十五年十月十四日 内務省乙第五拾貳號警視廳府廳(東京府北

道三縣并瀧縣ヲ除ク)ハ達

在府縣獄囚徒費小科目(獄警費) 彼此流用支辨セントスルハ當省ヘ伺出候儀ト可相心得此旨相達候事

但本件伺出候節ハ金員仕譯書添付スヘシ

○傳染病ニ罹リ身元赤貧ノ者費用地方税衛生費ヲ以テ

支辨方

明治十四年三月三十號達左ノ通改正候條此旨相達候事

傳染病ニ罹リタル者身元赤貧ニシテ資力ナキトキハ本籍寄留旅行ヲ問ハス其費用ハ總テ發病地ノ地方税中衛生費ヲ以テ支辨スヘシ

○並木及堤防道路用悪水路土居敷等ニ生スル竹木枯倒

障害等ニヨリ拂下代金充用方

明治十六年四月三十日 内務省乙第拾

並木及堤防道路ハ川懸水路土居敷ニ生スル竹木枯倒障害等ニヨリ拂下代金ハ本年度以降明治十四年内務省乙第四十六號達ノ區分ニヨリ並木拂代金ハ並木植繼費ニ

其他ノ竹木拂代金ハ土木費ニ充テシムヘシ此旨相違候事
但本文ニ概欄セシ達ハ總テ廢止之儀ト可心得事

○監獄不用品賣拂代金看守罰金等國庫地方稅收入區分方

明治十六年十月二十七日 內務省乙第三拾八號集治監(樺戸空知三池) 三監ヲ除ク(府縣(東京府及沖繩縣)札根根室、四縣ヲ除ク)ヘ達
國庫下付金及地方稅受ケ入シテ以テ混一ノ上罪囚ノ刑期ニ區分シ十四年內務大藏兩省
達乙第三十四號計算法ニ照據購入セシ監房常備ノ器具ヲ始メ戒具雜具等不用物品賣拂
代金及看守罰金等納入方ノ儀國庫地方ノ區分計算ニ據ラヌ十五年度以降集治監ニ生
セシモノハ總テ國庫ヘ收入シ警視廳及府縣ニ生セシモノハ地方稅ヘ收入セシモ候條此
旨相違候事

○警費ノ內府縣下渡金交付方

明治十七年六月十二日 內務省乙第貳拾八號
府縣(沖繩縣北海道三縣ヲ除ク)ヘ達

警察費ノ內府縣下渡金ノ儀從來大藏省ヨリ直チニ交付シ來リ候處十七年度以降當省ヨ
リ交付候條此旨相違候事
但請求書ノ儀ハ警部給與附外國人給與ト各別ニ調製シ受取方中出候儀ト心得ヘシ

○在府縣獄囚徒費取扱方

明治十七年六月十二日 內務省乙第貳拾九號警視廳府縣(沖繩縣北海道三縣ヲ除ク)ヘ達

在府縣獄囚徒費取扱方左ノ通改定候條十七年度ヨリ施行スヘシ此旨相違候事
但十四年七月內務大藏兩省乙第三十四號同年九月乙第四十二號十五年十月乙第五十
三號之達ハ十六年度限リ廢止ス
一 集治監ニ入ルヘキ囚徒ニシテ府縣獄ニ在ル者檢束衣食一切從前ノ缺費已ノ費用トシテ
一 囚一日ニ付金貳拾錢ヲ交付スヘシ
一 但朝夕出入アルモ各一日ヲ以テ計算スヘシ
一 十四年十月乙第五十三號達之內現行表ハ差出ニ不及前々年度中宣告濟人員ニヨリ左
ノ科目表ニ照據豫算帳調整定期ノ通差出スヘシ
但十七年度分ハ差出ニ及ハス
(科目表略之)

○輕罪控訴被告人ニ係ル拘禁中ノ諸費支辨方

明治十八年四月二十四日 內務省甲第拾三號警視廳

輕罪ニ係ル控訴之儀ニ付本年第二號ヲ以テ公布相成候付テハ控訴裁判所管轄區域內各
地方ヨリ控訴ヲ爲シタル被告人ニ係ル拘禁中ノ諸費ハ總テ最前裁判言渡アリタル地方
ノ地方稅ヲ以テ支辨シ其費用交付方等ハ客年當省乙第貳拾九號達ニ準據シ可取計此旨
相違候事
但控訴或決後己決囚ニ屬スル諸費モ本文同様可心得事

○警察費警察廳舍建築修繕費豫算原按額屆出期限

十五年十月廿日 內務省乙第五十

本年第二號布告ニ依リ十六年度以降警察費并ニ警察廳舍建築修繕費ニ對スル國庫下渡
金豫算調整ノ都合有之ニ付右科目毎年度府縣會ニ附スヘキ豫算原按額ハ前年十一月廿日
限リ其地發遣及該會議決額ハ認可次第左ノ書式ニ照據シ當省ヘ可届出此旨相違候事
但豫算外臨時費用ヲ議決シ又ハ豫備費ノ支出ヲ要セシキハ其事由ヲ具シ本文書式ニ
倣ヒ届出ヘク且客年當省乙第二十三號并ニ乙第五十六號達ハ相廢シ候事
(用紙通常界紙ヲ以一通)

向年度警察費及警察廳舍建築修繕費 原按額 御届

高金 爰ニ高金ヲ掲クルハ外書ニ
記載スヘキ金額有之キノ例

一金

警察費

內金

地方稅 國庫下渡金

右二項ハ十四年第十六號公布及第二十八號公達ニ屬スル金
額ヲ掲クルモノニテ東京府ハ地方稅二十萬圓ナレハ國庫下
渡金ヲ三十萬圓トシ其他ハ地方稅十萬圓ナレハ國庫下渡金
ヲ三萬圓ト記載スルノ例

第十二類

租稅及貨物幣公債區町村費

金 金 寄附金

此項ハ神奈川兵庫長崎高知鹿兒嶋ノ五縣ニ限ル

寄附金

此項ハ警察費ニ寄附金有之キノ例尤此金額ニ對スル國庫下
渡金ハ無之事

賣淫罰金

右二項ハ警察探偵費ニ補充スル外書ニ記載スルノ例

俸給

高金 爰ニ高金ヲ掲クルハ外書ニ
記載スヘキ金額有之キノ例

外金

諸賦金

賣淫罰金

警察廳舎建築修繕費

地方稅

國庫下渡金

全別途金

右二項ハ警察費ト全シ割合ヲ以テ記載スルノ例

此項ハ神奈川兵庫長崎ノ三縣ニ限リ從前警察費ニ屬スル別
途金ヨリ分裂スヘキ金額有之キノ例

寄附金

此項ハ建築修繕費ニ寄附金有之キノ例尤此金額ニ對スル國
庫下渡金ハ無之

金 金 內 譯

右者何年度地方警察費及警察廳舎建築修繕費豫算原按額前書之通ニ有之候也

新築費

修繕費

年月日

縣知事 氏名 印

○警察費並警察廳舎建築修繕費届出方

警察費並警察廳舎建築修繕費ニ於テ豫算外ノ費用支出ヲ要セシキ十五年當省乙第五十
六號達但書ニ據リ届出ノ儀國庫下渡金調理ノ都合有之自今該年度出納閉鎖ノ期三箇月
以前可届出此旨相達候事

○警官練習所受業生ニ係ル費用支辨方

警官練習所受業生ニ係ル費用ハ地方警察費ヨリ可致支辨此旨相達候事

京府沖繩縣ヲ除クハ違

但警官練習所受業生ニ係ル費用ハ地方警察費ヨリ可致支辨此旨相達候事

○陸海軍軍法會議ニ於テ處斷受ケタル囚徒ノ費用支辨方

陸海軍軍法會議ニ於テ輕重懲役及ヒ剝官ヲ附加シタル禁錮ノ刑若クハ普通刑法ニ依リ
懲役禁錮ノ處斷ヲ受ケ官職ヲ失ヒ軍籍ヲ除カレタル囚徒ニ係ル費用ハ來ル二十年度以
後軍法會議所在地ノ地方稅ヲ以テ支辨ス可シ

但從前陸海軍軍律ニテ處斷セラレタル囚徒ニ係ル費用ハ明治十四年三月第十七號公
布ニ依リ區分シ陸海軍刑法ニテ徒刑流刑禁獄ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル費用ハ

國庫費ヨリ支給スヘキ儀ト心得ヘシ
右相違ス

○府縣立醫學費用地方稅ヲ以テ支辨

朕府縣立醫學核費用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽
明治二十年九月三十日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
文部大臣子爵森 有禮

勅令第四十八号

府縣立醫學核ノ費用ハ明治二十一年度以降地方稅ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得ス
○地方稅經濟ニ關スル樹木拂下處分方 二十一年七月九日內務省訓令第四十号府縣沖繩縣除ク

地方稅經濟ニ屬スル樹木拂下ノ儀ハ自今其應限リ處分シ翌年二月二十日ヲ發送期限トシ當省ヘ報告スヘシ

○府縣管理ニ管スル飲用水道及公葬墓地維持保存方法經費

徵收方

二十年十月十九日
內務省訓令第四十四號府縣

府縣管理ニ係ル公園飲用水及公葬墓地ノ維持保存方法經費徵收方法及其所屬現在ノ建物種類又ハ木造類軒數等取調本年十二月限リ届出仍ホ將來之ヲ變更増減スルコトアルニ於テハ其都度可伺出經費ノ儀ハ收出豫算並精算共毎年 精算ハ前年度一月限リ
豫算ハ前年度九月限リ 當省ヘ報告スヘシ

○地方稅支辨ニ係ル諸費收入豫算議案並ニ精算報告書式中

改正 二十一年十一月五日
內務省令第三號

一地方稅ノ支辨ニ係ル道路ノ並木枯損木拂代金ハ明治二十一年度ヨリ該年度地方稅土木費雜入ニ組入レ並木植續費ハ該土木費ヨリ支出スヘシ
一地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スル寄附金ノ支出豫算議案及精算報告書式ハ明治二十一年度ヨリ警察費國庫下渡金ノ例ニ準シ寄附者指定ノ費目ニ於テ地方稅ト寄附

金ト内譯ヲ爲スヘシ

一物件ノ寄附又ハ年賦寄附等ニシテ通常豫算ニ編入シ難キモノハ便宜別議定ニ付スルコトヲ得

一明治十五年トニ内務大藏兩省乙第七十二号達地方稅收入豫算議案並精算報告書式中戸數割ノ次々計以下明治二十一年度ヨリ左ノ通改正ス

收入豫算議案書式

雜收入

一金

内譯

金

金

金

金

金

金

金

金

合計金

收入豫算報告書式

△豫算金

一金

内譯

△印ハ朱書

雜收入

警察費雜入

土木費雜入

何 費雜入

何 費雜入

前々年度ヨリ繰越金

國庫下渡金

國庫補助金

寄附金

△豫算金
 金
 △豫算金
 金
 △豫算金
 金
 △豫算金
 金
 △豫算金
 金
 △豫算金
 金
 △豫算金
 金
 合計金

警察費雜入
 土木費雜入
 何 費雜入
 前々年度分何稅延納
 何々年度ヨリ繰越金
 國庫下渡金
 國庫補助金
 寄附金

○警察費ノ内地方稅連帶支辨金支出及殘金納付

報告方

二十一年二月二十五日內務省訓令第四號府縣(沖繩縣ヲ除ク)

警察費ノ内地方稅連帶支辨金支出方之儀ハ二十年度以降總テ精算拂トナシ爾後決算之

上殘金ヲ生セシハ戻入ニ相立ヘシ

但シ會計整理期限後ニ於テハ精算拂ノ儘据置キ決算ノ上該殘金ハ直ニ現年度ノ第二部歲入トシテ國庫ヘ納付シ其旨當省ヘ報告スヘシ

○地方稅又ハ區町村費ノ支辨ニ係ル堤塘使用料及道路並木布貸渡料等ニ屬スル竹木拂代金取扱方

二十一年七月十七日內務省訓令第十七號
內務大臣連帶府縣(沖繩縣ヲ除ク)

地方稅又ハ區町村費ノ支辨ニ係ル堤塘使用料及道路並木布貸渡料其他同上ノ並木及堤塘道路用惡水路土居布等ニ屬スル竹木拂代金ハ左項ニ準シテ取扱フヘシ
 但本文ニ抵觸セシ從前ノ指令訓令ハ取消ス

一 修繕費ノ全部ヲ地方稅ヨリ支辨スル箇所ノ收入ハ地方稅ヘ其區町村費ヨリ支辨スル箇所ノ收入ハ區町村費ヘ毎年度ニ於テ編入セシムヘシ

一 修繕ハ區町村費ノ主擔ニシテ地方稅ノ補助ニ係ル箇所ノ收入ハ區町村費ヘ編入セシムヘシ

一 地方稅ト區町村費ト修繕ノ主擔ヲ定メスシテ分擔支辨ニ係ル箇所ノ收入ハ其支出金額ノ歩合ニ隨ヒ編入セシムヘシ

一 地方稅ト區町村費ト年々修繕負擔ヲ異ニスル箇所ノ收入ハ該年度負擔ノ方ニ編入セシムヘシ

一 區町村費ノ支辨ニ係ル堤塘道路用惡水路土居敷修繕費及並木植繼及保護費ハ區町村

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

費中土木費ヨリ支出セシムヘシ

一前各項ノ收入金ニノ府縣廳へ積置タル分ハ前各項ニ準據シ本年度中悉皆交付スヘシ

○地方税中警察費ニ對スル國庫下渡金割合

明治廿一年八月六日勅令第六十一號

朕地方税中警察費ニ對スル國庫下渡金改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名、御璽

明治二十一年八月六日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
内務大臣伯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第六拾壹號 (官報八月七日)

明治十四年(二月)第十六號布告府縣警察費ニ對スル國庫下渡金ノ割合左ノ通改正ス

第一條 地方税中警察費及警察廳舎建築修繕費ニ對スル國庫下渡金ノ割合ハ東京府ハ

其總高ノ拾分ノ四トシ其ノ他ノ府縣^{沖繩縣ヲ除ク}ハ六分ノ一トス

第二條 前條割合ノ外警察官吏並ニ之ニ準スヘキ備内外國人ノ諸給與警視廳ノ廳費ハ從前ノ通國庫ヨリ支給ス

第三條 本令ハ明治二十二年度ヨリ施行ス

●伺指令

●並木拂代之儀ニ付新潟縣ヨリ内務省へ再伺十六年六月廿二日

去月十八日並木拂代金處分方相伺候處地方税負擔ト協議費負擔トニ拘ラス總テ本年乙第十九號達之通可心得旨御指令相成候テハ其他ノ修繕假令地方税ノ負擔ニ係ルト雖トモ其並木古損木拂代金ハ地方税准收入ニ編入セズ直ニ其費

途ニ支辨スル儀ニ候得共其補綴費ハ地方税土木費中ニ編入セサル儀ニ候哉將タ從前ノ通り之ヲ編入スルモノトセハ土木費中補綴費ノ一項ヲ別ニ掲ケ古損木拂代金ヲ以テ其費ニ充ツルノ儀ニ候哉是ニ相伺候也

指令 十六年八月二日

伺之趣補綴費ハ土木費中へ編入シ拂下代金ハ土木費雜入ニ併算シ其内詳ハ說明書ニ掲載可致事

●並木拂代金支辨ノ儀ニ付新潟縣ヨリ内務省へ伺十六年六月五日

本年四月三十日乙第十九號御達中(並木拂代金ハ並木植樹費ニ其他ノ竹木拂代金ハ土木費ニ充テシムヘシ)ト旨之右並木植樹費^{シテ下ケ渡シタル代金ノ内植樹ヲ始メ間斷ノ箇所等苗木植付費用金引去ルモ尙殘金有之節ハ其殘金土木費ニ充テ支辨セシメ可然哉}

指令 ^(大藏省) 十六年八月十三日

書面伺之趣並木植樹ノ費用ニ充テ尙殘餘アルモ翌々年度へ繰越シ植樹費ニ充用候儀ト可心得事

●監獄費取扱方之儀ニ付茨城縣ヨリ内務省へ伺十六年七月十七日

明治十四年乙第三拾四號ヲ以テ已決囚ニ係ル^{刑罰}費區分方御達ニ付已決囚ニ係ル^{刑罰}費ハ總テ一ヶ月間混一支拂置而シテ(本支 警備員延人員ニ分割シ國庫地方税ノ所費ニ精算致來條得共實際取扱上精算ナカラス隨テ精算ニ延滞ナ來シ不便候附輕罪囚ヲ使役スル一支費^{刑罰}如キ區界別明ニシテ所費 國庫金地方税金)ニ連帶セサルモノ、如キハ一ヶ月間混一支拂テ不要其時々該囚員限リ精算相立可然哉

指令 十六年八月十四日

書面伺之趣ハ從前之通可取計事

●已決囚ニ係ル經費區分ノ儀ニ付新潟縣ヨリ内務省へ伺十六年七月十三日

一已決囚ニ係ル經費區分ノ儀十四年御達乙第三拾四號達中懲役人トアルハ禁獄人モ含蓋候哉
一同條但書臨時加給以下五發目ノ如キ總囚ニ關費ヲサレ項其囚員限リ平均ヲ以テ算出云々トアリ假令ハ一箇月中兩度移轉有之甲ハ刑期終身ノ者ニテ乙ハ府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ自カラ入費ノ區分判然タルヲ以テ其部度官

第十二類 租税及貸紙幣公債區町村費

或ハ地方費ト直ニ本拂ニ相立可然哉又ハ一箇月中ハ官費地方費ノ區域ナ不同同一ニ支拂置月末ニ至リ其囚員限リノ平均ニ算出可致儀ニ候哉

一 監獄費ノ部刑具諸費ノ如キモ刑期終身ノ者及國事犯五年以上ノ者ヘモ分頭制ヲ以テ算出可致儀ニ候哉
一 囚人食費ノ如キ^{飯米代浴湯費}從前當縣ニテハ已未決混清仕賄置月末ニ至リ已未決延人員ヲ以各費用ヲ算出致來候ヘ共右ハ已未決兩囚ノ費用ト雖^{已未決}已決囚而已ニ割合候儀ニ候哉又ハ已決囚ニ係ル費用而已同囚延人員ニ算出候儀ニ候哉

指令 十六年八月十一日

第一條 已決囚ニ係ル費用ハ都テ含テス

第二條 後段伺之通

但集治監ヘ押送ノ費用ハ單ニ支辨フヘシ

第三條 刑具費ハ集治監ニ入ルヘキ囚徒ニ關係之レナシ

第四條 已決囚ニ係ル費用ノミ同囚延人員ヲ以テ算出スヘシ

● 監獄費取扱方ノ儀ニ付群馬縣ヨリ内務省ヘ伺十六年八月八日

監獄費兩庫地方費ト區分方ノ儀ニ付テハ明治十四年御省乙第三十四號御達ニ依リ諸費ヲ混一ニ仕賄延囚員ニ割合儀處國庫囚徒ノ在監セサル支署外役所等ノ費用モ混一ニ仕賄候テハ計算上ニ錯雜不跡且未決監ノ支署ニシテ備力輕禁緝捕留ノ刑ニ處セラレシ者アルカ爲ニ其費用ヲ^{監獄費}運帶ノ支辨ニ混入スルハ少シク妥當ナラサル慮思考候ニ付右支署役所外務全ク國庫囚徒ノ在監セサル處ノ費用ハ地方費ヲ以テ仕賄國庫囚徒ノ在監スル監署ノ費用ノミ國庫地方費ノ運帶ニ取扱不苦候儀

指令 十六年九月七日

書而伺之趣本支署ヲ開ハス已決囚ニ係ル費用ハ總テ混一可仕賄事

● 監獄費取扱ノ儀ニ付埼玉縣ヨリ内務省ヘ伺十六年六月廿六日

監獄費兩費區分其他取扱上疑義ノ件左ニ相伺候

第一條 明治十四年乙第三十四號ヲ以テ御達相成タル監獄費國庫金ト地方税金ト區分計算方ノ儀ハ一監獄内ニ集治監ト府縣獄トニ入ルヘキ囚徒混清シテ費用區分判然セサル者ヲ指シタル者ニシテ假令ハ一縣内ニ府縣獄トニ入ルヘキ囚徒ノミ使役スル支署アリテ自ラ費用區分判然ナル者殊ニ本署^(集治監ト府縣獄トニ入ルヘキ囚徒アルモノ)ノ經費ト混一配算セス直ニ地方税ノ支辨ニ取扱可然哉

第二條 果シテ前條ノ如クナルモ茲ニ一支署ヨリ常ニ府縣獄トニ入ル可キ囚徒ノミ使役スルトモ費用判然區分ナク看守係給及ヒ被服并厨具等中需用品囚徒ノ被服給具ノ類本署ニ於テ一同購求^{人員}ノ増減ニ應シ交付又ハ返還シ及ヒ本署ヨリ移轉セシムル囚徒ニ附着スル衣服物品等アリテ該支署ニ屬スル經費^ルヲ區分スルニハ錯雜ニシテ判別ニ手數ヲ要スルノミナラス細密區分難相立實際却テ不便ニ有之知斯ハ其支署ニ於テ支出スル囚徒食費ノ如キモ本署ノ經費ト混一シテ計算取扱可然哉

第三條 前條ニ反シ費用分界アル支署本署ニ各集治監ト府縣獄トニ入ル可キ囚徒ノル時ハ費用區分方一監獄毎ニ延囚員ヲ以テ計算ス可キ乎將々本署ニ混一シテ^(國庫金ト)地方税金ト^(地方税金ト)區分可相立哉

第四條 乙第三拾四號御達但當囚員限リヲ以テ計算ス可キ移轉費中假令ハ他ノ府縣ヨリ各地集治監ヘ押送スル囚人管内過傳中諸費ハ其都度區分判明ナルヲ以テ其時々本署トシ本支署ノ間ニ彼是移轉スル賄費實際區分難相立モノハ一箇月間混一仕賄置キ該囚員限リノ平均ヲ以テ計算相立可然哉

第五條 延人員ヲ算出スルニ茲ニ二法アリ一ハ飯料ノ如キモノヲ制賦法ニシテタニ入監シ朝ニ出監等極メテ多シ依リテ一日ノ飯數即チ三飯ヲ以テ一人トシテ延人員ヲ積算ス二ハ獄費其他ノモノヲ制賦法ニシテタニ入監スルト朝ニ出監スルモ皆一人トス尤朝ニ未決囚夕ニ已決囚ニナルモノ及ヒ本支署移轉發着同日ナルモノ前例ニ依テハ重複スルヲ以テ出ノ方ヲ扣除シ入ノ方ヲ増加シ延人員ヲ算出ス如斯延人員ノ積算ニ二例ヲ設ケ國庫費ト地方費モ配算取計可然哉

第六條 囚徒飯炊所已未決囚トモ一所ニシテ米價ヲ除クノ外費用區別難相成然レハ獨リ米價ヲ判知スルモ他ノ費用區分ナシカキ上ハ都テ一箇月間混併仕賄置キ兩囚延人員ヲ以テ計算區分シ可然哉

第十二類 租稅及貨細管公債區町村費

第七條 一構内ニ未決已決監アル獄舎ニシテ其區域判別シ難キ箇所(獄舎及周圍兩隣境界ノ)ノ建築修繕ハ源テ未決囚員ヲ併シ國庫費地方費ノ區分取扱可然哉

第八條 監獄費區分方每一箇月混一仕附置モ其月ノ延囚員ニ割合算出ハ勿論ニ候處假令ハ甲月ニ購買シタル品物ノ内年額ハ乙月ニ至リ仕用シ或ハ甲月ニ費消シタル品價ヲ乙月ニ下附スル時月々有之右現品支消シタル月ノ延囚員ヲ以テ割賦スヘキモノトスレハ手帳ナ煩スノミナラス獄舎ノ用紙薪炭油附木等ノ類ニ至リテハ實際差支行ハレ難キ次第ニ付右ハ囚徒一身上ニ係ル費送及糶被服費等ノ類ヲ除クノ外都テ代價仕拂タル月ノ勘定ハ獨入即チ其月ノ延囚員ニ割合可然哉

第九條 監獄則ニ在監人一人一日菜代金壹錢五厘以下日用雜費金一錢二厘以下アルニ依リ精々削減ヲ加ヘ定額ニ越超セサルヲ注意仕附フモ殊ニ給費ハ外役囚多數ナルヨリ雨天ニハ鞋ノミニテモ一人二三足ヲ要スルコト有之給費ハ附離ク甲月ノ超過ハ乙月ノ殘餘ヲ以テ補充來リ候ヘモ若シ年度決算ノ際定額ニ越超セシ時ハ不得止ニ付已決囚費ノ内菜代其他ノ有餘ヲ以テ支辨不費哉

第十條 働工錢收入區分方ノ儀ハ明文無之ニヨリ實際集治監ニ入ル可キ囚徒ノ收入ハ國庫費ニ差繰キ府縣獄ニ入ル可キ囚徒收入ハ地方稅雜收入ニ取扱ヒ來リ候ヘモ不用品ノ賣却代及ヒ罰金沒收入金等ハ派テ地方稅ノ雜收トシ可然哉

第十一條 徒刑ノ女囚無之時ハ女監取締ノ給料ハ國庫へ配算セサル儀ニ可有之哉
指令 十六年九月十九日
第一條 本支署費ハ區分ニ及ハス
第二條 債三條 前條指令ニ據ルヘシ
第四條 伺之通
第五條 一日中出入アルモ各一人ト爲スヘシ
但未決囚ヨリ已決囚トナルモノ及本支署移轉スルモノ、如キ一日中相跨ルモノ其當日ハ出ノ方ヲ扣除シ入ノ方

ヲ增加スヘシ
第六條 區分シ難キ費用ノミ混併シ先ツ未決囚ニ係ル分ヲ省キ其餘已決總囚員ヲ以テ算出區分スヘシ
第七條 前條指令ニ據ルヘシ
第八條 實際支消シタル月ノ囚員ヲ以テ算出スヘシ
第九條 定額ニ越超スヘカラサル儀ト心得ヘシ
第十條 不用物品賣却代等收入區分ノ儀ハ追テ何分ノ儀違スヘシ
第十一條 伺之通

●徒刑囚海路押送費用之儀ニ付山口縣ヨリ内務省へ電報伺十六年九月廿六日
本月七日付御達徒刑囚海路押送費用ハ沿道府縣ニ關スルカ本縣限ノ國庫費カ又看守押丁旅費ハ本縣地方費ト連帶スルカ將國庫費ノミノ支辨カ至急御指揮ヲ乞フ
指令 十六年十月六日

●監獄ニ係ル沒收金ノ儀ニ付三重縣ヨリ内務省へ伺十六年十一月十三日
國庫費支辨ニ係ル囚徒ノ働工錢及沒收金モ本年乙第三拾八號御達ニ據リ地方稅雜收入へ受入可然哉
指令 十六年十一月二十日

●監獄費國庫地兩費配算方ノ儀ニ付和歌山縣ヨリ内務省へ伺十六年十月十三日
監獄費國庫地兩費ニ算出方ノ儀ハ御省十四年乙第三拾四號及十五年乙第五拾三號御達ニ基クヘキニ付該費ノ支出ニ係ルモノハ則チ國庫地兩費ノ豫算金額(假令ハ國庫費有リト地方費四百圓ト都テ目的ト致居候處今般集治監へ入ヘキ囚徒ノ内七拾二名ハ宮城集治監へ押送スヘキ御達ニ從ヒ右押送費ノ上ハ殘囚僅方四名ニ有之然ルモ)ハ前條兩費支出ノ目

第十二條 租稅及貨紙幣公債區町村費

二百八十一

的ヲ以テ既ニ着手致候事物ニシテ該費ノ内既ニ若干金ヲ支拂セシモ看守押丁及囚徒ノ被服臥具ヲ新調スル爲メ其築築用材ヲ購求シ目下其事物猶半途ニシテ未タ決算ニ至ラサル者ニ在ツテハ忽チ配算ノ目的ヲ失スヘク去迎之ヲ悉皆地方ノ費負擔ニ歸セシメントスルモ稍財政上其宜キヲ得サル處ニ有之處如斯ハ當初ノ目的ニ因循シ其已ニ購買シ及購買ノ約束ヲ以今更破約シ難キ者ニ限リテハ假令之ヲ現用セサルモ此際決算シテ國庫兩費ニ配算シテ可然哉

指令 十六年十一月廿二日

伺之趣ハ實際使用シタル月ノ現囚員ヲ以算出スヘキ事

但越察費ハ囚徒集治監へ押送ノ日迄ヲ限リ事業落成ノ上總延人員ニ算入スヘシ

●監獄工業ニ係ル工錢收支金算出方ノ儀ニ付山形縣ヨリ内務省へ伺十六年十月八日

明治十四年七月廿一日附乙第三拾四號ヲ以テ御達申但書ニ開時加給療養費理葬費器具費移轉費ノ如キ總費ニ關ラサル費項ハ其囚員限リノ平均ヲ以テ算出スヘシト右之其他ノ明文ハ無之候得共工業費ノ如キハ各種ノ區分ヲ成サスシテ各囚員ノ延入頭ニ宛收支共算出候儀ハ穩當ナラサル點思考候間失張各種役業限リノ入頭ニ收支共割宛算出候儀可然哉此段相伺候也

指令 十六年十一月廿八日

伺之趣役業ノ何タルヲ問ハス定役ニ服ス可キ已決總囚員ノ延數ニ平均算出スヘシ

但定役ニ服セサル處刑ノ囚徒ト雖モ其役ニ就カシムルハ本文延數ニ算入スヘシ

●不用ニ屬スル地所建物賣却代金納入方ニ付岐阜縣ヨリ内務省へ伺十六年十月廿九日

本年九月乙第三拾八號ヲ以國庫下付金及地方稅受入金ヲ以混一ノ上罪囚ノ刑期ニ區分十四年内務大藏兩省達乙第三拾四號計算法ニ照據購入セシ監房常置ノ器具ヲ始メ戒具雜具等不用物品賣却代及看守初俸金等納入方之儀御達相成候成右ニ獄舎其他地所建物ハ明文無之候得共索ヨリ該計算法ニ依リ支出シタル者ニ付若シ不用ニ屬シ賣却シタルハ乙第三十八號御達ニ準據取扱可然ト存候此段相伺候也

指令 伺之通 十六年十一月廿八日

●雇工錢國庫費へ收入方ノ儀ニ付石川縣ヨリ内務省へ伺十六年十一月二十二日

今回御省乙第三十八號ヲ以テ地方國庫ノ兩費ニテ購入セシ監房常置ノ器具ヲ始メ戒具雜具等不用物品賣却代金及看守初俸金等十五年度以降集治監ニ生セシモノハ國庫へ警視廳及ヒ府廳ニ生セシモノハ地方稅へ收入スヘキヲ御達相成候處囚徒雇工錢ノ儀ハ右御達ノ限リニハ無之十四年御省達乙第三拾四號御達計算法ニ據リ割合兩費ノ指ス以下兩費トアヘ收入スヘキ哉ニ被存別紙寫ノ通電報ヲ以テ伺御指令有之候然ル處本年十一月七日官報第九號ノ指大皮府ヨリ囚徒費區分方同第二條へ御指令ノ趣御味候處工錢並遺品賣却代モ乙第三十八號御達ノ通成分各監集治府廳及ヒ限リノ收入割合ニ及ハス儀ニ可有之哉ニ推考致候果シテ然ラハ儘ニ本縣ヨリ伺御指令ト支致シ前願乙第三十八號御達ハ雇工錢等雜收入共御テ割合兩費へ收入スルニ及ハス其集治監ニ生セシモノハ國庫へ警視廳府廳ニ生セシモノハ地方稅へ收入候儀ニ可有之哉更ニ疑惑ヲ生シ候ニ付尙又此旨相伺候也

指令 十六年十二月十二日

工錢收入ハ最前指令ノ通尤領置工錢ノ沒收金トナルルハ乙第三十八號ニ據ルヘシ

〔別紙〕同縣伺 十六年十月九日

已決囚雇工錢收入區分ハ今般乙第三十八號御達ノ外ナルヤ

指令 伺之通 十六年十月十八日

●在府縣獄囚徒費取扱方御改正ニ付疑義ノ件群馬縣ヨリ内務省へ伺十七年六月廿五日

第一條 集治監ニ入ルヘキ徒囚費用トノ一囚一日ニ付金貳拾錢ツ、御下附相成候金額ハ悉皆仕拂惣湯へ差撥可然哉

第二條 同囚徒工錢ハ從前之通國庫へ收入之儀ト心得可然哉

第三條 押送費ハ一囚一日金貳拾錢ノ外現費御下相成候儀ト心得可然哉

第四條 上告期限即宣告済ヨリ三日間及上告中ノ諸費ハ派テ未決囚諸費ヨリ支拂之儀ト心得可然哉此段相伺候也

指令 十七年八月十六日

第十二類 租稅及貨紙幣公債區別料費

第一條 集治監ニ入ルヘキ現囚員ニ應シ國庫ヨリ支出ノ金額ヲ地方稅ト併セ支辨スヘシ

第二條 地方稅ヘ收入スヘシ

第三條 押送費ノ豫算内ヲ以テ支辨スヘシ

但集治監ヘ押送ノ外移送ニ係ルモノハ日額貳拾錢ノ内ニ包含ス

第四條 上告セサル者ハ裁判宣告ノ日ヨリ上告ニ係ル者ハ刑期ニ算入スヘキ日ヨリ國庫支辨トスヘシ

●在府縣獄囚徒費其他監獄費用取扱方ノ儀ニ付警視廳ヨリ內務省ヘ伺十七年六月廿四日
今般乙第二十九號ヲ以テ在府縣獄囚徒費取扱方ノ御御遙相成候處實際ノ取扱上ニ於テ集治監ニ入ルヘキ囚徒ニ對スル費用ハ總テ地方費中ヘ混一ニ仕拂置月々其現人員ニ應シ一囚一日金貳拾錢ノ割合ヲ以テ國庫ヨリ支出シタル金額ヲ總支出額支出高ノニ應シ各費目ニ割合地方費ノ方ヘ戻入候テ可然哉又ハ國庫ヨリ支出ノ金額ハ地方稅雜收入中ヘ編入候テ可然哉且陸軍監獄ヨリ當廳所轄監獄ヘ送致相成候囚徒ニ屬スル費用モ凡テ同様ノ取扱ト相心得可然哉此段相伺候也

追テ本文費用一囚一日金貳拾錢ノ額ヲ以テ仕拂候主ハ雇工錢其他ノ收入金ハ悉皆地方稅雜收入ヘ編入候儀ト見込候也

指令 十七年八月十六日

一國庫支出金取扱方ハ陸軍處刑囚ニ係ル分共前段伺ノ通

一租替ノ趣伺ノ通

●在府縣獄囚徒費取扱方ノ件ニ付德島縣ヨリ內務省ヘ伺十七年九月六日

本年六月御省乙第貳拾九號同七月乙第三拾號ヲ以テ在府縣獄囚徒費取扱方及囚徒假留監ヘ送致方御遙相成候ニ付テハ疑義ノ件左ニ相伺候也

一囚徒在監諸費トシテ一囚一日金貳拾錢宛御下付相成候金額ハ裁判宣告ノ日ヨリ國庫費ノ仕拂ニ相立可然哉
一集治監ヘ入ルヘキ囚徒假留監ノ上ハ直ニ假留監ヘ押送可致候テハ該囚徒途中衣服ノ儀都テ取替用費其費用

ハ押送費ノ仕拂ニ相立可然哉

指令 十七年九月三十日

第一條 刑期ニ算入スヘキ日ヨリ國庫支辨トスヘシ

第二條 伺ノ通

●全上ノ件ニ付岐阜縣ヨリ內務省ヘ伺十七年七月三日

第一條 集治監ニ入ル可キ囚徒ニシテ府縣獄ニ在ル者費用交付方今般內務省乙第貳拾九號ヲ以テ御收定相成候ニ付テハ該囚徒費用ハ他ノ囚徒費ト混同支辨シ御交付ノ金員ハ地方稅監獄費及監獄建築修繕費ノ總金額ニ割合各費ニ對スル額ヲ定メ地方稅豫算精算共警察費國庫下渡金ニ準シテ調理シ可然哉

第二條 雇工錢ハ御交付ノ金員ヘ可差撥設又ハ地方稅雜收入ニ取計可然哉

第三條 豫算開製方ノ儀ハ前々年度中宣告済云々トアレ其以前ヨリ越シ來ル人員アルハ是又算入スル儀ト相心得可然哉

第四條 押送中ノ費用ハ總テ實費ヲ以テ別ニ御下渡可相成候ト心得可然哉

第五條 府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在ルモノハ費用モ乙第二十九號御達ニ準スル儀ト相心得可然哉

右相伺候也

指令

第一條 集治監ニ入ルヘキ現囚員ニ應シ國庫ヨリ支出ノ金額ヲ地方稅ト併セ支辨シ地方稅豫算精算及精算報告書ハ國庫金ヲ扣除整理スヘシ

第二條 地方稅ヘ收入スヘシ

第三條 前々年度中宣告済ノ人員ニ限ル

第四條 押送費ノ豫算内ヲ以テ支辨スヘシ

但集治監へ移送ノ外移送ニ係ルモノハ日額金貳拾錢ノ内ニ包含ス
第五條 實際ノ場合ニ於テ伺出ヘシ

●警部乘馬ノ節口附人旅費支出方ノ件ニ付大藏省ヨリ太政官ヘ伺十七年九月十日
警部ニシテ乘馬口附ノ者ヲ要スル節該旅費支出方ノ儀從來警部雜給又ハ地方警察費ヨリ支辨スル等區々相成居候ニ付篤ト考按候處元來旅費定期第拾壹章第拾壹項口附ノ者ノ旅費タル官廳ヨリ直接ニ給スルニ非スシテ乘馬人其人ニ給神スルノ精ト被存候果シテ然ラハ右口附ノ者ノ旅費ハ警部給與ノ部分ニ屬スル至當ナルヲ以テ以後ハ國庫ノ支辨ニ歸シ候ト一定シ可然候ト存候得共聊疑義ヲ生シ候ニ付此段爲念相伺候也
指令 伺ノ通 十七年九月三十日

●在府縣獄ヨリ支出ノ金額地方監獄費等へ戻入ノ儀警視廳ヨリ内務省へ伺
十七年十月十日

在府縣獄囚徒費ヨリ支出ノ金額ナ地方監獄費へ戻入方ノ儀ハ會テ伺定ノ趣モ有之候處尙熟考候ニ總支出額ニ應シ戻入候ハ少シク不穩當ニモ有之候付一四一日金廿錢ノ割合ナテ國庫ヨリ支出ノ金額ハ監獄費總支出高ノ内未決囚徒費ヲ除去シ而シテ當職ノ如キハ監獄分署ヲ鍛冶橋市ヶ谷石川島ノ三箇所ニ分離相成居候付集治監ニ入ルヘキ囚徒ノ現ニ入監セシ分署限リノ費額ニ應シ各費目ニ割合地方費ノ方へ戻入縣獄致シ度然ルハ實際取扱上至便ノ儀ト思考候付此段及上申候也
指令 伺ノ通 十七年十一月一日

●地方稅費目ノ儀ニ付農商務省ヨリ太政官へ伺十七年十二月二日

地方稅規則第三條地方稅ヲ以テ支辨ヘキ勸業費目ノ儀ハ土木費教育費等トハ稍其性質ヲ異ニスルモノニシテ警ハ博覽會共進會物産品評會勸業委員勸業各會農商工事ノ改良通信統計調査等ノ如キハ其事業ノ府縣立ニ屬スルモノト人民ノ共立ニ係ルモノトナ開ハス均シク事業獎勵上必要ノ費用ニ自カラ一府縣全體ニ關スルヲ以テ右等費用ハ府縣會ノ決議ヲ經テ勸業費目中ヨリ支出致シ法律上妨ケ無之儀ト相心得可然哉此段相伺候條至急御指相成度候也

退テ本文伺ノ通ニ有之候ハ、内藏所省へハ本省へ御指令ノ旨趣御達相成度此段副テ上申候也
指令 伺ノ通 十七年十二月廿三日

●在府縣獄囚徒費取扱方并地方稅豫算ノ儀ニ付鹿兒島縣ヨリ内務省へ伺
十七年十二月十二日

本年六月御省乙第貳拾九號ヲ以テ在府縣獄囚徒費取扱方ノ御御達相成候處實際ノ取扱上ニ於テ疑義ヲ生シ候件々左ニ

第一條 本年六月廿四日警規應伺官報第三百四拾五號ニ載ス集治監ニ入ルヘキ囚徒ニ對スル費用ハ總テ地方費中へ混一ニ仕拂置キ月々其現人員ニ應シ一四一日金貳拾錢ノ割合ヲ以テ國庫ヨリ支出シタル金額ヲ總支出額(一)ニ應シ各費目ニ割合地方費ノ方へ戻入候テ可然哉又ハ云々ト云フノ項ニ對シ前段伺ノ通ト御指令有之右各費目トハ監獄費中未決囚徒費ヲ除キ係給給給應費已決囚徒費及ヒ監獄建築修繕費中未決檻ニ係ル部分ヲ除キ已決監獄建築修繕費ノ總金額ニ割合地方費ノ方へ戻入候儀ト相心得可然哉

第二條 本年七月三日岐阜縣伺官報第三百八拾四號ニ載ス第一條末文地方稅豫算精算共警察費國庫下渡金ニ準シテ調理シ可然哉ト云フノ項ニ對シ地方稅豫算議案及精算報告書ハ國庫金ヲ扣除整理スヘシト御指令有之右豫算議案ヲ調理スルニ當リ各費目ノ前條ノ各費目ニ就キ扣除スヘキ國庫支出ノ員額ハ在府縣獄囚徒費ノ豫算高チ以テ各費目上ノ豫算總額ニ應シ算出致候儀ト相心得可然哉
指令 十八年四月一日

●控訴ニ係ル囚徒工錢收入方之儀ニ付千葉縣ヨリ内務省へ伺十八年五月 日

本年第貳號公布ニ依リ輕罪ニ係ル被告人控訴ヲ爲セシトキ拘禁中ノ諸費及費決後已決囚ニ屬スル諸費ハ最前裁判官渡シアリタル地方ノ地方稅ヲ以テ支辨シ其費用交付方ハ客年御省乙第貳拾九號通ニ準據シ可取計自本年(四月)甲第拾三號ヲ以テ御達ノ趣モ有之就テハ該囚工錢ハ在府縣獄囚徒等シク就業地方ノ地方稅へ收入候儀ニ可目之哉

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

指令 十八年五月三十日
書面伺之通

●輕罪控訴裁判被告人ニ係ル拘禁中ノ諸費精算仕上方ノ儀ニ付愛媛縣ヨリ内務省へ伺十八年五月十四日

御省本年甲第拾三號ヲ以テ輕罪ニ係ル控訴云々其控訴ヲ爲シタル被告人ニ係ル拘禁中ノ諸費ハ總テ最前裁判官渡アリタル地方ノ地方稅ヲ以テ支辨ノ節御達相成候處右甲地方則支拂ヲ爲スヘキ地方監獄費ニ於テハ乙地方監獄署在監中ノ日數ニ依リ一日金貳拾錢ヲ以テ支拂其精算ハ未決費ナルモハ已決費細科目外別途仕上ケニ執計可然哉且又右金員ヲ受入タル乙地監獄費ニ於テハ國庫下附金同額未決費裁決後已決因ニ屬各科目へ割當展シ入レニ執計可然哉

指令 十八年六月四日
書面伺ハ伺ノ通後段ハ雜收入へ編入候儀ト可心得事

●岐阜縣ヨリ輕罪控訴被告人押送費用ノ儀ニ付内務省へ伺十八年六月二十三日
輕罪ニ係ル控訴ノ儀ニ付本年第貳號ヲ以テ公布相成候ニ付テハ控訴裁判所管轄區域内各地方ヨリ控訴ヲナシタル被告人ニ係ル拘禁中諸費支出ノ儀ハ本年御省甲第拾三號ヲ以テ御達相成候處右押送途中費用ノ儀ハ沿道府縣ノ警察費ヲ以テ支辨シ可然哉此段相伺候也

指令 十八年七月十日
書面伺ノ通

●愛媛縣ヨリ軍律ニ依リ處斷アリシ在監人費用ノ儀ニ付内務省へ伺十八年七月十日
軍律ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル被告人在監中ノ費用ノ儀ハ明治十六年九月十九日附及ヒ同十七年八月八日附ヲ以テ御達ノ趣モ有之候得共聊カ疑岐ニ涉リ候場合有之候ニ付左ニ相伺候

一陸軍治罪法第十八條初項末項ノ末文ニ依リ地方裁判所ニ於テ軍律ニ照シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル被告人在監中ノ費用ハ陸軍省ノ支辨ニ屬スルヤ又ハ地方稅ノ支辨ニ屬スルヤ
一前項若シ陸軍省ノ支辨ニ屬スル者トスルハ未決在監中ノ費用モ悉ク陸軍省ノ支辨ニ屬スルヤ亦ハ刑名宣告ノ日ヨリ陸軍省ノ支辨トスルヤ

一陸軍治罪法第二十一條末文ニ依リ軍人ニアラサル者陸軍法術ニ於テ普通刑法ニ照シ刑ノ旨度ヲ受ケシキ在監中ノ費用ハ陸軍省ノ支辨ニ屬スルヤ亦ハ地方稅ノ支辨トスルヤ
指令 十八年八月一日

第一二項 普通裁判所ノ審判ニ係ル該囚在監中ノ費用ハ總テ地方稅ヨリ辨スヘシ
第三項 本年第拾貳號公布以後普通裁判所ニ於テ處斷シタルモノハ地方稅ヨリ支辨スヘシ
但同種ノ罪囚ト雖モ本文公布以前ニ在テ軍法會議ニ於テ處斷シ該術ヨリ送附シタル囚徒ニ係ル費用ハ陸軍省ノ支辨トス

●在府縣獄囚徒費ノ件ニ付靜岡縣ヨリ内務省へ伺十九年五月五日

移轉費ノ儀ハ集治監入囚徒護送ノ都度管下沿道各警察署ニ於テ該署諸費ノ内ヲ以テ囚人膳料人方車賃橋渡賃等一時繰替置其實費請求ニ依リ支出取計來リ候處十九年度以降ト雖モ右ニ取計可然哉若シ然ラサレハ他府縣ヨリ護送ノ囚人通行ニ際シ差支候ニ付該費ニ限リ豫メ沿道警察署へ概算ノ支出取計可然哉尤後段ノ如ク概算支出取計候片ハ正當受取證書ハ月々歲出報告書へ添付致兼候ニ付一周年度決算ノ節ニ至リ取束ヲ進達シ可然哉
指令 十九年五月十五日

後段伺ノ通取計正當受取人ノ領取證書報告書ト同時ニ送致シ離キハ支拂人ノ證書提出シ置其止當證書ハ翌月分ト俱ニ送致スヘシ

●在府縣獄囚徒費支辨方ノ件ニ付靜岡縣ヨリ内務省へ伺十九年六月二十八日
一從刑ノ宣告ヲ受ケタル者刑確定ノ上假留監へ押送ノ後餘刑發覺ニ付原裁判所ヨリ呼戻シ候節警察署傳テ以テ押

送途中費用ハ沿道警察費ヨリ支辨シ可然哉尤餘額アルト雖モ原刑集治監ニ入ルヘキ因徒ニ係ル費用ナルヲ以沿道
國庫監獄費ヨリ支辨可致儀ニ有之候哉

一甲地重罪裁判所ニ於テ徒刑ニ處セラレタル者アリ然ルニ餘罪有之ニ付裁判確定ノ上ハ乙地重罪裁判所ヘ可引派官
甲地裁判所檢事ヨリ照會ニ依リ送附候ハ該囚ニ係ル費用最前刑名宣告ノ日ヨリ乙地ヘ發遣ノ日迄甲地國庫監獄
費ヨリ日額金二十錢ツヽ支辨シ而シテ押送途中費用ハ沿道警察費ヲ以テ支辨乙地ヘ到達ノ上ハ同日ヨリ該地國
庫監獄費ヨリ支辨可致儀ト心得可然哉

一徒刑ノ宣告ヲ受ケタル者裁判確定ノ上餘額發覺シ高メニ未決監ヘ移ル者アリ右ハ未決在監中ト雖モヨリ集治監ニ
入ルヘキ因徒ニ付該囚ニ係ル費用ハ日額金二十錢ツヽ國庫監獄費ヨリ支辨シ可然哉

一徒刑ノ宣告ヲ受ケタル者裁判不服ニテ本人上告ノ者在監中費用計算方ノ儀ハ裁判確定ノ上刑期ニ算入スヘキ日ヨ
リ國庫支辨ニ屬スルハ勿論ニ有之候得共右上告中會計年度ヘ涉リ候節ハ前年度經費決算方如何取計可然哉
指令 十九年六月二十八日

第一項 前段何ノ通

第二項第三項 何ノ通

第四項 年度決算ノ場合ニ於テハ地方稅監獄費ヲ以テ假拂ノ儘結算ヲ了シ他日裁所確定國庫支辨ニ歸スル作ハ該
費ヨリ支出シ地方稅雜收入ニ編入スヘシ
但國庫出納閉鎖後既往年度ニ屬スル賦額ノ仕拂ヲ要スル節ハ其金額事由ヲ詳悉シテ其時々何出ヘシ

米商會所仲買入へ地方稅賦課ノ件ニ付愛媛縣ヨリ內務省ヘ備十八年十二月四日
(電報) (十八年十二月十四官報)

三十八號公布ニテ十六年六十五號公布ハ廢セラレタルニ付於時仲買臨時社アレトモ地方稅ヲ課シ得ヘキナ直ク御指
揮ヲ請フ
指令 十八年十二月十一日(電報)

本月四日米商仲買入地方稅賦課ノ件何ノ通

第二百一十章 租稅未納者處分方

明治十年十一月二十一日
第七拾九號布告

租稅未納ノ者ハ從來怠納金ヲ徵シ本人身代限ヲ以テ取立ル等ノ處分モ有之處自今右處
分ヲ廢止シ更ニ左ノ通區別相立處分致スヘシ此旨布告候事

第一條 徵收期限 毎期 ヲ過テ尙國稅ヲ上納セサル時ハ之ヲ賦課シタル財產ヲ公賣シテ
徵收スヘシ若シ其財產他人ヘ賣與讓與シタル時ハ之ヲ買受讓受タル者ヨリ完納セシ
ムヘシ 十四年第十五號布告ヲ以テ(毎期ヲ
云)ノ下(後三十日)ノ四字ヲ削ル

但書入質入 租所賃入ノ其
規則ニ從フ 財產ニ未納稅アル時其債主ニ於テ辨納スヘシト申立ル者ハ
其意ニ任セ公賣ヲ行ハス

第二條 營業稅又ハ製造稅ヲ上納セサル時ハ其營業ヲ停止ス其製造品アル者ハ之ヲ公
賣シ次ニ其器物ニ及ホスヘシ 十八年第二十號布告
ヲ以テ全條ヲ改正ス

酒類及醬油造石稅ハ前項ニ依テ處分シ仍ホ其製造用ノ諸建物ヲ公賣スルコトヲ得
但酒類醬油及其製造用諸器物建物ハ自他ノ所有ヲ問ハス其一部又ハ全部ヲ公賣シ
テ徵收ス

第三條 府縣稅民費モ此規則ニ準シテ處分スヘシ
但各別ニ財產ヲ指定メテ賦課セサル民費徵收ニ付テハ土地家屋ヲ除キ他ノ財產ニ
付先取特權アリトス

第四條 凡租稅不納ニ付財產ヲ公賣セントスル時ハ地方官ニ於テ處分シ先ツ公賣ニ關
連シテ

租稅及賃租船公債區助料費

十一月
地方稅
類別
第十
四年
大藏
省
附
錄
第十
四年
大藏
省
附
錄

スル入費ヲ引去リ而後國稅府縣稅民費ヲ徵シ剩餘アル時ハ之ヲ本人ニ還付ス若シ不足アル時國稅府縣稅ハ官ノ損失ニ歸シ民費ハ該區ノ損失ニ歸ス

但該財產ニ付テ區戶長役所ノ帳簿ニ記載セル債主アル時ハ其殘金ヲ順次其債主ニ給付ス

第五條 十一年第三十四號布告ヲ以テ追加シ
十四年第十五號布告ヲ以テ刪除ス

第六條 財產公賣ノ際買請望人無之節該財產ハ之ヲ官沒スヘシ
十一年第三十四號布告ヲ以テ追加

附則

此布告ニ矛盾スル布告布達ハ廢止トス

○書入質入ノ財產ニ未納稅アリテ債主辨納セサル

トキ公賣方 明治十六年三月二十四日
第十六號府縣へ達

明治十年(十一月)第七拾九號布告第一條但書ノ場合ニ於テハ債主ニ其未納稅アル旨ヲ通告シ債主之ヲ辨納セサル時ニ公賣ヲ行フヘキ儀ト可心得此旨相達候事

○公賣ニ付スル酒類及器械等本人ノ所有ニアラサ

ルトキ處分方 明治十六年八月四日
第三十三號府縣へ達

明治十年(十一月)第七拾九號布告第二條第二項ノ場合ニ於テ其酒類及器械本人ノ所有ニ非サルトキハ所有主ニ通告シ處分スルハ本年(三月)第拾六號達ノ通可心得此旨相達候事

○租稅未納者處分取扱方心得

明治十一年二月二十二日
大藏省乙第七號府縣へ達

租稅未納ノ者處分ノ儀昨十年十一月第七拾九號公布相成候ニ付取扱方左ノ通可相心得此旨相達候事

一租稅不納ニ付一旦裁判所へ相廻候モノト雖モ第七拾九號公布到達ノ日ヲ界トシ未タ身代限ノ處分ニ不取懸分ハ右公布ノ通地方官於テ處分スルモノトス

但息納金徵收中ノ分ハ本文公布到達ノ日ヨリ息納金免除并公布ノ次第未納人へ諭達シ尙三十日ヲ過テ不納ノ分ハ成規ノ通處分スルモノトス

一改租着手中ノ分ハ納期後三十日ヲ過キ尙不納ニ候共租額確定セサルノ故ヲ以テ其地所公賣ノ處分ニ及ハサルモノトス此際若シ本人他ノ負債ノタメニ身代限ノ處分ニ係ル片ハ裁判官ニ照會シ假額中ト雖モ納期後三十日ヲ過レハ該地ヲ公賣シ其年石代相場ヲ以テ前年ノ租額ヲ徵收スルモノトス

但其年石代未決ナレハ前年ノ石代ヲ以テス

一他ノ負債上ヨリ身代限ノ處分相成ル際稅納ノ期限ニ到リ不納ノ分ハ其旨裁判官ニ照會シ其未納ニ係ル財產ハ成規ノ通公賣ノ處分ニ及フモノトス

但裁判官ニ於テ已ニ財產糶賣ニ及ヒシ場合ニ於テハ裁判官ニ照會シ其糶賣代價ノ内ヨリ受取ルヘシ

一明治六年(一月十七日)第拾八號公布地所質入書入規則ニ照シ質入セシ地所ノ租金質取人ニ於テ未納スル片一應質入人へ相達シ納稅セシメ不苦若シ之ヲ納メサルニ於テハ成規ノ通處分スヘシ

一前納ニ非ル營業稅等未タ納期ニ至ラサルモ他ノ負債上ヨリ身代限ノ處分相成ルハ裁判官ニ照會シ其製造品及其器物ヲ公賣シ其期節ノ税金徵收スルモノトス

一逃亡失踪ノモノ納期後三十日ヲ過キ歸籍セス納稅セサルモハ其遺族親戚財產保管人等へ相達シ成規ノ通處分スルモノトス

但懲役人及ヒ犯罪拘留又ハ監獄中ノ者等總ヘテ本文同様處分スルモノトス

一營業稅等不納ノモノハ一旦營業停止其製造品及ヒ其器物ヲ公賣シ尙不足ヲ生スル者ハ官ノ損失ニ歸スルハ勿論ナレモ後來再營業ヲ願出ルモハ最前官ノ損失ニ歸セシ金員ヲ更ニ上納セシ上ハ許可スルモノトス十七年第五十七號布達

一釀造稅ハ四月三十日限凡半方徵收ノ等ニ候處右期限前釀造石數檢査後他ノ事故ニテ裁判所於テ身代限ノ處分ニ相成候時ハ其節迄ノ酒相場平均ヲ以テ實際釀造着手ノ石高ニ應スル釀造稅收入決算スルモノトシ現存ノ酒類并器物等公賣徵稅方裁判官へ照會致スヘキトス

一公賣處分ハ納期後三十日ヲ過レハ其翌日ヨリ日數三十日以内ニ完了スヘキモノトス十三年乙第二十六號省達ヲ以テ追加ス

一若シ財產賣却代價不足ナル手或ハ買請望人無之完納ノ場合ニ至ラサル分ハ處分濟ノ後日數十五日以内ニ勘定拂ヲ申稟スヘシ同上

○租稅不納又ハ徵稅シ能ハサル分稟申方

租稅ノ內官損及勘定除却ヲ要スル金額稟申方ノ儀明治十六年(八月)第五十五號ヲ以テ

十八年六月十三日
大藏省第三十四號府廳

相達置候處右ハ相廢シ更ニ取扱方左ノ通り相定ム

一租稅不納ノ者財產公賣處分ノ末官損トナリタル金額取束于左ノ書式ニ倣ヒ調理シ毎稅納期後四十五日以内ニ稟申スヘシ

一荒地成檢査中又ハ非常ノ災害ニ罹リ備荒儲蓄金ヨリ補助或ハ貸與取調中ノ類ニシテ納期ニ際シ徵收シ能ハサル分ハ其調査完了時日ノ見込相立該稅納期以前延納ノ義ヲ稟申スヘシ

一戸長云々十九年五月大藏省訓令
第九號ヲ以テ廢止ス

右相達候事 (書式略ス)

○內國稅未納追徵整理順序

十九年七月二十二日大藏省訓令第三十三號
北海道廳府廳(沖繩縣ヲ除ク)

內國稅未納追徵整理順序左ノ通相定メ十六年(九月)第五十九號及十七年(七月)第五十七號當省達ハ廢止ス

但甲乙號樣式ハ別ニ之ヲ送付ス(甲乙號樣式略ス)

內國稅未納追徵整理順序

第一條 北海道廳長官府縣知事ハ甲號樣式ノ如ク內國稅未納臺帳ヲ調製スヘシ

第二條 內國稅ノ內事故アリテ翌年度十一月三十日迄ニ徵收ヲ完了セサルモノハ其年度ノ未納元額トシ臺帳ニ登記スヘシ但後日追徵シタルモハ其時々臺帳へ記載スヘシ

第三條 諸營業及船車稅不納者旅行又ハ失踪シ其財產ノ所在不分明ニシテ公賣處分ヲ爲シ能ハサルモノハ年々未納臺帳へ登記シ置キ而シテ他日本人歸籍又ハ所在發見シ

第三十一號
大藏省訓令
第七號
甲乙號
凡例
中

タルトキハ未納ニ係ル毎期ノ税金追徴スヘシ但未納ノ當初ヨリ滿三ケ年ヲ經過シ尙完結セサルモノハ其際更ニ處分方稟議スヘシ

第四條 北海道廳長官府縣知事ハ毎年度ノ末ニ於テ乙號書式ノ如ク既往年度未納殘高仕譯書ヲ製シ四月三十日限リ大藏省ヘ送付スヘシ

第五條 北海道廳長官府縣知事ハ臺帳ニ記載シタル納稅者他管ヘ移往送籍スルトキハ不納ニ係ル書類ヲ取纏メ其管廳ヘ引繼テナシ同時ニ大藏省ニ報告スヘシ

第六條 前條引繼ヲ受ケタル管廳ニ於テハ之ヲ臺帳ニ記入シ追徴ノ手續ヲ爲スヘシ

○租稅不納者處分規則ニ依リ處方ノ未官損ニ歸ス

ルモノ報告 二十一年五月十一日 大藏省訓令第二十六號

租稅不納者處分規則ニ據リ處分ノ未官損ニ歸スルモノハ二十一年度以降稟申ニ及ハス該金額ハ本年當省訓令第十二號徵稅額訂正表ヲ以テ減額報告ヲ爲スヘシ 但他ノ事故ノ訂正表ト區別シテ調製スヘシ

●伺指令

租稅不納者公賣處分ノ儀ニ付岐阜縣ヨリ大藏省ヘ伺十六年十一月八日

筋壹條 酒類造石稅不納ニ付一日營業ヲ停止シ鑑札ヲ返納セシメ其製造品及器物トモ公賣揭示中本人ヨリ其不納金ヲ上納スルカ又ハ債主ヨリ納シ公賣處分取消ノ願出閣届ルトキハ鑑ニ返納セシメ鑑札ハ再下渡シ營業停止相繼キル然哉

第貳條 營業稅又ハ造石稅不納ニ付其製造品并諸器械等取調已ニ其一部(製造品)ヲ公賣徵收シ其他(製造器械)揭示中本人又ハ債主ヨリ不納金完納スヘキ旨ヲ以テ公賣處分取消ヲ出願スルトキハ開届可然哉 右相伺候至急御指被下度候也

指令 十六年十二月三日

第貳條 官沒器械運搬等支出ノ儀熊本縣ヨリ大藏省ヘ伺十六年十二月十二日

租稅不納者處分ノ未官沒ニ歸シタル財産ノ内酒造器械ノ如キ巨大ノモノハ縣廳ニ於テ之ヲ設置スヘキ適用ノ倉庫無之ヲ以テ不納者本人ノ倉庫又ハ近傍明瞭ヲ借請取調置時宜計入札抄致來候成右運搬費及藏以賣番人給料等ハ本廳經費ヨリ支消スヘキ哉又ハ國稅徵收費額ノ内ヲ以テ支消スヘキ哉決兼候條何分ノ御指令相成度候也 指令 十六年十二月廿五日伺之趣前送之通り可相心得事

官沒物品其犯則者投票之儀ニ付山形縣ヨリ司法省ヘ伺十六年十二月廿七日

國稅ヲ納ムル營業者稅則違犯ニ罹リ其物品ヲ官ヘ沒收シ然シテ公賣之場合ニ至リシキ犯則主ト雖モ既ニ處刑済ノ上ハ投票スルモ差支無之哉 指令 伺之通 十七年一月廿二日

税金不納者取扱方ノ儀ニ付愛媛縣ヨリ大藏省ヘ伺十七年二月一日

第一條 租稅不納者財産公賣處分ノ儀ハ納期翌日ヨリ三十日以内ニ完了スヘキ旨ニ付既ニ公賣處分決定シタル後税金完納スルモ公賣處分取消ノ限リニ無之ハ勿論ニ候得共公賣金ニテ稅額ニ不足ヲ生シタルモノ右期日以内ニ於テ其不足金ヲ完納スルトキハ最前引揚タル鑑札ヲ返付シ營業繼續可然哉

第二條 同上無財産ノモノハ鑑札引揚ケ營業ヲ停止シ税金官損拂ノ儀ヲ申渡スル迄ニテ不納者ニ對シ別段處分ノ手續ハ無之候得共納期翌日ヨリ三十日迄ハ處分中ノモノト見做シ右期日中ニ於テ税金完納スルトキハ前條ト同シク營業繼續可然哉 指令 十七年三月十四日

第一條 公賣處分決定後ハ假令處分期限内其欠額ヲ追納スルト雖モ營業繼續セシムル限リニアラス 第二條 前條ニテ了解スヘシ

納稅代理人不納ノ節處分方ニ付福島縣ヨリ大藏内務兩省ヘ伺十八年六月廿六日 戶長役場所轄内ニ居住セスシテ該町村ニ土地ヲ有シ地租地方稅等納稅代理人ヲ置キタル者其ノ代理人怠納スルトキハ本人ニ通知セス直ニ賦課ノ財産ヲ公賣シ苦カラヌヤ 指令(電報) 伺ノ通 十八年七月九日

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

十八年大藏省訓令第二十六號 租稅不納者處分規則ニ依リ

●地租徵收及不納處分方ノ件ニ付神奈川縣ヨリ大藏省ヘ伺
 (十九年十二月七日)
 (二十年一月十一日官報)
 一茲ニ一箇ノ地所規則ヲ犯シ賃入海入ノ二重ニ公證ヲ與ヘタルモノアリ右公證ノ効力如何ハ裁判官ノ判定ニ任スヘキハ勿論ナリト雖トモ之カ爲メ該地租徵收ヲ猶豫スヘキ限リニ無之ト相考候得共客年七月于葉縣ヨリ不納者財產取調ニ際シ二重賃入ヲ發見セルトキ處分方伺ニ對シ御指令ノ趣ニ據レハ裁判決定ヲ俟ツヘキモノノ如シト雖モ本件ノ如キ其一方ハ實地ナルカ故ニ該裁判決定ト賃入年月ノ前後トニ拘ハラズ地租條例第十二條ニ據リ賃取人ニ納租ノ額ヲ相違シ若シ不納トキハ其地所ノ所有者及ヒ他ノ債主ヘ通告ノ上公費處分ヲ執行シ可然故
 一又二重賃入地ニ地租ノ不納アルトキ前項于葉縣ヘ御指令ノ如ク裁判決定マテ不納處分ヲ爲サルトキハ其所有者ハ地租不納ナルモ依然該地所ヲ使用シ得ルモ差支無之哉
 指令 十九年十二月二十五日

●租税不納者無届不在中ノ者公賣處分ノ件ニ付青森縣ヨリ大藏省ヘ伺

(二十年二月十七日)(同三月八日官報)
 諸税不納者公賣處分ノ爲メ財產取調ニ際シ無届ニテ一家不在且ツ門戸ヲ鎖シ數日間歸籍セス之ニ立會セシムヘキ親戚及財產保管人等無之場合ニ於テハ隣佑若シクハ戶長ヲ立會セシメ其門戸ノ鎖鑰ヲ解キ成規ノ物品ヲ取調公賣スルモ不苦哉
 指令 二十年三月四日
 伺ノ趣也シ月長ヲシテ立會シムヘキ債主ト心得ヘシ

●地方税戸數割不納處分ノ件ニ付鹿兒島縣ヨリ内務大藏兩省ヘ伺

(同四月十三日官報)
 租税不納ノ爲メ地所建物船舶ノ公賣處分ニ着手スルトキ又ハ其公賣處分ヲ取消シタルトキハ登記所ヘ通告スヘキ旨本年一月訓令相成然ルニ地方税戸數割不納ノ爲メ屋建具等ヲ公賣スルニ際シ右屋建具ハ建物ニ附帶登記簿ヘ記入ノモノト雖モ登記所ヘ通知セシムルニ及ハサルヲ尤公賣ノ際不納者ニ於テ債主アリト申立ルトキハ該債主ヘ納納ノ儀通告セシムヘキヤ
 指令 二十年四月四日
 戸數割不納處分ノ件建物ニ附帶シ登記簿ニ記入シアルモノハ登記所ヘ通報スヘシ債主ヘ通告ノ儀ハ申出ノ趣

●租税不納財產公賣ノ件ニ付埼玉縣ヨリ大藏省ヘ伺

(二十年六月七日)
 (同八月二十六日官報)
 地租不納ニ據リ賦課ノ財產公賣處分ヲ行フニ當リ債主ノ有無取調方所轄登記所ヘ照會候處該地所ハ戶長役場ヨリ引繼タル公證簿ニ據當ノ公證ハアルモノ年月日及債主ノ住所姓名等記載無之旨回答アリ因テ地券記名者取調候モ當時ノ買主ハ既ニ死亡現時遺族者ハ債主ノ有無判明スルヲ得サルモノアリ此場合ニ於テハ明治十六年太政官第十六號御達ノ旨趣ニ據リ債主ヲ以テ該債主ノ住所姓名取調方當登記所ヘ照會チナスモ前項ノ申由ニ外ナラス如此ハ登記所ヨリ司法省ニ其額未ヲ具シ公證存否裁可ノ手續ヲ經タル上公賣處分ヲ行フ儀ナルヤ
 指令 二十年六月十八日 伺ノ趣

●租税不納公賣物件ニ關スル債主取調方ノ件ニ付高知縣ヨリ大藏省ヘ伺

(二十年八月六日)(同月廿六日官報)
 租税不納者公賣處分ノ際公賣スヘキ物件ニ關シ債主ノ有無取調方ノ儀ニ付本年御省訓令第四五七號ヲ以御訓令相成居候處其公賣處分ニ際シ郡戶長ヨリ債主ノ有無取調方登記所ヘ照會スルモ公證簿ニ債主ノ氏名ノ記載シ住所ヲ記載シアラサルトキハ登記所ニ於テハ公證簿ニ記載ノ儘ヲ以テ郡戶長ヘ回答シ其住所ノ如キハ郡長若クハ戶長ニ於テ便宜取調チナスヘキ儀ニ候ヤ又ハ帳簿ノ不完全ニ起因セル儀ニ付其帳簿ヲ管理セル登記所ニ於テ詳細取調郡戶長ノ開ニ應スヘキ儀ニ候ヤ
 指令 二十年八月十九日 候後伺ノ趣

●地租不納者公賣處分方ニ付靜岡縣ヨリ大藏省ヘ伺

(二十年七月二十七日)
 (同九月十一日官報)
 本年二月二十六日付知立登記所伺據要第十三條ニ地券名前人ニ對シ公賣處分ヲ爲ストモ其物件ニ關シ現所有者ニ非サル者ノ權利登記簿ノ檢ナルトキハ其權利及物件ハ如何シテ取消ス乎ト伺出ニ對シ同年三月二十六日付ヲ以テ司法省ヨリ登記簿ノ檢ナルトキハ其權利及物件ハ如何シテ取消ス乎ト伺出ニ對シ同年三月二十六日付ヲ以テ其登記簿ヲ取消スコトヲ得ヌ又落私人ヲ登記スルコトヲ得ヌト内訓相成候處右ハ地租條例第十二條ニ依リ地券記名者ニ向テ徵稅傳令番ヲ發セシメ納期限ニ至リ上納セサルトキハ登記所ヘ所有權移轉ノ有無ヲ照會シ若シ第三者已ニ登記アル場合ニ於テハ之レニ向テ未納稅アル旨ヲ通告シ尙完納申出サルトキハ露キニ令番ヲ發付シタル即チ地券記名者ニ就キ公賣處分スヘキ順序ニ有之候處該司法省內訓ノ趣行ニ依レハ公賣處分決行スルモ其以前第三者ノ所有者トシテ登記シアルニ於テハ登記法第十六條ノ手續ヲ成ス能ハサルモノノ如シ果シテ然ラハ已ニ第三者ノ所有者トシテ登記シアル物件ニ對シ前條ノ如ク不納アル場合ニ於テハ例レニ向テ公賣處分ヲ施行シ可然哉

指令 三十年八月二十七日
伺ノ趣地券記名者完納セサル場合ニ於テハ十年第七十九號布告第一條ニ據リ第三者ニ向テ完納セシメ乙者完納セサルトキハ其土地ヲ公賣スヘシ

●通税金處分方ニ付岡山縣ヨリ大藏省主税局ヘ問合(二十年九月十五日)
所得税法第二十四條ニ據リ處罰シタルモノハ其通税金追徴ニ不及候テ然ルヘキヤ
回答 二十年九月二十九日
處罰ヲ經ルト雖モ其通税金ハ仍ホ追徴スヘキ旨ナリ

●遺產ニ係ル租税ノ義ニ付千葉縣ヨリ内務大藏司法三省ヘ伺(二十年六月二十三日)
(同年十月廿六日官報)

第一項 死亡絶家及失踪逃亡者ノ遺產ニシテ遺族親戚ナキトキハ戶長ニ於テ保管スヘキ義ニ有之候其保管トハ地所ニ在リテハ下作ト爲シ建物船舶ニ在リテハ之ヲ貸與スル等便宜ノ方法ヲ以テ收利ヲ謀リ其收利ヲ以テ土地建物船舶ニ負擔スル所ノ諸税ヲ納ムヘキ儀ト被存候果シテ然ラハ其收利税金ニ充テ不足スルトキハ郡長ノ認可ヲ受ケ公賣ニ付スヘキヤ

第二項 其公賣ニ付スルモ代價税金ニ充テサル歟若クハ買受忍人ナキ時ハ公賣ヲ止メ納期ニ至リ明治十年第七十九號布告ニ依リ租税不納ノ處分ヲ爲スヘキヤ
指令 二十年九月十三日

第一項 裁判所ノ認可ヲ受ケ公賣ニ付スヘキモノトス
第二項 何之通但シ公賣ヲ止メタルトキハ其事由ヲ裁判所ニ申告セシム可シ
●未納稅追徴方ノ件(宮崎縣收稅部)問合明治廿一年二月廿三日

納稅期限ニ際シ本人旅行又ハ失踪等ニテ財産ノ所在不分明公賣處分ナシ能ハサル分ハ所在認知ノ節税金徵收方各府縣ヘ照會致シ來リ候處右税金徵收シタルトキハ現金ノ回付ヲ受ケ所轄郡長ヘ交付シ金庫ヘ納付セシムヘキヤ又ハ十年三月大藏省令第四號歳入取扱順序第十六條第十七條第二部歳入ノ例ニ準シ徵收シタル府縣ニ於テ納付ノ手續ヲ了シ該府縣ノ報告ヲ得歲入報告書ヲ製シ御省ヘ進達スヘキ筋ニ候哉且ツ十九年大藏省訓令第三十三號第五條ニ據レハ未納額報ニ記載シタル納稅者他管ヘ移送送籍ノ節不納ニ係ル書類引繼キ方御示シ相成居候得共公賣處分ノ未公賣代價不納金額ニ充テス官相相成候分ハ別段御明示無之右ハ該縣ニ據リ引繼キ方御示シ相成居候得共公賣處分ノ未公賣管ヘ寄附シ再營業ヲナスカ加キモ是亦前條同様引繼キ方御示シ相成居候得共公賣處分ニ於テ決算整理候儀ニ候哉

(大藏省主税局計算課)回答 明治廿一年二月廿七日
第一節 後段御見込ノ通第二節御見込ノ通第三節第一節後段ノ通御承知相成候

第百二十一章 課税ニ關スル處分ニ就キ出訴方 明治十五年五月十日

第貳拾貳號 布告

課税ニ關スル處分ニ就キ不服アリテ出訴セントスル者ハ先ツ其旨ヲ申立課額ヲ上納シ領收證書ヲ添ヘ其翌日ヨリ六十日内ニ訴出ツヘシ
但納稅期限前ニ訴出テ訴訟中ト雖モ其期限ニ至レハ課額ヲ上納スヘシ
右奉 勅旨布告候事

第百二十二章 所得税法ヲ頒ツ 二十年三月二十三日布告 勅令第五號

朕所得税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年三月十九日

内閣總理大臣 伯耆伊藤博文
大藏大臣 伯耆松方正義

勅令第五號 所得税法

第一條 凡ソ人民ノ資産又ハ營業其他ヨリ生スル所得金高一箇年三百圓以上アル者ハ此税法ニ依テ所得税ヲ納ムヘシ

第十二期 租税及貨紙幣公債區町村割

但同居ノ家族ニ屬スルモノハ總テ戸主ノ所得ニ合算スルモノトス

第二條 所得ハ左ノ定則ニ據テ算出スヘシ

第一 公債證書其他政府ヨリ發シ若クハ政府ノ特許ヲ得テ發スル證券ノ利子、營業ニアラサル貸金預金ノ利子、株式ノ利益配當金、官私ヨリ受クル俸給、手當金、年金、恩給金及對賦賞與金ハ直ニ其金額ヲ以テ所得トス

第二 第一項ヲ除クノ外資産又ハ營業其他ヨリ生スルモノハ其種類ニ應テ收入金高若クハ收入物品代價中ヨリ國稅、地方稅、區町村費、備荒儲蓄金、製造品ノ原貨物代價、販賣品ノ原價、種代、肥料、營利事業ニ屬スル場所物件ノ借入料、修繕料、雇人給料、負債ノ利子及雜費ヲ除キタルモノヲ以テ所得トス

第三 第二項ノ所得ハ前三箇年間平均高ヲ以テ算出スヘシ但シ所得收入以來未タ三年ニ滿タサルモノハ月額平均其平均ヲ得難キモノハ他ニ比準ヲ取リテ算出スヘシ

第三條 左ニ掲クルモノハ所得稅ヲ課セス

第一 軍人從軍中ニ係ル俸給

第二 官私ヨリ受クル旅費、傷痍疾病者ノ恩給金及孤兒寡婦ノ扶助料

第三 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

第四條 所得稅ノ等級及稅率左ノ如シ

第一等	所得金高三萬圓以上	稅率	百分ノ三
第二等	所得金高貳萬圓以上		
第三等	所得金高壹萬圓以上		百分ノ二
第四等	所得金高千圓以上		百分ノ一
第五等	所得金高三百圓以上		百分ノ一

但所得金高ハ圓位未滿ノ端數ヲ算セス

第五條 所得稅ハ前半年分ヲ其年九月ニ後半年分ヲ翌年三月ニ納ムヘシ

第六條 此稅法ニ依リ稅金ヲ納ムヘキ所得アル者ハ其年所得ノ豫算金高及種類ヲ記シ毎年四月三十日マテニ居住地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出ヘシ

第七條 各郡區役所管轄内ニ七名以下ノ所得稅調查委員ヲ置キ毎年調查委員會ヲ開キ所得稅ニ關スル調査ヲ爲サシム

調査委員定數ノ外五名以下ノ補缺員ヲ置キ缺員ノ補充ニ備フヘシ

第八條 調査委員ハ其郡區内ノ選舉ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 調査委員ノ選舉人ハ二十五歳以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ現住シ所得稅ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款第四款ニ觸ル、者ハ被選人タルコトヲ得ス同條第一款第二款第三款ニ觸ル、者ハ選舉人タルコトヲ得ス

第十條 郡區長ハ各町村内ニ五名ヨリ多カラサル町村選舉人ノ員數ヲ定メ其町村人民中第九條ノ資格ヲ有スル者ヲシテ互選セシム但便宜ニヨリ數町村ヲ合シテ五名ヨリ

多カラサル選舉人ヲ定ムルコトヲ得

町村選舉人ハ第九條ノ範圍内ニ於テ調査委員及補缺員ヲ選舉スヘシ

第十一條 調査委員ノ任期ハ兩年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改選ス但第一回ノ改選ハ抽籤ヲ以テ其退任者ヲ定ム

第十二條 調査委員ノ手當、旅費其他調査ニ關スル費用ハ國庫ヨリ之ヲ支給ス

第十三條 郡區長ハ第六條ノ屆書ニ據リ所得金高下調査ヲ製シ其屆書ト共ニ調査委員會ニ付スヘシ

第十四條 郡區長ハ納稅者ト認ムルモノニシテ第六條ノ期限ヲ過キテ其届出ヲ爲サ、ル者アルトキハ所得金高ノ見積ヲ立テ之ヲ調査委員會ニ付スヘシ

第十五條 調査委員會ハ郡區長ノ招集ニ由リ之ヲ開ク調査委員會ノ會長ハ郡區長ヲ以テ之ニ充ツ郡區長缺席スルトキハ會員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 調査委員會ハ會員過半數出席スルニアラサレハ會議ヲ開クコトヲ得ス會議ハ出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ可否スル所ニ依ル但自己ノ所得ニ關スルトキハ其會議ニ與ルコトヲ得ス

第十七條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ據リ各納稅者ノ所得稅等級金額ヲ定メ之ヲ納稅者ニ達スヘシ

第十八條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ關シ意見アルトキハ府縣知事ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第十九條 納稅者ニ於テ所得稅ノ等級金額ヲ不當トスルトキハ其達ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ所得金高明細書及其證據トナルヘキモノヲ添ヘ府縣知事ニ申出ルコトヲ得但此場合ニ於ケルモ其税金ハ達ヲ受ケタル金額ニ從テ之ヲ納ムヘシ

第二十條 府縣知事ハ第十八條第十九條ノ場合ニ於テハ府縣常置委員會ニ付シテ調査セシメ其決議ニ據テ之ヲ處分スヘシ但其處分納稅後ニ涉ルトキハ稅額ノ不足アルモノハ之ヲ追徵シ過剩アルモノハ之ヲ還付スヘシ

第二十一條 調査委員會又ハ常置委員會ハ此稅法ニ關シ調査上必要ト認ムルトキハ納稅者ニ尋問スルコトヲ得

第二十二條 調査委員其他所得稅ノ調査ニ關スル者ハ納稅者ノ資産及所得ニ係ル事件ヲ他ニ漏洩スヘカラス

第二十三條 納稅者其納期前ニ於テ所得金高十分ノ五以上ヲ減損シタルトキハ郡區長ニ申出ルコトヲ得郡區長ハ事實ヲ審査シテ其稅額ヲ減シ所得金高一箇年三百圓ヲ下ルモノハ之ヲ免稅スヘシ但既納ノ税金ハ之ヲ還付セス

第二十四條 所得金高ヲ隱蔽シテ逃稅シタル者ハ其逃稅金高三倍ノ罰金ニ處ス但自首スル者ハ其税金ヲ追徵シ其罪ヲ問ハス

第二十五條 第二十二條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第六條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十七條 此稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不倫罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ

用ヒス

第二十八條 此稅法施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十九條 此稅法ハ明治二十年七月一日ヨリ施行ス

但北海道、沖繩縣及東京府管轄小笠原島、伊豆七島ニ於テハ官府ヨリ受クル俸給、手當、年金及恩給金ノ外ハ當分ノ内之ヲ施行セス

附則

本法第六條ノ届書ハ本年ニ限リ七月三十一日マテニ差出スヘシ

○所得稅施行細則

二十年五月五日
大藏省令第八號

所得稅法施行細則左ノ通相定ム

所得稅法施行細則

第一條 戶主ニ所得ナクシテ同居ノ家族ノミニ所得アル場合ニ於テモ一家内ニ屬スルモノハ總テ合算ノ上其戶主ノ名ヲ以テ届出納稅スヘキモノトス

第二條 稅法第二條第三項ニ依リ所得ヲ算出スルハ其年所得ヲ生スヘキ現在ノ資産又ハ現在ノ業務ニ應シ前三箇年平均若クハ月額平均ノ歩合ニ依リ又ハ他ノ比準ニ依ルヘキモノトス

第三條 物品ニ收入スル所得ハ其相當價格ヲ以テ代金ヲ算出スヘシ

第四條 稅法第六條ノ届書ハ第一號書式ニ依ルヘシ

第五條 左ニ掲クル者ハ一定ノ地ニ其納稅管理人ヲ定メ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出此稅

法施行ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

一 此稅法ヲ施行セサル地ニ居住シ本法施行ノ地ニ於テ生スル所得金一箇年三百圓以上ヲ收入スル者

一 内外國ニ旅行シ又ハ外國若クハ此稅法ヲ施行セサル地ニ寄留スル納稅者

第六條 一人ニシテ數箇所ニ於テ所得ヲ收入スル者ハ其居住地ノ郡區長ニ届出ヲ爲ス
ト同時ニ第二號書式ニ依リ其所得ヲ收入スル各地ノ郡區長ニ届出ヘシ

第七條 郡區長第六條ノ届出ヲ受クルトキハ之ヲ其納稅地ノ郡區長ニ送付スヘシ但其届出高ニ對シ意見アルトキハ別ニ其意見ヲ附スヘシ

第八條 納稅者他ノ郡區役所所轄内ニ轉居セントスル片及ヒ轉居シタル片ハ各其地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出ヘシ

第九條 郡區長第八條ノ他ニ轉居セントスル者ノ届出ヲ受タルトキハ直チニ轉居者ノ所得稅ニ係ル一切ノ事項ヲ其轉居先ノ郡區長ニ通報スヘシ

第十條 郡區長ハ其所轄内ニ於テ納稅者ト認ムルモノ、所得ニ關シ調査上必要ナル場合ニ於テハ各地方ノ會社若クハ一個人ニ對シ其事項ノ問合ヲ爲スコトヲ得

第十一條 郡區長ハ調査委員撰舉ノ爲メ稅法第六條ノ届出ニ依リ毎年五月納稅者ノ住所姓名ヲ其管内ニ公告スヘシ

第十二條 調査委員會及ヒ調査委員選舉ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ム

第十三條 調査委員ヲ辭スルコトヲ得ル者ハ郡區長ニ於テ已ムヲ得スト思料スル事故

ルモノニ限ル

第十四條 調査委員會ノ決議書ハ會長及委員二名以上之ニ署名スヘシ

第十五條 所得税ノ等級金額ハ第三號書式ニ依リ年八月十日マテ毎ニ之ヲ達スヘシ

第十六條 區長ニ於テ直ニ戶長ノ事務ヲ行フ區内ニ在テハ府縣知事ノ見込ヲ以テ大藏

大臣ノ認可ヲ受ケ一區内ヲ數部ニ割シ每部ニ五名以下ノ臨時取調掛ヲ置キ區長ノ指

揮ニ從ヒ所得税調査ニ關スル下調ヲ爲サシムルコトヲ得

第十七條 税法第二十九條但書ノ所得ニ關スル等級金額ハ北海道廳長官東京府知事沖

細縣知事之ヲ査定スヘシ

第十八條 調査委員招集ニ應セサルカ又ハ會員過半数出席セス若クハ其他ノ事故ニ依

リ第十五條ノ等級金額達期振マテニ調査ヲ了セサル片ハ郡區長ニ於テ等級金額ノ意

見ヲ付シ府縣知事ニ差出シ府縣知事ハ之ヲ大藏大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第十九條 第五條ニ違ヒ又ハ第六條第八條ノ届出ヲ怠リタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五

錢以下ノ科料ニ處ス

附則

本年ニ限り第十一條ノ公告ハ十月末日迄ニ第十五條ノ達ハ十二月末日迄ニ之ヲ爲スヘシ

(書式第一號)

所得金高届

(税法第二條第一項ノ所得金ハ及債權書株券貸金俵給其他共税法ノ掲記ニ從ヒ各別項ニ記スルヲ要ス)

△印ハ朱書

二十年九月
大藏省令第
十三號ヲ以
テ附則改正

一金何圓 何々ノ利息又ハ利益配當金又ハ何々

一金何圓 貸金ノ利息

△税法第二條第二項ノ所得金營業並ニ資産ノ種類ヲ別チテ之ヲ記スルヲ要ス但各欄混同ニシテ所得ヲ分別シ
難キモノハ之ヲ合記スヘシ其支店分店及ヒ居住地外ニ屬スルモノハ毎箇所ノ所得ヲ別項ニ記シ其所得ノ別
町村名ヲモ併記スヘシ若シ其所得混同スルモノハ之ヲ合記スヘシ又扣除スヘキ金額ハ外書トシテ各本項ニ
掲ケタル種類ニ屬スル費用ニ係ルモノ、ミナ記スヘシ

一金何圓 何々ノ所得

外

金何圓 向租、向税、區町村費、備荒儲蓄金

金何圓 製造品原質物、代金、商品原價

金何圓 借地借家料、何々借入料、何々修繕料

金何圓 種代、肥代、何々買入代金

金何圓 雇人給料、何々手當、何々費

金何圓 何々ニ係ル負債ノ利息

小以金

所得高計金

右之通ニ候也

年月日

(若シ管理人ナルトキハ)

第十二類 租税及貨紙幣公債區町村費

三百九

何ノ誰

何(府縣)何(郡區)何(町村)居住(又ハ寄留)

(書式第二號) (郡區)長宛

何(府縣)何(郡區)何(町村)何誰納稅管理人
何(町村)

何 / 誰

(書式第二號)

所得稅納入地届

△(所得及扣除金ノ區分方ハ總
テ第一號書式ニ準據スヘシ)

一金何圓 何々ノ所得

一金何圓 何々ノ所得

外

金何圓 何々

金何圓 何々

小以金

所得高計金何圓

右ハ御所轄郡區内ノ所得金ニ有之候處税金ハ何(府縣)何(郡區)何(町村)ニ於テ合算ノ上
相納候ニ付此段及御届候也

何(府縣)何(郡區)何(町村)居住(又ハ寄留)

年月日

何 / 誰

(若シ管理人ナルトキハ)

何(府縣)何(郡區)何(町村)何誰納稅管理人
何(町村)

何 / 誰

(郡區)長宛

(書式第三號)

明治 年 何(郡區)何(町村)

何等所得税金、〃、〃、圓 何 誰

右所得稅ノ等級金額頭書ノ通相定ム但之ヲ不當トス
ルトキハ所得稅法第十九條ニ據リ申出ヘシ

年月日 何(郡區)長何 誰印

○所得稅納稅者ヨリ届出書面ノ誤謬訂正申出ノキ

取扱方

二十一年七月九日
大藏省訓令第卅五號

所得稅納稅者届出タル書面ニ誤謬ノ廉アルヲ以テ訂正方申出ツルトキハ郡區長之ヲ密
查シ其實質明確ト認ムルモノニ限り左ノ區別ニ從テ之ヲ取扱フヘシ

第一項 調査委員會開會以前ニ申出ツルモノハ郡區長ニ於テ之ヲ訂正セシムヘシ

第二項 届出ノ重複ニ涉レルモノハ調査委員會決議後ト雖モ郡區長ニ於テ之ヲ訂正
スルコトヲ得

第三項 第二項ノ場合ヲ除クノ外其申出ノ調査委員會決議後ニ係ル者ハ所得税法第十八條及第二十條ニ據リ處分スヘシ

● 伺指令

● 所得税法取扱方ニ付静岡縣ヨリ大藏省へ伺二十年七月(同月三十日官報)

所得税法施行細則第六條ニ一人ニテ數箇所云々第二號書式ニ依リ其所得ヲ收入スル各地ノ郡區長ニ可届出ト有之右ハ税法第二條第二項ニ屬スルモノニ限リ届出ヲ爲サシムル儀ニシテ第一項ニ掲記ノ分ハ總テ届出ヲ爲サシムルニ及ハサルヤ

同第十條會社若クハ一人ニ對シ其事項ノ開合ヲナスコトヲ得ト有之候得共其事項書面ニテ難難場合ニ於テハ其本人ヲ呼出スヲ得ルヤ

指令 二十年七月二十七日 第一項申出ノ通り第二項本人ヲ呼出スコトハ相成ラス

● 所得稅取調方ノ件(滋賀縣) 伺明治廿一年十二月二日

所得稅納稅者他、郡區役所轄内ニ轉居セントスル時及轉居シタル時ハ其地ノ戶長ヲ經テ届出郡區長ハ直チニ轉居者ノ所得稅ニ係ル一切ノ事項ヲ轉居先郡區長ニ通報スヘキ等本年五月貴省令第八號施行細則第八條第九條ニ掲載有之候處既ニ調査會結了後他ノ調査會開會以前ノ郡區ヨリ轉居シタルモノアルトキハ其當人所得稅ヲ調査スル爲メ再ヒ調査會ヲ開クニ及ハズ郡區長限リ査定セシメ可然哉

(大藏省)指令 明治廿一年十二月六日 伺之通

但郡區長ニ於テ本人届書ニ對シ意見アルハ税法第十八條ニ據ルヘシ

● 所得屆誤記ノ件(鹿兒島縣) 伺明治二十一年一月十九日

郡區長ニ於テ所得税法施行細則第十五條ノ通り申出タル後納稅者ヨリ同税法範圍外ノ金額(例へハ軍人官舎料及馬飼料額算入届出置タル旨ヲ以テ誤ノ届書中扣除ノ誤申出タル者有之右ハ諸手續ノ名稱ニテ既ニ委員會ニ於テ議決セシモノナレトモ申立ノ事實相違ナキトキハ郡區長ハ直ニ右違金額更正取計可然哉ニ候哉

(大藏省主稅局)回答 明治二十一年一月二十八日
税法第十八條若クハ十九條ニ據ルノ外訂正ノ途ナシ

● 所得屆誤記ノ件(大坂府) 伺 明治二十一年一月二十四日

所得税法第十七條ニヨリ納稅者ニ所得稅等級金額ヲ達シタル後納稅者ニ於テ屬ノ届出ニ誤謬 第二條第三項原質品誤リタルアルヲ發見シ引直方申出ルモノアリ右ハ調査委員會ニ相當ト見認メ議決セシモノニ付第十八條ニ據リ郡區長ノ意見アルモノ、外ハ第十九條ノ期限内外ニ拘ハラヌ總テ受理セサル儀ニ候哉

(大藏省主稅局)回答 明治二十一年一月二十八日
所得屆誤リノ者ハ税法第十九條ニ據ルヲ得ヘシ

● 所得金届出高誤謬發見ノ際取扱方ノ件(福島縣) 伺明治二十一年一月廿一日

所得稅調査委員會議決ノ未該税法施行細則第十五條ニヨリ等級稅金額等示達ノ後當初ノ届書金額ニ誤謬アリテ其訂正方ヲ本人ヨリ郡區長へ申出事實相違ナキモノ又ハ寺院等ニテ無形人ノ所得ヲ届出其儘調査委員會ニ於テ圖定シタルヲ發見シ右處分郡區長ヨリ申出タルトキハ假令議定後ト雖止ムヲ得サル義ニ付更正又ハ取消ノ儀開届不苦哉

(大藏省指令) 明治二十一年一月二十七日
税法第十八條第二十條ニ據ルノ外訂正不相成

● 所得稅納人轉居セシ者處分方ノ件(新潟縣) 伺 明治廿一年二月廿二日

所得稅ヲ納ムルモノ納期ニ至リ(例へハ三月一日ヨリ)甲郡區ヨリ乙郡區へ轉居シタルトキ甲郡區役所ニ於テハ既ニ徵稅令書ヲ發シタル後ニ付假令本人轉居先ニ納稅政度申出ルモ取扱上不相合ノ嫌ナキニアラサルニ付甲郡區役所ニ於テ徵稅可爲致義ト存候得共疑義ニ涉リ候ニ付一應及伺問合候

大藏省主稅局)回答 明治二十一年三月一日
(右ハ既ニ徵稅令書ヲ發シタル者ニ限リ御見込ノ通り取扱可然ト被存候

●所得税不納者處分方ノ件(兵庫縣)伺 明治廿一年四月十日
所得税不納者處分方ノ儀去月十七日付テ以テ内訓ノ旨モ有之候處他ノ負債ノ爲メ身代限り處分ニ際會スルトキハ該税金ハ其取ノ權アルモノトシ郡區長ヨリ裁判所ヘ照會シ財産贖當代價ノ内ヨリ請取可然哉
(大藏省指令) 明治廿一年四月廿六日
所得税不納處分ノ件ハ伺ノ通り裁判所ヘ請求ス可シ

第二百二十三章 土地ニ賦課スル區町村費 十八年八月十五日 第二十五號布告

土地ニ賦課スル區町村費ハ明治十九年度ヨリ地租七分ノ一ヲ超過スルヲ得ス
但非常ノ費用ハ豫知スヘカラサル天災時變ノ費用ヲ云別ニ賦課スルヲ得此場合ニ於テハ區町村會若クハ水利土功會ノ評決ヲ取り府知事縣令ノ指揮ヲ請フヘシ

○區町村會ニ於テ評決シタル區町村費ニ關シ出訴方 十七年七月四日 第二十二號布告

區町村會ニ於テ評決シタル區町村費ニ關シ不服アリテ出訴セントスルモノハ都テ明治十五年五月第貳拾貳號布告ニ依ルヘシ
右奉 勅旨布告候事

第二百二十四章 區町村費及土木費怠納者處分 明治十七年五月七日 第拾五號布告

區町村會ニ於テ評決シタル區町村費及ヒ水利土功會ニ於テ評決シタル土木費ノ怠納者ハ總テ明治十年十一月第七十九號布告ニ據リ處分ス可シ若シ財産公賣ノ際買受望人ナキトキハ官沒ノ手續ヲ爲サス郡區長又ハ戶長ニ於テ之ヲ管掌シ會議ノ評決ヲ取り府知事縣令ノ認可ヲ得テ處分ス可シ

但明治十四年四月第貳拾四號布告ハ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

第二百二十五章 北海道區町村協議費怠納者處分方及不服者

出訴ノキハ十七年第二十三號布告ニ據ラシムヘシ 十八年八月十日 第二十二號布告

函館札幌根室三縣ニ於テ區町村總代人ノ評決シタル協議費ノ怠納者ハ明治十七年五月第十五號布告ニ準シテ處分スヘシ其協議費ニ關シ不服アリテ出訴セントスルモノハ全年七月第二十三號布告ニ據ルヘシ
右奉 勅旨布告候事

第二百二十六章 北海道三縣ニ於テ協議費怠納者處分方並右

協議費ニ關シ出訴方 明治十八年八月十日 第貳拾貳號布告

函館札幌根室三縣ニ於テ區町村總代人ノ評決シタル協議費ノ怠納者ハ明治十七年五月第十五號布告ニ準シテ處分スヘシ其協議費ニ關シ不服アリテ出訴セントスルモノハ同年七月第貳拾三號布告ニ據ルヘシ
右奉 勅旨布告候事

第二百二十七章 備荒儲蓄法 明治十三年六月十五日 第三拾壹號布告

備荒儲蓄法別紙ノ通相定來ル十三年度(明治十四年一月一日)ヨリ施行候條明治八年七月第百廿二號

第十二類 租税及貨紙幣公債區町村費

達窮民一時救助規則及同十年九月第六十二號布告凶歲租稅延納規則ハ右施行ノ期日ヨリ廢止トス此旨布告候事

(別紙)

備荒儲蓄法

- 第一條 備荒儲蓄金ハ非常ノ凶荒不慮ノ災害ニ罹リタル窮民ニ食料小屋掛料農具料種穀料ヲ給シ又罹災ノ爲メ地租國稅ノ部分ニ限ルヲ納ムル能ハサル者ノ租額ヲ補助シ或ハ貸與スルモノトス
- 第二條 各府縣ハ土地ヲ有スル人民ヨリ地租ノ幾分ニ當ル金額ヲ公儲セシメ以テ儲蓄金ヲ設ク可シ各人ヨリ公儲スルノ割合ハ府縣會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ其總額ハ政府ヨリ配付スル金額ヨリ少カラサルヲ要ス
- 但市街ハ府縣會ノ議決ヲ以テ政府ノ許可ヲ得郡村ト其徵收法ヲ異ニスルヲ得
- 第三條 政府ハ每歲百貳拾萬圓ヲ支出シテ儲蓄金ヲ補助スヘシ
- 第四條 政府ヨリ補助スル金額ノ内三拾萬圓ハ中央儲蓄金トシテ大藏卿之ヲ管掌シ九拾萬圓ハ各府縣ノ地租額ニ應シテ之ヲ配付スヘシ
- 第五條 府縣儲蓄金ヲ徵收シ管守シ支給シ及ヒ之ヲ一處ニ集儲シ數所ニ分儲シ或ハ米穀ヲ購入スルノ方法ハ府知事縣令ヨリ之ヲ府縣會ニ付シ其議決ヲ取り内務大藏兩卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ之ヲ施行スヘシ但シ米穀ヲ儲蓄スルハ儲蓄金ノ半額ヲ超ユヘカラス他ノ半額ハ公債證書ニ交換シ置クヘキ者トス
- 第六條 府縣會ニ於テ議決スル儲蓄金支給ノ方法ハ左ノ制限ヲ超ユヘカラス

第一 食料ヲ給スルハ罹災ノ爲メ自ラ生存スル能ハサル者ニ限ル其日數ハ三十日以内トス又同上ノ窮民ニ小屋掛料ヲ給スルハ一戶拾圓以内農具料種穀料ヲ給スルハ一戶貳拾圓以内トス

第二 地租ヲ補助及ヒ貸與スルハ罹災ノ爲メ土地家屋ヲ賣却スルニアラサレハ地租ヲ納ムル能ハサル者ニ限ル

第七條 各府縣窮民ノ救助地租ノ補助及ヒ貸與ノ金額府縣ノ儲蓄金三分式以上ヲ供用支出スルハ府知事縣令ノ具申ニ依リ内務大藏兩卿ノ協議ヲ以テ中央儲蓄金ヨリ補助スヘシ

第八條 從前人民公儲ノ儲蓄金アル府縣郡區町村ハ之ヲ以テ今般施行スル所ノ備荒儲蓄金ニ補充スルヲ得

第九條 各府縣内儲蓄金ノ出納ハ大藏卿歲次或ハ臨時ニ之ヲ檢査スヘシ

第十條 府知事縣令ハ每年七月中ニ其府縣儲蓄金ノ出納ヲ内務大藏兩卿ニ報告シ兩卿ハ每年中央及ヒ府縣儲蓄金ノ出納ヲ全國ニ公布スヘシ

第十一條 此方法ハ貳拾ケ年間施行スルモノトス滿期ノ後ニ至リ各府縣ニ存在スル儲蓄金ハ府縣會ノ議決ヲ以テ其保存方法ヲ定ムヘシ

○備荒儲蓄金息納者處分方及免除方

明治十三年十一月十二日 第五拾號布告

本年六月第三拾壹號布告ヲ以テ定メタル備荒儲蓄金ヲ息納スル者ハ十年十一月第七拾九號布告ニ據リ處分スヘシ但該儲蓄金ヨリ給與補助若クハ貸與ヲ受ルモノハ免除スヘシ此旨布告候事

○備荒儲蓄金ニ關シ不服アリテ出訴方

明治十五年十二月二十八日
第七拾四號布告

備荒儲蓄金及區町村會若クハ水利土功ノ集會ニ於テ評決シタル土木費ニ關シ不服アリテ出訴セントスルモノハ都テ明治十五年^五月^五日^五第貳拾貳號布告ニ依ルヘシ
右奉 勅旨布告候事

○備荒儲蓄金取扱順序改定

府 縣 沖繩縣
ヲ除ク

○大藏省令第十五號

明治十三年十一月^{內務}大藏^乙第卅八號達備荒儲蓄金取扱順序左ノ通改定ス

但シ報告書式ハ別ニ頒ツ(書式略ス)

明治二十年十二月九日

大藏大臣伯爵松方正義

備荒儲蓄金取扱順序

- 第一條 備荒儲蓄金ハ每年政府ヨリ配付スルモノヲ配付金ト稱シ人民ヨリ徵收スルモノヲ公儲金ト稱ス而シテ右配付金及公儲金ヲ合セテ府縣儲蓄金ト稱スヘシ
- 第二條 配付金ハ前年度ノ地租豫算高ニ據リ其額ヲ定メ以テ毎年十一月以前ニ達スヘシ
- 第三條 府縣ニ於テハ配付金高ヲ以テ最下額トシ公儲金徵收ノ割合ヲ定メ而シテ其徵收期限ハ支出差支ナキ爲メ適宜前收ノ方法ヲ設ケ府縣會ニ於テ議定セシムヘシ
- 第四條 公儲金ヲ免除スルハ罹災ノ年度ニ限ルモノトス其免除及不納處分等ヨリ生スル缺額ハ總テ翌々年度ニ於テ一般ニ賦課シテ補充スヘシ最其總額配付金ノ高ヨリ不足セサル場合ニ在リテハ之ヲ補充セサルモ妨ナシ

但前年度内ニ公儲金ノ全部ヲ前收スルモノニ限リ本年度罹災者ハ翌年度ノ公儲金ヲ免除スルヲ得

第五條 地租ノ貸與金事故ナクシテ返納ヲ怠ルモノハ裁判ニ付スヘシト雖モ不慮ノ災害ニ遭遇シ返納シ能ハサルモノハ之ヲ猶豫シ又ハ免除スルノ方法ヲ設ケ府縣會ニ於テ議定セシムヘシ

第六條 備荒儲蓄法第五條ニ因リ內務大藏兩大臣ヘ具申スルトキ儲蓄金收支豫算書ヲ添ヘ差出スヘシ大藏大臣ハ配付金ヲ兩度^{四月}ニ交付スヘシ

第七條 府縣儲蓄金ノ內災害其他相當ノ支出ニ充ツル爲メ現金ヲ借置キ引出方ニ差支ナキニ於テハ之ヲ銀行等ヘ預ケ金ト爲スモ妨ナシ

但預ケ金ヲ爲ス場合ニ於テハ其預ケ箇所ハ府縣會ニ於テ議定セシメ必ス預ケ金額ニ對スル抵當ヲ取置ヘシ最右抵當ハ公債證書ニ限ルモノトス

第八條 米穀ヲ貯積スル爲メ倉庫ヲ建築シ及借庫料番入給料等ニ係ル諸費用<sup>官吏郡縣吏
旅費ノ如キ</sup>ハ此限ニ並ニ米穀公債證書ノ賣買等ニ關スル諸雜費及損失ハ府縣儲蓄金ノ内ヨリ支辨スルノ方法ヲ設ケ府縣會ニ於テ議定セシムヘシ

但シ倉庫ヲ建築スルハ給貸等ニ支障ナキヲ計リ府縣儲蓄金ノ餘裕アルヲ待テ之ニ着手スヘシ

第九條 府縣儲蓄金ノ三分ノ二<sup>前年度ヨリノ最高及ヒ其年收入スヘキ
儲蓄金ヲ合セタル總額ニ對シ計算スヘシ</sup>以上ヲ供用支出セントスル片ハ豫メ災害ノ景况及救助額ノ概算ヲ內務大藏兩大臣ニ具狀シ中央儲蓄金ノ補

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

二十一年五月
大藏省令
第五號
五月三號
三月九號
四月九號
四月九號

蓄金ノ補助ヲ請求スヘシ此場合ニ於テハ時トシテ内務大藏兩省ノ官吏ヲ派遣シ實際ヲ査閲スルコトアルヘシ

第十條 中央儲蓄金ヨリ補助ヲ要シタルトキ府縣知事ハ其顛末ヲ管下ヘ告示スヘシ
第十一條 凡府縣儲蓄金ノ出納ハ每半期報告書ヲ作り上半期ハ十月中下半期ハ翌年四月中其地ヲ發シ大藏大臣ヘ差出スヘシ

第十二條 府縣儲蓄金ノ出納ハ便宜ニ從ヒ出納シ現金米穀公債證券等ノ受及内譯簿現金米穀出納ノ内譯簿明カニスル帳簿ヲ云フヲ製シ置キ常ニ其會計ヲシテ明瞭ナラシムヘシ

第十三條 府縣儲蓄金ノ精算報告ハ備荒儲蓄法第十條ニ因リ毎年七月中ニ内務大藏兩大臣ニ差出シ且其年通常府縣會ニ報告スヘシ

第十四條 大藏大臣ハ官吏ヲ派遣シ每歲又ハ臨時ニ府縣儲蓄金或ハ貯積米ヲ検査セシムヘキニ因リ府縣知事ハ積蓄及分儲ノ所在並ニ米穀貯積ノ場所等ヲ毎年四月中ニ大藏大臣ニ報告スヘシ

第十五條 府縣儲蓄金或ハ貯積米ノ検査ハ大藏省派出官吏ノ便宜ニ因リ府縣知事ヘ通牒セズ直ニ其所在ニ就キ検査スルコトアルヘシ尤此場合ニ於テハ派出官吏ハ大藏大臣ノ命令書ヲ携帶スルモノトス

○備荒儲蓄金ヲ定期預ケト爲シ又ハ預ケ金ニ對スル抵當物
十五年四月十三日内務省令第二十五號府縣(沖繩縣及北海道三縣ヲ除ク)ヘ達(大藏卿連署)

明法十三年乙第三十八號ヲ以テ相達候備荒儲蓄金取扱順序第七條儲蓄金ヲ以テ銀行

等へ定期預ケト爲ス場合ニ於テハ其預ケ箇所ハ豫メシ府縣會ニ於テ議定セシメ必ス預ケ金額ニ對スル抵當取置候ハ勿論ニ候處右抵當ハ公債證券ニ限り候儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○公儲金ヲ免除スルハ罹災年度ニ限ル
十六年四月十三日 内務大藏兩省乙第十五號府縣(函館沖繩札幌根室四縣ヲ除ク)達

明治十三年 第五十號布告但書ニ依リ公儲金ヲ免除スルハ其罹災ノ年度ニ限ルヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事
但從前ノ令達之ニ矛盾スルモノハ廢止ス

●同指令

○備荒儲蓄ノ内無定期預金ニ對スル抵當品ノ儀ニ付山形縣ヨリ内務省ヘ伺
十六年十月九日

備荒儲蓄定期預金ニ對スル抵當品ハ公債證券ニ限ルヘキ旨十五年乙第二十五號御省御達之趣モ有之候處費用ノ節ハ何時ニテモ返納可致約束ヲ結ヒ全ク當分ノ無定期預ケ金タルモ抵當ハ前號御達ノ例ニ據リ公債證券ニ限ルヘキ哉又ハ相當ノ地所ニシテ預ケ金額ニ對シニ割以上ヲ超過シタル地價金ヲ以テ充分ト見認候抵當差出候節ハ預ケ金取行差支無之哉至急何分ノ御指揮相成候様致度此段相伺候也

指令(大藏省) 十六年十月廿六日
何之趣抵當品ハ公債證券ニ限ル儀ト可相心得事

○備荒儲蓄金支出科目疑義ノ件(福井縣)伺
明治二十一年 六月廿五日
客年十二月御省令第十五號ヲ以テ備荒儲蓄金取扱順序改正相成其出納科目ハ則チ款項目節ニ區別設定セラレ候處

第十二條 租稅及貨物公債區町村費

儲蓄法第一條ニ據リ地租ノ補助貸與ヲ爲スヘキモノ、土地検査ノ爲メ出張官吏ニ於テ雇上ケタル拜初粉掃等ノ人足賃ハ救助費若クハ地租貸與ノ項ニ相當ノ目無之ニ付是等ハ儲蓄費儲人料ヨリ支拂可然哉又ハ儲蓄費ノ儲人料トハ其性質ヲ異ニスルモノナルヲ以テ救助費ノ内ヘ更ニ雜費ノ節ヲ設ケ支拂可然哉

(大藏省)指令 明治二十一年七月三十一日
檢段伺ノ邊

第二百二十八章 預金規則

明治十八年五月三十日 第拾三號布告

預金規則左ノ通制定ス

- 預金規則
- 第一條 大藏省中ニ預金局ヲ置キ左ノ貯金積立金ヲ預リ之ヲ保管利殖セシム
- 第一 驛遞局貯金
- 第二 各官廳ノ成規ニ從ヒタル積立金
- 第三 社寺教會會社其他人民ノ共有ニ係ル積立金ニシテ其請願ニ據ルモノ
- 第二條 預リ金取扱手續ハ大藏卿之ヲ定ム
- 第三條 預リ金ノ利子割合ハ大藏卿之ヲ定ム
- 第四條 預リ金ニ關スル損益ハ國庫ノ負擔トス
- 第五條 預リ金ノ證書ハ買戻與又ハ書入質入スルヲ得ス
- 第六條 預リ金ノ運用ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシムルモノトス
- 第七條 大藏卿ハ便宜ノ地ヲ撰ミ預金局出張所ヲ設置シ又ハ國庫金取扱所ヲシテ預リ

金受渡ヲ取扱ハシムルコトアルヘシ

- 第八條 預リ金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス
- 右奉 勅旨布告候事

○社寺教會々社及人民共有ニ係ル預金取扱手續

明治十八年六月八日 大藏省第八拾八號告示

本年五月第十三號布告預金規則第一條第三項社寺教會々社及人民共有ニ係ル預リ金取扱手續左ノ通相定ム
但施行日限及利子割合ハ遣テ新聞紙ヲ以テ廣告ス
右告示候事

預金取扱手續

- 第一條 預ケ金受渡ハ東京ハ預金局各地方ハ國庫金取扱所(稅關國庫金取扱所ヲ除ク)ニ於テ取扱フモノトス
但東京府下郡部ニ設置ノ國庫金出納支所ニ於テモ各地方預ケ金ノ受渡ヲ取扱フモノトス
- 第二條 預ケ金ヲ分チテ通常定期ノ二種トス
- 第三條 通常預ケ金ハ金額ヲ限ラス拂戻期限ヲ定メサルモノトシ定期預ケ金ハ金額百圓以上期限ヲ滿六ヶ月ヨリ十八ヶ月迄トス
- 第四條 通常預ケ金ヲ始メテ預ケ入ルルハ申込書(第一式)及印鑑二枚ヲ其預リ所(東京ハ預方ハ國庫金取扱所ニ差出スヘシ)ニ云フ以下同シ

二十六年六月八日告示
大藏省第八拾八號告示
以テ但本行
ナリ七月一日
ル

第五條 預ケ主ハ預リ所ニ於テ預金通帳ヲ受取り預ケ金ヲナス毎ニ之ヲ其預リ所ニ差出シ金員及年月日ノ記入預リ所ノ印主務者ノ調印ヲ受ケヘシ

第六條 預金局ヘ直ニ預ケ入タル通常預ケ金ノ拂戻ヲナスハ其請求書(書式)ニ通帳ヲ添ヘ預金局ヘ差出シ其金員ヲ受取ルヘシ

第七條 各地國庫金取扱所ヘ預ケ入タル預ケ金ノ拂戻ヲナスハ其請求書(書式)ヲ其取扱所ヲ經テ預金局ヘ差出スヘシ

第八條 預金局ニ於テ前條拂戻請求書ヲ受ケタルハ其請求書(書式)ヲ其請求人ヘ送達スヘシ請求人ハ該證書ノ請取欄内ニ記名調印ヲナシ取扱所ヨリ其金員ヲ受取ルヘシ

第九條 拂戻金ハ其拂戻證書ノ日付ヨリ左ノ期限内ニ受取ルヘシ若シ期日ヲ失スルハ取扱所ヲ經テ更ニ預金局ヘ其證書ノ書替ヲ請求スヘシ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ此限ニアラス

百里未満	二十日
東京ヨリ	二百里未満 三十日
	二百里以外 四十日

第十條 通常預ケ金ノ全額ヲ拂戻スハ通帳ヲ返付セス又其幾分ヲ拂戻スハ預リ所ニ於テ其通帳ニ拂戻金員及年月日ヲ記載シ預リ所ノ印主務者ノ調印ヲナシ之ヲ返付

十九年一月
大藏省告示
第七號ヲ以テ
出納局ヲ改
メ金庫局トス

スヘシ

第十一條 通常預ケ金ハ預ケ入レタル月及拂戻ス月ハ其金額ニ利子ヲ付セス但預リ所ヘ預ケ入タル月ヲ以テ預ケ月トシ預金局ヨリ拂戻證書ヲ發シタル月東京ハ金庫局仕拂切符ヲ交付シタル月ヲ以テ拂戻シ月トス

第十二條 通常預ケ金ヨリ生スル利子ハ毎年六月十二月ノ兩期ニ分チ之ヲ其元金ニ組入ルヘシ

第十三條 預ケ主ハ毎年三月九月ニ於テ通帳ヲ其預リ所ニ差出シ前條利子ノ記入ヲ受ケヘシ

第十四條 元金ニ加ヘサル通常預ケ金ノ利子ハ預ケ金ノ全額ヲ拂戻スハニアサレハ之ヲ受取ルヲ得ス

第十五條 一ノ預リ所ヨリ請取タル通帳ヲ以テ他ノ預リ所ニ於テ預ケ入レ拂戻ヲナスヲ得ス

第十六條 預金通帳ハ預ケ金受授ノ證トス

第十七條 定期預ケ金ヲナスハ申込書(書式)及印鑑二枚ヲ預リ所ニ差出シ其金員ヲ預ケ入レ定期預リ金證書ヲ受取ルヘシ

第十八條 定期預ケ金ヲ受取ルハ其預リ金證書ノ受取欄内ニ元利金額受取ノ記入ヲナシ記名調印ノ上之ト引替ニ其金員ヲ受取ルヘシ

第十九條 定期預ケ金ヲ引續キ預ケ入ルハ更ニ期限等ヲ認メタル申込書ヲ左ノ日割

ニ據リ其預リ所ニ差出シ置キ満期ニ至リ新舊證書ノ引替ヲナスヘシ

百里未満ハ満期ヨリ三十日前

東京ヨリ 二百里未満ハ満期ヨリ四十日前

二百里以外ハ満期ヨリ五十日前

第二十條 定期預ケ金ノ利子ハ預リ所ニ預リタル翌日ヨリ満期當日迄日歩割ヲ以テ計
算スルモノトス

第二十一條 金銀貨ヲ預ケ入レ同種類ヲ以テ拂戻ヲ要スル分ハ定期預ケ金ニ限ルモノ
トス

第二十二條 定期預ケ金ハ其期限内之ヲ引出スコトヲ得ス

第二十三條 預ケ金ヲ直ニ預金局ニ預ケ入ルキハ金庫局へ現金ヲ納付シ全局ノ領收證
書ヲ以テ預ケ入ルモノトシ又其拂戻ヲナスキハ預金局ヨリ金庫局仕拂切符ヲ以テ拂
渡スモノトス

第二十四條 各地國庫金取扱所ニ於テ取扱ヒタル預ケ金ハ其報告ニ依リ預金局ノ帳簿
ニ登記シ全局ヨリ帳記簿ノ通知書ヲ其預ケ主へ送付スヘシ

第二十五條 國庫金取扱所へ預ケ金ヲナシタル後左ノ期日迄ニ前條ノ通知書到達セザ
ルキハ預ケ主ハ其日限ノ翌日ヨリ一週間以内又到達セシモ金員年月日ニ相違アルキ
ハ到達ノ翌日ヨリ一週間以内ニ其旨ヲ認タル通知書ヲ預金局へ發送スヘシ

百里未満 二十日

東京ヨリ 二百里未満 三十日

二百里以外 五十日

第二十六條 預ケ金拾錢未満ノ端金ニハ利子ヲ付セス

第二十七條 預ケ入申込書及拂戻請求書其他調印ヲ要スル書類ニハ社寺教會々社ニア
リテハ其名稱ヲ記シ且押印ヲナシ其擔當者一名記名調印シ又二人以上ノ共同ニ係ル
モノハ其總代人一名記名調印シ且共同者中ノ一名記名加印スヘシ

第二十八條 社寺教會々社ノ預ケ金ハ社寺教會々社ヲ以テ一個ノ預ケ主ト看做シ又共
同ニ係ル預ケ金ハ其總代人ヲ以テ一個ノ預ケ主ト看做スヘシ

第二十九條 社寺教會々社并其擔當者及共有預ケ金ノ總代人并加印者氏名變換又ハ轉
住セシキハ其届書ヲ預リ所ニ差出スヘシ

第三十條 預ケ金擔當者總代人若クハ加印者變更アルキハ後任者ノ印鑑二枚ヲ添へ連
署ノ届書ヲ預リ所へ差出スヘシ

但前任者連署シ能ハサルキハ證人ヲ立ツヘシ

第三十一條 預金通帳定期預リ金證書又ハ拂戻證書ヲ失亡セシキ或ハ汚染毀傷シテ文
字印章判明ナテサルキハ其事出テ詳記セシ届書ヲ預リ所ニ差出シ再渡ノ請求ヲナス
ヘシ但通帳又ハ證書失亡ノ場合ニ於テ再渡ヲ受ケシ後ハ舊通帳又ハ證書ハ無効トシ
爾後發見セシキハ之ヲ預リ所へ納付スヘシ

第三十二條 預金通帳又ハ定期預リ金證書ハ大藏省官員ヨリ検査照合等ヲ要スルヲアルヘシ但該官員臨檢ヲナスルハ其證據書ヲ携帶スルモノトス

用紙美濃紙
(第壹書式)

通常預ケ金申込書

何神社
何教會
何社會
何々共有

何々金預ケ入仕度尤御成規堅ク相守可申候也

明治何年何月何日

社寺教會々社
ナルキハ此例ニ倣フヘシ

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地
何神社(何寺)(何教會)(何會社)印
何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地
擔當者 氏名印

共有預ケ金ナルキハ此例ニ倣フヘシ

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地
共有金總代人 氏名印
何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地
加印者 氏名印

預金局長

官氏名殿

用紙美濃紙
(第貳書式)

預ケ金拂戻請求書

何神社
何教會
何社會
何々共有

何々金(元利息皆)御拂戻被下度候也
(内金何程)

明治何年何月何日

預金局長

官氏名殿

(預ケ人氏名住所等ノ記帳方第一書式ニ同シ)

(第三書式)

番號	第何號	渡	何神社 (何寺) (何教會)
通帳番記號	第何號	先	(何會社) (共有金氏名)

預金拂戻證書

一金何程也

内金何程也
金何程也

元金
利子

右金額此證書引替ニ可相渡候也

明治何年何月何日

預金局長

官氏名

名印

何府(縣)

甲 號

何地

國庫金取扱所

前書金額正ニ請取候也

(何神社(何寺)(何教會)(社寺教會々社ハ其名)
(何會社)(何々共有金)(稱ノ下ニ其印ヲ捺ス)

総代人(擔當者)

氏 名 印

加印者

氏 名 印

明治何年何月何日

甲號拂戻證書裏面記載文

- 一 拂戻金ヲ請取ルルハ此證書表面請取證欄内ニ記名調印ヲナシ國庫金取扱所へ差出シ之ヲ引替ニ拂戻金ヲ請取ヘシ
- 一 此證書ヲ以テ拂戻金引替ヲナスハ表面ノ日附ヨリ左ノ期日迄トス
 - 東京ヨリ
 - 百里未満 二十日
 - 二百里未満 三十日
 - 二百里以外 四十日
- 一 右ノ引替期日ヲ失シタルカ又ハ此證書ヲ失亡セシキハ國庫金取扱所ヲ經テ預金局へ申出代リ證書ヲ請求スヘシ

(第四書式)

用紙美濃紙

定期預ケ金申込書

一金何程也

右金員何年何月何日迄預ケ入仕度尤御成規堅ク相守可申候也

明治何年何月何日

預金局長

官 氏 名 殿

○郵便貯金預ケ人貯金通帳差出手續

二十年十月二十五日
逓信省告示第百九十九號

郵便貯金預ケ人貯金通帳ヲ利子記入又ハ引換檢閱等ノ爲メ差出ストキハ左ノ手續ニ據ルヘシ

但此手續ハ本年十二月一日ヨリ實施ス

第一 通帳ハ郵便電信局又ハ貯金ヲ取扱フ郵便局郵便受取所ニ差出シ該通帳ノ受取證書ヲ受領スヘシ

第二 前項ノ通帳調査ヲ了リタルトキハ爲替貯金局又ハ出張所ヨリ其旨ヲ通達スヘキニ依リ右通達ヲ受ケタルトキハ爲替ニ受取證書ヲ受領シタル局所へ出頭シ該受取證書ト引換ニ通帳ヲ受取ルヘシ

● 伺指令

● 預金規則ノ儀ニ付滋賀縣ヨリ大藏省へ伺十八年六月十二日

本年第拾三號公布ヲ以テ預金規則制定相成次ニ第廿四號公達實省第廿八號訓達ニ付左ノ件々御指揮相仰度

第一 規則第一條第二項ニ該當スル積立金本勝ニ在リテハ儲蓄貯金巡查積立金ノ類ニシテ儲蓄貯金ハ目今可

第十二條 租税及貨紙幣公債印刷料費

預入分無之候得共漸次徴收スル金額ハ預入方可取計候巡査積立金ノ儀ハ素ヨリ利殖ノ爲メ積立ノ方法ニ非
 ス且時々出納頻繁ナルモノニ付該項ニ據リ預金局へ可預入限ニ無之候哉

第二 同條第三項請願積立金ノ儀會社社寺其他ヨリ縣廳へ管護方請願ニ因リ利殖預ケナシ有之分則同項ニ該
 當スル如ク相見候處省第廿八號御達文中利殖ノ爲メ預リ其損失ヲ官ニ負擔スヘキモノハ預テ預金局へ預ケ
 入ルヘキ云々トアルヲ以テ考フレハ請願積立金ハ預テ同局へ可預入御主趣ニハ無之唯々其損益關係アル部分ニ
 限リ必ス可預入精神ニ候哉疑議ニ亘リ候ニ付從來本縣ニ於ケル請願積立金ヲ左ニ概陳シ以テ其範圍ノ内外ヲ體
 別致シ度

一預金種類 社寺へ内庫御納付金内務省下賜金信仰者寄附金並工費又ハ開墾資トシテ貸下金等管護利殖ノ爲メ
 縣廳へ預金ノ類

一利殖方法 右ノ金圓管下銀行又ハ身柄ノ者へ相當ノ抵當ヲ徴シ目下利割月七厘乃至年八歩ニテ貸下 或ハ每六
 ヲ改約スル分セ有之候得ハ
 大概平均年利八歩位ニ當ル其旨金主へ報道シ而シテ每季季利子ヲ取立金主へ交付スルアリ又ハ每季季元金
 へ結込漸次利殖スルアリ

一返還期限 利倍ノ方法ニテ預ケタルモノハ證書通帳トナシ付込期限五箇年乃至十箇年トシ預テ無期限ニテ隔
 時入用アルハ十五日間又ハ當箇月前ニ通知納メノ約定ニ有之候

一損益關係 右ノ約定ニテ貸下而シテ利割ノ高低ハ勿論金主へ時々報道スルモノニテ損失ヲ官ニ負擔スヘキ金
 約等ハ無之候

右之性質ナルニ因リ預金局へ可預入限ニ無之哉若必ス可預入モノトセハ同局利割他ニ比較萬一低下ナルハ精
 主迷惑ナクアルモ難計然ルトキハ返還セサルヲ得サル次第ニテ隨テ監護上難行届如何可取計哉

第三 預テ預金局へ可預入金員等取調至急可申出旨貴省第廿八號御達之處右第一第二兩項御指揮相成候上ニ無之
 テハ開墾難致ニ付暫時延期御開置相成度候

第四 預金取扱手續ハ追テ御達示可相成哉否ケレハ御省豫定ノ手續致水知度尤出納ハ預金局出張所又ハ其取

扱所等へ直接照會何時ニテモ元利金ノ預ケ入及請取方出來可申哉

第五 利子ノ割合ハ土地ノ都鄙及世上時々金融之便否且預金種類等ニ據リ高低可有之候乎若シ一定ノ利割ニ候ハ
 豫テ致水知度

第六 利子ハ每季季請取候トモ元金へ結込積立候ル隨意ニ可相成哉且中途ニシテ元利金預ケ入又ハ請取候節ハ十
 五日前後ヲ以區分シ其月以後又ハ其月返ノ利子ヲ付セラルヘキ哉
 指令 十八年十月廿日

預金規則之儀ニ付會甲第百二十七號ヲ以其中之趣左之通可相心得事

第一項 備前儲蓄金ハ預金規則第一條第二項ニ屬セス巡査積金之儀ハ同項ノ範圍内ニ屬スル儀ト心得ヘシ
 但儲蓄金ハ縣會ノ決議ニ依リ便宜預ケ入ノ儀ハ苦シカラス

第二項 預金規則第一條第三項請願積立金トハ社寺會社等ヨリ其請願ニ依リ直ニ預金局へ預ケ入モノヲ云フ
 尤人民ノ請願ニ依リ縣廳ニ預リ之ヲ保管利殖スルモノハ派テ縣廳ヨリ預金局へ預ケ入ルヘキ儀ト心得ヘシ

第三項 前二項ノ通相心得至急金員取調申出ヘシ

第四項 預金規則第一條第二項取扱手續ハ別冊之通心得ヘシ
 但右ニ準據シ難キハ預金局ニ協議スヘシ

第五項 利子割合ノ儀ハ本年六月十二日五百八拾三號官報省廣告ノ通但巡査積金ノ加キ數口ヲ集合セラルモ
 ノハ特ニ預金局へ協議スヘシ

第六項 利子請取方ハ別冊ノ通り (別冊ハ略ス)

第二百二十九章 貨幣條例 明治八年六月二十五日 第百八號布告

新貨幣條例之儀明治四年 月頒布ノ後追々貨幣圖而寸法ノ改正規則例目ノ刪補等有之候ニ
 付本年 月第六拾貳號布告但書ノ通今般改刻更ニ貨幣條例ト相改候條此旨布告候事

但明治六年^{八月}第三百八號布告銅貨圖而同七年^{三月}第三拾四號布告壹圓銀圖而本年^{二月}第三拾五號布告貿易銀圖而表裏ノ唱へ反對イタマ居候ニ付今般改正候事
(別冊)

貨幣條例 新貨條例改正

皇國往古より他邦貿易の事少く貨幣之制度いまだ精密ならず其品類各種にして其價位も亦一定せず今其概略を舉むには慶長金あり享保金あり文字金あり大小判金あり壹分金あり貳分金あり貳朱金あり壹分銀あり壹朱銀あり當百錢あり大小數種の銅錢あり其他一時通用の貨幣ハ枚舉に違わらず甚しき一國一郡限の貨幣ありて今に至るまで僅に其一部に通用し他方に流通せざるものありかく其品類區々にして方圓大小其價を異にし混合雜駁其質を同うせず抑貨幣の眼目たる量目と性合とに至りては殆んど辨知すへからず新舊互に雜用し品位自ら低下し其間或ハ贗造の弊ありて竟に今日甚しきに馴致せり偶々良性の貨幣は徒らに富家庫中の寶物となり或之外國へ輸出せしも亦少なからず遂に諸品換用の能力を失ひ日用便利の道を塞ぎ流通の公益殆んど絶えんとするに至る實にこれ天下一般の窮厄にして萬民の痛心更に之より大なるものなし今其緣由を尋釋するに全く一定の價位なくして善惡良否を雜用するの舊弊より生ずる事あり方今貿易の道彌盛むなる時に當りて舊弊を改め精良の新製を設けすんハ何を以て流通の道を開き富國の基を立んや是政府の責任にして然も燃眉の急務たり故に去る明治元戊辰の年より早くその功を起し莫大の經費を厭はず大坂に在りて新に造幣寮を建置し

壯大なる器械を備へ廣く宇内各國貨幣の眞理を察知し金銀の性質量目より割合の差等鑄造の方法に至るまで詳かに普通の制を比較商量し以て精密の通用貨幣を鑄造し在來の貨幣に加へて一般の流通を資けんとするの都合を謀り既に開寮の儀典を完了せりされども前々言へることく區々各種の貨幣多けれハ現場諸品の價直を錯亂し萬民の迷惑なるとなれば漸々新舊を交換して在來の通寶は悉く改鑄し都て品類を一定せしめんとの御趣意あり且貨幣は天下萬民の通寶たる趣旨に基き地金を持參して引換を望むものへハ速かに改鑄して通用貨幣を渡すへしされは今人々古來の舊習を襲ひ重代の寶物とせる古金銀の類も數年ならずして全く地金一様のものとなるへけれハ早々交換流通して貨幣の眞理を失はざる様注意すへき事肝要あり斯く新たに造幣寮を設けしも偏に萬民の保護を任するの職分を盡すの外他あるにあらざれハ萬民亦能く此理を會得し各々の務を勉勵して天賦の職をつくすへし仍て今爰に其次第を揭示し併せて新貨幣の具形を摹し其量目品位表を添へ且地金引換への規則等詳細に附録普く國內に頒布論告するもの也

明治四年辛未五月

太 政 官

貨幣例目

一貨幣の稱呼ハ圓を以て起票とし其多寡を論せず都て圓ハ原稱に數字を加へて之を計算すへし但し壹圓以下は錢一圓の百分一と厘一錢の十分一とを以て少數の計算に用ふへし
一算則ハ都て十進一位の法を用ひ一厘十を合して壹錢とし壹錢十を併せて拾錢といひ

第十八年四月
第十一号
二月十日
三月十日
二月十日

拾銭十即ち百銭を以て壹圓とす壹圓より上十百千萬に至るといふとも皆亦十數を合して一位を進む其他半銭五銭五拾銭五圓の如き十數を半割し貳拾銭貳圓貳拾圓の如きも亦一十の數を倍するまでにして固より概範の外に出ず

一厘より以下は別に鑄造の貨幣なしと雖若し計算を要すれり毛絲忽微纖を以て微少の數を算すへし又萬より以上は十萬百萬千萬に至り千萬十即ち萬々を以て壹億とし大數の計算を爲すへし

一製貨中金銀純分の割合及其量目は都て眞形模寫の下に表出するといへども鑄和鑄造の際僅少の差あるを免かれす故に今各種の貨幣に就て其不得已して生ずる量目並品位の公差を表出して以て毛絲の微細を辨析す

公 差 表		公 差 表	
品 位	全 貨 重 純 分 位	品 位	全 貨 重 純 分 位
金	純金	貳拾圓	拾圓
	混合物	拾圓	五圓
	九百分	九百分	九百分
	九百分	九百分	九百分
	九百分	九百分	九百分
銀	純銀	五拾錢	貳拾錢
	混合物	貳拾錢	拾錢
	八百分	八百分	八百分
	八百分	八百分	八百分
	八百分	八百分	八百分
壹圓	純金	拾圓	五圓
	混合物	五圓	貳圓
	九百分	九百分	九百分
	九百分	九百分	九百分
	九百分	九百分	九百分

公 差 表		公 差 表	
品 位	全 貨 重 純 分 位	品 位	全 貨 重 純 分 位
銀	純銀	九百分	八百分
	混合物	八百分	八百分
	九百分	八百分	八百分
	八百分	八百分	八百分
	八百分	八百分	八百分
貳圓	純金	拾圓	五圓
	混合物	五圓	貳圓
	九百分	九百分	九百分
	九百分	九百分	九百分
	九百分	九百分	九百分
壹圓	純金	拾圓	五圓
	混合物	五圓	貳圓
	九百分	九百分	九百分
	九百分	九百分	九百分
	九百分	九百分	九百分

第一二編 和利及食部幣公の部目表 三百三十七

大数差	メートル	グラム	トロイ	オンス	ケレイン	トロイ	オンス
	六、三三	四、六六六	三、二一〇	一、五五五	一、五五五	二、四	二、四

「ガラム」ミリガラム「オンス」ケレインと日本量目の比較の在來の秤量に於て聊の差ありといへども爰に其平均を取て之を算し左の略表を以て當分比較の定規とす

ガラム	メートル	ケレイン	トロイ	日本	
一ミリガラム	一ガラム千分一	〇、〇一五四三	ケレイン百分一、五四三	〇、〇〇〇二六六二〇	
一センチガラム	一ガラム百分一	〇、一五四三	ケレイン百分一、五四三	〇、〇〇〇二六六二〇四	
一デシガラム	一ガラム十分一	一、五四三二		〇、〇〇二六六二〇四	
一ガラム		一五、四三二〇		〇、二六六二〇四	
一デカガラム		一五四、三二〇〇		二、六六二〇四	
一ヘクトガラム		一五四三、二〇〇		二六、六二〇四	
一キログラム		一五四三二、〇		二六六、二〇四	
一ミリヤガラム		一五四三二〇、		二六六二、〇四	
日本	量目	ガラム	メートル	ケレイン	トロイ
一絲		〇、三七五六	ミガラム		〇、〇〇五七九
一毛		三、七五六五	ミリガラム		〇、〇五七九七

一厘		三七、五六五二	ミリガラム		〇、五七九七一
一分		三七五、六五二一	ミリガラム		五、七九七一
一錢		三七五、六五二	ミリガラム		五七、九七一
十錢		三七五、六五二	ミリガラム		五七九、七一
百錢		三七五、六五二	ミリガラム		五七九七、一
一貫文目		三七五、六五二	ミリガラム		五七九七一、
一ケレインハ	凡壹厘七毛二絲五忽	但壹ケレインハ六十四ミリガラムハ			
一オンスハ	凡八匁二分八厘	但壹オンスハ			四百八十ケレイン

貨幣略圖并品位量目表略

貨幣通用制限
本位金貨幣^{二十四圓五圓}の中壹圓金を以て原貨と定め各種とも何れの拂方にも之を用ひ其高に制限あるとなし

本位との貨幣の主本にして他の準據となるものなり故に通用の際に制限を立ると要せず尤も壹圓金を以て本位中の原貨と定むるとの就中壹圓金を以て本位の基本を定め他の四種の金貨と都て標準を壹圓金に取ればなり
補助の銀貨^{即五十錢二十錢}十錢五錢の都て補助の貨品にして其一種又は數種を併せ用ふるとも一口

の拂方に十圓の高を限る可し

補助の銅貨 即二錢一錢 半錢一厘は都て一口の拂方に壹圓の高を限り用ゆへし

補助との本位貨幣の補助にして制度によりて其價位を定めて融通を資くるものなり
故に通用の際これか制限を設けて交通に定規とす

此貿易銀の海關稅其他外國人より納むる諸稅及び日本人外國人と通商の取引に用ひ又
これを内地の諸稅納方等其他公私一般の拂方にも用ひ其高に制限あることなし 十一年第
十三號布
告全節
改正

通用制限と元來貨幣と原本と補助とを別ある所以の理に基きて制定せしものなれん人
々取引に節右の制限に照準しもしこれに越れば誰にても請取渡を拒むの道理あるへし
されども私の取引に付便宜のため對談を以て請取渡いたし候儀は全く相互の都合に従
ふ等おれば右制限に不拘勝手次第に交通いたし不苦候事

明治八年四月

大 藏 省

造幣規則 十六年第十八號布
告ヲ以テ廢止ス

○造幣規則 明治十一年八月二十六日
第拾五號布達

造幣規則別冊ノ通相定本年八月十六日ヨリ施行シ明治十一年七月大藏省甲第二十四號同
十二年十月同省甲第百壹號布達右施行ノ日ヨリ廢止

但本年ハ本文甲第百壹號布達第三條日限中ト雖モ地金ヲ受取ル可シ
右布達候事

(別冊)

造幣規則

第一條 大坂造幣本局若クハ東京該出張所ニ輸入スル内外人民ノ金銀地金ハ左記ノ日
ヲ除キ毎日之レヲ受取ル可シ但時限ハ本局ニ於テハ午前九時ヨリ午後一時迄出張所
ニ於テハ同九時ヨリ正午十二時迄トス

毎日曜日

大祭日

臨時休暇

一月一日ヨリ
三日マテ

一月五日

九月一日ヨリ
十月三十一日マテ

十二月二十九日ヨリ
三十一日マテ

第二條 非常ノ事アリテ休業スルトキハ速ニ其旨ヲ布達シ地金受取方ヲ止ム可シ

第三條 輸入ノ金銀地金ハ左ノ高以上ニ非サレハ受取ラサル可シ但出張所ニ於テハ輸
入高工程ニ超過スルトキハ受取方ヲ拒ムコトアル可シ

金地金

三拾オンス「トロイ」(凡貳百四拾
八匁四分)

銀地金

三百オンス「トロイ」(凡貳百四拾
八匁四分)

不純粹金銀地金

舊金銀貨幣

價格貳百圓

金銀混合地金

第四條 品位詳明ナル外國金銀貨幣ハ其品位ニ據テ受取ル可シ若シ試驗鑄解ヲ要スル
トキハ輸入人ニ報知シ第六條ニ依リ之ヲ受取ル可シ但出張所ニ於テハ其試驗鑄解ヲ
要スル者ノ外ハ之ヲ受取ラサル可シ

第五條 品位詳明ナル金銀地金ハ照査試験ヲ爲シ其品位ニ據テ之ヲ受取ル可シ若シ試験溶解ヲ要スルトキハ輸入人ニ告知シ第六條ニ依リ之ヲ受取ル可シ

第六條 品位詳明ナラサル金銀地金或ハ内外國金銀貨幣ハ試験溶解ノ上試験分析シ其品位ニ據テ之ヲ受取ル可シ

第七條 金銀地金若クハ内外國金銀貨幣ノ試験溶解ヲ要スル者其溶解減ハ輸入人ノ負擔タル可シ

第八條 凡テ輸入ノ金銀地金ハ輸入人若クハ其代理者ヲ立會シメテ秤量シ本局ニ於テハ地金課長出張所ニ於テハ所長ノ假受取證ヲ交付シ試験分析濟ノ上勘定書ニ試験分析表ヲ添ヘ之ヲ輸入人ニ送付スヘシ

第九條 輸入人地金勘定書ノ旨ヲ承諾シ之ニ捺印シテ回付スルトキハ輸入地金ノ價額ニ對スル貨幣拂渡證書ヲ輸入人ニ交付シテ假受取證ト交換ス可シ但勘定書送付ノ日ヨリ三日以内ニ勘定書ヲ回付セサルキハ承諾シタルモノト爲ス可シ

第十條 代リ貨幣ハ地金ヲ本局ニ輸入シタルトキハ日本銀行本店又ハ神戶支店(若クハ代理店)出張所ニ輸入シタルトキハ日本銀行本店又ハ横濱支店(若クハ代理店)ニ於テ左ノ期日ニ至リ之ヲ拂渡ス可シ但期日前貨幣拂渡ヲ望ム者ハ日本銀行本店又ハ其大坂支店ニ於テ一日萬分一ノ割引ヲ以テ前渡ヲ爲ス可シ

試驗濟ノ日ヨリ

造幣適當金銀地金

本局ニ輸入シタルモノノ出願所ニ輸入シタルモノ 十日目 二十五日目

精製分析ヲ要スル地金 壹萬圓未満 同

同 三萬圓未満 同

同 七萬圓未満 同

同 七萬圓以上 同

但右期日休暇ニ當ルトキハ翌日拂渡ス可シ

第十一條 鑄造料ハ金貨幣ハ千分ノ七銀貨幣壹圓ハ千分ノ十ヲ收入ス可シ若シ試験溶解ヲ要スル地金ナレハ更ニ千分ノ壹ヲ收入ス可シ

第十二條 精製分析ヲ要スル地金ヲ輸入シタルトキハ其地金ノ種類ニ應シ左ノ精製分析料ヲ收入スヘシ但其地金千分中銀七百五十分以上ヲ含有セサルトキハ需ニ應セズ

不純粹金地金

千分中銀九百分以上

同 金八百五十分以上

純金拾ヲンス「トロイ」ニ付

金壹圓

金壹圓拾貳錢七厘

第十二類

租稅及貨幣公債證明料費

同 金八百分以上 同 金壹圓貳拾五錢四厘
 同 金七百五十分以上 同 金壹圓三拾八錢壹厘
 不純粹銀地金

千分中銀九百分以上 純銀拾ヲンス「トロイ」ニ付 金貳拾六錢三厘
 同 銀八百五十分以上 同 金貳拾九錢
 同 銀八百分以上 同 金三拾壹錢七厘
 同 銀七百五十分以上 同 金三拾四錢四厘
 金銀混合地金

千分中金銀九百分以上 純金拾ヲンス「トロイ」ニ付 金壹圓
 同 金銀八百五十分以上 純金拾ヲンス「トロイ」ニ付 金貳拾六錢三厘
 同 金銀八百分以上 純金拾ヲンス「トロイ」ニ付 金壹圓拾貳錢七厘
 同 金銀七百五十分以上 純金拾ヲンス「トロイ」ニ付 金貳拾九錢
 純金拾ヲンス「トロイ」ニ付 金壹圓拾五錢四厘
 純金拾ヲンス「トロイ」ニ付 金三拾壹錢七厘
 純金拾ヲンス「トロイ」ニ付 金三拾四錢四厘
 純銀拾ヲンス「トロイ」ニ付 金三拾四錢四厘

第十三條 出張所ニ地金又ハ内外國金銀貨幣ヲ輸入シテ貨幣鑄造ヲ請求スル者ハ運賃並保險料トシテ成貨壹萬圓ニ付金六拾五圓ヲ納ム可シ但大阪ニ於テ成貨拂渡ヲ乞フ者ハ其半額ヲ減ス

第十四條 輸入ノ地金貨幣鑄造ヲ爲サスシテ返却スルトキハ左ノ費用ヲ收入ス可シ
 試驗鑄解料

金地金 五百ヲンス「トロイ」未滿 金壹圓
 金銀混合地金(千分中金分百) 分以上ノモノ

同

五百ヲンス「トロイ」以上 金貳圓
 千ヲンス「トロイ」未滿

銀地金 千ヲンス「トロイ」未滿 金壹圓

金銀混合地金(千分中金分百) 分未滿ノモノ 金貳圓

同 千ヲンス「トロイ」以上 金貳圓
 二千ヲンス「トロイ」未滿 以上之ニ準ス

試驗分析料

金地金 壹塊ニ付 金貳圓

金銀混合地金 壹塊ニ付 金貳圓

銀地金 壹塊ニ付 金壹圓

照査試驗料

試驗分析料ニ準ス

第十五條 流通不便ノ貨幣ハ本局若クハ出張所ニ於テ鑑定シ左ノ量目以上ナレハ左ノ手數料ヲ收入シテ之ヲ受取リ其翌日代リ貨幣ヲ拂渡ス可シ

金貨幣量目五ヲンス「トロイ」(九四拾壹) 千分ノ三、半
 壹圓銀貨量目五拾ヲンス「トロイ」(九四拾) 千分ノ五
 補助銀銅貨幣 量目ニ制限ナシ 無手數料

鑄目アリ又ハ音響惡キ貨幣ト雖モ全體ヲ失ハス量目減少セサル者ハ金銀共壹枚ヲ以テ壹枚トシ交換シ手數料ハ受取ラサルヘシ

第十六條 金銀地金及ヒ金銀混合地金ニ含有スル雜物ハ渾テ返却セサルヘシ

○貿易銀貨一般ニ通用

明治十一年五月二十七日
第拾三號布告

貿易銀貨ノ儀ハ從來各開港場貿易便利ノ爲メ鑄造シ各開港場ニ限リ通用候處今般更ニ一般ニ令通用候條租稅其他公私ノ取引上都テ授受可致此旨布告候事
海關稅其他外國人ヨリ納ムル諸稅受取方ニ付貿易銀但新舊ト本位金貨トノ價格比較ハ

銀貨百枚ニ付本位金貨百圓ノ割合タルヘシ
九年第廿七號布告
明治十二年九月十二日
第拾五號布告

○貿易壹圓銀洋銀ト並價

明治十二年九月十二日
第拾五號布告

一貿易壹圓銀(量目七匁一分七厘六毛性合銀九銅一)ノ儀今後稅關ノ諸稅及其他凡ソ洋銀ヲ以テ取引スヘキ諸勘定ノ拂方ヲナス爲メ之ヲ差出スルハ諸官廳ニ於テハ之ヲ洋銀ト並價ニテ受領スヘシ

一本月十九日以後ハ人民ニ於テ凡ソ負債其他ノ拂方洋銀ヲ以テ履行スヘシト結約シタル所ノ金高ヲ拂フ爲メ右壹圓銀ヲ差出スルハ之ヲ洋銀ト並價ニテ受領スヘシ
右布告候事

○舊貨幣價格及引換期限

明治十七年九月五日
第拾三號布告

明治元年閏四月中舊貨幣價格比較ノ儀布告候處今般更ニ造幣寮ニ於テ精細分析ノ上別冊ノ通改定シ來明治八年十二月迄新貨ト交換候條所持ノモノハ各地方廳へ引換方可申出右期限中海關稅ヲ除外租稅其他一般ノ公納ニ相用候儀ハ不苦人民相互ノ取引ハ自今令廢止候條此旨布告候事

(別冊十八年大藏省第百三號告示
ヲ以テ價格表改正ニ付除之)

刑法第百八十二條參看

○舊銅貨ノ品位及新貨並金札ノ比較

明治四年十二月十九日
布告

舊銅貨ノ儀去ル辰年定價被仰出候處今般新貨御發行ニ付各種比較商量ノ上當分左ノ通品位被相定候條其旨相心得新貨並金札共取交聊無差支通用可致事

(新貨並金札ノ比較及舊銅貨比較表略之)

右ハ本位ノ新貨幣ト新銅貨トノ比例ニ依テ定ムルカ故ニ一種又ハ數種ヲ併セ用ユルト
モ一口ノ取遣リ壹圓ノ高ヲ限リ用ユヘシ

但壹圓ノ高ヲ越レハ是ヲ拒ムノ權アルヘシ尤相互ノ便宜ニ依テ取遣リスル時ハ右制限ニ不拘勝手タルヘシ

右ノ通相定候事

○舊鐵錢ノ價位

明治五年九月二十四日
第百八拾三號布告

新貨幣御發行ニ付去辛未十二月申舊銅貨之定價被仰出候處猶今般舊鐵錢之價位當分左之通被相定候條其旨相心得新貨幣並金札共取交聊無差支可致通用事

(舊鐵錢價位表略之)

右ハ新貨幣トノ比較ニヨリテ之ヲ定ム尤モ鐵錢一種或ハ兩種ヲ併セ用アルハ一口ノ取遣リニ新貨五十錢ノ高ヲ限リ用テヘシ

但新貨五十錢ノ高ヲ越レハ是ヲ拒ムノ權アルヘシ然レトモ相互ニ便宜ニヨリテ取遣リスル時ハ右制限ニ拘ハラス勝手タルヘシ

右之通相定候事

○通用貨幣ノ總テ流通ノ用ヲ缺ク所爲ヲ禁ス
明治十一年一月十九日
第卅號布告
通用貨幣ヲ溶解シ又ハ其體面ヲ毀傷スル等其總テ流通ノ用ヲ缺キ候所爲一切不相成候條此旨布告候事

○舊金銀價格表

明治十八年七月六日
大藏省第百三號告示

舊金銀貨幣價格表別冊ノ通リ改正ス
右告示候事
(別冊)

舊貨幣價格表

慶長
武藏

小判 一個 十圓十三錢二厘
內金貨十圓〇三錢壹厘
內壹圓銀十〇錢壹厘

一分判 一個 二圓五十三錢三厘
內金貨二圓五十一錢八厘
內壹圓銀二錢五厘

正徳四年間所作ニ係ル因テ世ニ之ヲ正徳金トモ云フ

慶長金小判 十兩量目五号七一二六二
武藏一分判 十兩量目五号七一二六二

內金四号八九五一四 位千分中 金八五六・九
銀〇号八一四〇五 位千分中 銀一四三・五
計百〇二圓五十四錢九厘八四

此貨幣 金百〇壹圓五十一錢六厘一九
銀壹圓〇四錢三厘六五

內 金四十八錢九厘五一 精製分析料
同七十兩銀〇厘五四 鑄造料
同壹圓銀〇厘四一 同斷
同壹圓銀〇厘四一 同斷

殘金百〇〇圓三十一錢六厘一四
銀壹圓〇四錢三厘六五
計百〇一圓三十一錢七厘九四

小判 一個 六圓九十一錢〇
內金貨六圓六十錢三厘
內壹圓銀三十〇錢七厘

元祿一分判 一個 一圓七十二錢七厘
內金貨壹圓六十五錢壹厘
內壹圓銀七錢六厘

二朱判 一個 八十六錢四厘
內金貨八十二錢五厘
內壹圓銀三錢九厘

元祿金一分判 十兩量目五号七一二五二
內金三号二二三四三 位千分中 金五六四・一
銀二号四六七二四 位千分中 銀四三・九
此貨幣 金六十六圓八十二錢〇厘七八
銀三圓十六錢三厘一三

計六十九圓九十八錢三厘九一

內 金三十一錢二厘二四
同四十六錢七厘七五 費用前ニ同シ
同三錢一厘六三
同三錢一厘六三

殘金六十六圓〇三錢〇厘七九
銀三圓〇六錢六厘六一
計六十九圓〇九錢七厘四〇

乾字

小判 一個 五圓十九錢一厘
內金貨五圓十二錢九厘
內壹圓銀六錢二厘

一分判 一個 一圓二十九錢八厘
內金貨壹圓二十八錢二厘
內壹圓銀壹錢六厘

乾字金小判 十兩量目三号〇〇一四二
內金二号五〇三一八 位千分中 金八三四・〇
銀〇号四九六七三 位千分中 銀一六五・五
此貨幣 金五十壹圓九十九錢六厘二五
銀六十三錢六厘八三

計五十二圓五十四錢三厘〇八

內 金二十五錢〇厘三二
同三十六錢三厘三四 費用前ニ同シ
同六厘三七

殘金五十壹圓二十九錢二厘五九
銀六十一錢七厘四〇
計五十一圓九十九錢九厘九九

享保

小判一個 十圓十八錢四厘
內 金貨十圓〇九錢〇
一圓銀九錢四厘

一分判一個 二圓五十四錢六厘
內 金貨二圓五十二錢三厘
壹圓銀三錢三厘

享保金小判十兩量目五号六七九五二
內 金四号九二四一四 位千分中 金八六七〇
銀〇号七五二五四 位千分中 銀一三三三五
此貨幣 金百〇二圓十〇錢七厘六八
計百〇三圓〇七錢二厘四八
內 金四十九錢二厘四一
同七十一錢四厘七五
費用前二同
殘金百〇〇圓九十九錢〇厘五二
銀九十三錢五厘三六
計百〇一圓八十三錢五厘八八

元文

小判一個 五圓七十九錢七厘
內 金貨五圓六十一錢六厘
一圓銀十八錢一厘

一分判一個 一圓四十四錢九厘
內 金貨一圓四十二錢四厘
一圓銀四錢五厘

元文金小判十兩量目四号一九六一四
內 金二号七四〇九二 位千分中 金六五三二
銀一号四四八九三 位千分中 銀三四五三
此貨幣 金五十六圓八十三錢六厘一四
計五十八圓六十九錢三厘七四
內 金二十七錢四厘〇九
同三十九錢七厘八五
費用前二同
殘金五十六圓八十六錢四厘二〇
銀一圓八十八〇錢〇厘九一
計五十七圓九十六錢五厘一一

文政

二分判一個 二圓五十四錢〇
內 金貨三圓四十二錢六厘
一圓銀十一錢四厘

小判一個 五圓〇六錢一厘
內 金貨四圓八十三錢二厘
一圓銀二十二錢九厘

一分判一個 一圓二十六錢五厘
內 金貨一圓二十錢八厘
一圓銀五錢七厘

真文トモ云
文政二分判十兩量目四号二〇五九二
內 金二号三六七九三 位千分中 金五五三〇
銀一号八二九五七 位千分中 銀四三五〇〇
此貨幣 金四十九圓十〇錢一厘六五
計五十一圓四十四錢七厘二六
內 金二十三錢六厘七九
同三十四錢三厘七一
費用前二同
殘金四十八圓五十二錢一厘一五
銀二圓二十七錢四厘〇三
計五十一圓七十九錢五厘一八

草文トモ云
文政金小判十兩量目四号二一五一〇
內 金二号三五七九三 位千分中 金五五九四
銀一号八四八七四 位千分中 銀四三八六
此貨幣 金四十八圓八十九錢四厘三一
計五十一圓二十六錢四厘四九
內 金二十三錢五厘七九
同三十四錢二厘二六
費用前二同
殘金四十八圓三十一錢六厘二六
銀二圓二十九錢七厘八六
計五十一圓六十一錢四厘二二

一朱金

一個

十六錢一厘
內金貨十一錢三厘
一圓銀四錢八厘

一朱金十兩量目七号一五〇〇〇

內金〇号八八〇一六位千分中
銀六号二四九一〇一錢一厘六六
雜〇〇〇二九

此貨幣銀八圓〇一錢一厘六六

計二十六圓二十六錢二厘八六

內金八錢八厘〇二
同十二錢七厘七六
同十六錢四厘三五
同八錢〇厘一二

費用前二同

殘金十八圓〇三錢五厘四二
銀七圓七十六錢七厘一九

計二十九圓八十八錢二厘六六

草文トモ云

文政二分判十兩量目四号二〇九五六

內金三号〇五二五八位千分中
銀三号一五一〇八位千分中
雜〇〇〇一四

此貨幣銀四十二圓五十六錢二厘四九

計四十五圓三十二錢〇厘二九

內金二十〇錢五厘二六
同二十九錢七厘九四
同五錢六厘五七
同二錢七厘五八

費用前二同

殘金四十二圓〇五錢九厘二九
銀二圓六十七錢三厘六五

計四十四圓七十三錢貳厘九四

文政二分判 一個

二圓二十三錢七厘
內金貨三圓十錢三厘
一圓銀十三錢四厘

小判 一個

一個

四圓三十九錢四厘
內金貨四圓二十〇錢〇
一圓銀十九錢四厘

保字トモ云

天保金小判十兩量目三号六一二一四

內金三号〇四九八九位千分中
銀一号五五八六四位千分中
雜〇〇〇一五

此貨幣銀四十二圓五十五錢六厘八七

計四十四圓五十五錢五厘一二

內金二十〇錢四厘九九
同二十九錢七厘九五
同四錢〇厘九九
同二錢九厘九九

費用前二同

殘金四十二圓〇錢四厘三三
銀一圓九十三錢七厘二八

計四十三圓九十四錢一厘六一

天保

一分判 一個

一圓〇九錢九厘
內金貨一圓〇五錢〇
一圓銀四錢九厘

古二朱金

一個

三十六錢七厘
內金貨三十二錢一厘
一圓銀四錢六厘

古二朱金十兩量目四号一九八九四

內金一号二五二九六
銀三号九三八八四位千分中
雜〇〇〇一七

此貨幣銀三十五圓九十八錢一厘五九

計二十九圓七十四錢九厘三四

內金十二錢五厘三〇
同十八錢一厘八七
同三錢七厘六八

費用前二同

殘金三十五圓六十七錢四厘四二
銀三圓六十五錢二厘七八

計二十九圓三十二錢七厘二〇

五兩判 一個 十八圓八十三錢〇

內 金貨十八圓六十一錢三厘
一圓銀二十一錢七厘

五兩判一枚量目一弓〇八四六二
內 金〇弓九〇八三七 位千分中 金八三七五
銀〇弓一七四〇八 雜〇〇三〇
此貨幣 金十八圓八十三錢六厘〇八
計十九圓〇五錢九厘二六
內 金九錢〇厘八四 費用前二同
同十三錢一厘八五 金四厘五八
同二厘二三 殘 金十八圓六十一錢三厘三九
銀二十一錢六厘三七
計十八圓八十二錢九厘七六

小判 一個 三圓五十二錢八厘

內 金貨三圓三十七錢四厘
一圓銀十五錢四厘

正字トモ云
安政金小判十兩量目二弓八九〇一〇
內 金一弓六四六四九 位千分中 金五六九七
銀一弓二三七五四 雜〇〇二一
此貨幣 金三十四圓四錢一厘七七
計三十五圓七十二錢八厘三五
內 金十六錢四厘六五 費用前二同
同二十三錢八厘九九 銀三錢二厘五八
同三錢五厘八七 殘 金三十三圓七十三錢八厘一三
銀一圓五十三錢八厘一六
計三十五圓二十七錢六厘二九

安政

一分判 一個 八十八錢二厘

內 金貨八十四錢三厘
一圓銀三錢九厘

安政二分判十兩量目三弓六二六九八
內 金〇弓七五八七六 位千分中 金二〇九二
銀三弓八六〇六〇 雜〇〇二一
此貨幣 金十五圓七十三錢三厘八一
計十九圓四十四錢一厘二四
內 金七錢五厘八八 費用前二同
同十一錢〇厘一四 銀七錢五厘二三
同三錢六厘六七 殘 金十五圓五十四錢七厘七九
銀三圓五十五錢五厘五三
計十九圓十〇錢三厘三二

安政 二分判 一個 九十五錢五厘

內 金貨七十七錢七厘
一圓銀十七錢八厘

小判 一個 一圓三十一錢三厘

內 金貨一圓二十五錢六厘
一圓銀五錢七厘

新小判十兩量目一弓〇六八九四
內 金〇弓六一三三四 位千分中 金五七三六
銀〇弓四五三三三 雜〇〇二四
此貨幣 金十二圓七十一錢四厘二一
計十三圓二十九錢五厘二八
內 金六錢一厘三一 費用前二同
同八錢九厘〇〇 同五厘八一
同五厘八一 殘 金十二圓五十六錢三厘九〇
銀五十六錢三厘三四
計十三圓十二錢七厘二四

新

一分判 一個 三十二錢八厘

內 金貨三十一錢四厘
一圓銀一錢四厘

新二朱金 一個 十三錢七厘

內 金貨十一錢四厘
一圓銀二錢三厘

新二朱金十兩量目一弓九三八二一

內 金〇弓四四三八五 位千分中 金二二九〇〇
銀一弓四九〇四八 雜〇〇〇三〇〇

此貨幣 金九圓二十〇錢三厘七九
銀一圓九十一錢〇厘八七

計十一圓十一錢四厘六六

內 金四錢四厘三九
同六錢四厘四三
同銀三錢九厘三〇
同銀一錢九厘一一

費用前二同

殘金九圓〇九錢四厘九七
銀一圓八十五錢三厘五六

計十〇圓九十四錢七厘五三

新二分判十兩量目一弓九三六九四

內 金〇弓四四二五九 位千分中 金二二八〇五
銀一弓四九〇四七 雜〇〇〇三〇〇

此貨幣 金九圓十七錢七厘六七
銀一圓九十一錢〇厘八六

計十一圓〇八錢八厘五三

內 金四錢四厘二六
同六錢四厘二四
同銀三錢九厘二〇
同銀一錢九厘一一

費用前二同

殘金九圓〇六錢九厘一七
銀一圓八十五錢三厘五五

計十〇圓九十二錢一厘七二

新二分判 一個 五十四錢六厘

內 金貨四十五錢三厘
一圓銀九錢三厘

慶長 保大判一枚量目五弓三二〇六七
天保吹增 立三弓五七五四九 位千分中 金六七二〇〇
內 銀一弓五六四二八 雜〇〇三四〇〇

此貨幣 金七十四圓十四錢一厘九〇
銀二圓〇〇錢五厘四九

計七十六圓十四錢七厘三九

內 金三十五錢七厘五五
同五十一錢八厘九九
同銀四錢一厘一四
同銀二錢〇厘〇五

費用前二同

殘金七十三圓二十六錢五厘三六
銀一圓九十四錢四厘三〇

計七十五圓二十〇錢九厘六六

元祿大判一枚量目五弓三〇九〇四

內 金二弓七六六五四 位千分中 金五二一〇〇
銀三弓三八〇五七 雜〇〇三〇〇五

此貨幣 金五十七圓三十六錢七厘二八
銀三圓〇五錢二厘〇二

計六十〇圓四十一錢九厘三〇

內 金二十七錢六厘六五
同四十四錢一厘五七
同銀六錢三厘六一
同三錢〇厘五二

費用前二同

殘金五十六圓六十八錢九厘〇六
銀二圓九十五錢八厘八九

計五十九圓六十四錢七厘九五

元祿大判 一個 五十九圓六十四錢八厘

內 金貨五十六圓六十八錢九厘
一圓銀二圓九十五錢九厘

慶長 保大判一個 七十五圓二十一錢〇
天保吹增 金貨七十三圓二十六錢五厘
一圓銀一圓九十四錢五厘

<p>新大判 一個 二十八圓四十三錢三厘</p> <p>內 金貨二十五圓五十五錢〇 一圓銀二圓八十八錢三厘</p>	<p>新大判一枚量目三三六二九八九</p> <p>內 金一三〇四六八七位千分中 <small>金三四三五 銀六三九二</small></p> <p>此貨幣 金二十五圓八十五錢五厘二四 銀二圓九十七錢四厘六四</p> <p>計二十八圓八十二錢九厘八八</p> <p>內 金十二錢四厘六九 銀十八錢〇厘九九</p> <p>費用前ニ同シ</p> <p>殘金二十五圓五十四錢九厘五六 銀二圓八十八錢三厘八七</p> <p>計二十八圓四十三錢三厘四三</p>
<p>安永二朱銀 一個 一圓銀四十〇錢七厘</p>	<p>安永二朱銀十兩量目二十六号二四九八三</p> <p>內銀二十五号六五九二一位千分中</p> <p>此貨幣三十二圓八十九錢六厘四二</p> <p>內三十二錢八厘九六 鑄造料</p> <p>殘三十二圓五十六錢七厘四六</p>
<p>文政二朱銀 一個 一圓銀三十〇錢〇</p>	<p>文政二朱銀十兩量目十九号三三七二九</p> <p>內銀十八号九一一八七位千分中</p> <p>此貨幣二十四圓二十四錢五厘九九</p> <p>內二十四錢二厘四六 費用前ニ同シ</p> <p>殘二十四圓〇〇錢三厘五三</p>
<p>文政一朱銀 一個 一圓銀十〇錢五厘</p>	<p>文政一朱銀十兩量目十三号五三一九一</p> <p>內銀十三号一八九五五位千分中</p> <p>此貨幣十六圓九十〇錢九厘六八</p> <p>內十六錢九厘一〇 費用前ニ同シ</p> <p>殘十六圓七十四錢〇厘五八</p>
<p>古一分銀 一個 一圓銀三十五錢一厘</p>	<p>古一分銀十兩量目十一号一五四三五</p> <p>內銀十一号〇五八四二位千分中</p> <p>此貨幣十四圓十七錢七厘四六</p> <p>內十四錢一厘七七 費用前ニ同シ</p> <p>殘十四圓〇三錢五厘六九</p>
<p>一朱銀十兩量目九号七四五三五</p>	<p>一朱銀十兩量目九号七四五三五</p>

<p>一朱銀 一個 一圓銀七錢五厘</p>	<p>內銀九号四三一五五位千分中 銀九六七八 雜〇三三三 此貨幣十二圓〇九錢一厘七三 內十二錢〇厘九二 費用前二同 殘十一圓九十七錢〇厘八一</p>
<p>一分銀 一個 一圓銀三十一錢五厘</p>	<p>一分銀十兩量目十一号一二五〇四 內銀九号九三四六六位千分中 銀八九三〇 雜一〇七〇 此貨幣十二圓七十三錢六厘七四 內十二錢七厘三七 費用前二同 殘十二圓六十〇錢九厘三七</p>
<p>安政 大形 二朱銀 一個 一圓銀四十七錢〇</p>	<p>安政 大形 二朱銀十兩量目三十五号一〇二五〇 內銀二十九号六四七五七位千分中 銀八四四六 雜一五五四 此貨幣三十八圓〇〇錢九厘七〇 內三十八錢〇厘一〇 費用前二同 殘三十七圓六十二錢九厘六〇</p>

舊貨幣交換代金下渡方

明治十一年九月三日 大藏省乙第四十號府廳へ達

舊貨幣交換代金ノ儀自今金銀貨幣ノ内ヲ以テ可相渡九モ古金ハ其價格拾圓ニ付金貨八圓貿易銀貳圓ヲ以下渡古銀ハ同ノ貿易銀ヲ以テ可相渡條古金銀交換申出候ハ、右ノ割合ヲ以テ交換方取計可申此旨相達候事

鑑定ヲ誤リ正貨紙幣斷截シ又ハ描改ノ正札等取扱方

大藏省乙第四十號府廳へ達

九年五月八日

太政官第五十七號公布新金銀銅貨紙幣等取扱規則第二條ニ掲載ノ通り鑑定ヲ誤リ正貨幣ヲ斷截シタル時ハ改人ヨリ其同等ノ品ト引換相渡其斷截シタル紙幣ハ事山ヲ詳記シテ管轄廳へ引換テ乞ハ、該廳ニ於テハ損傷札交換規則ニ照準豫備金ヨリ繰替引換道シ追テ右改人ヨリ差出セシ書面へ現札添紙幣察へ交換申出ヘシ尤交換手数料ハ別段下與不致儀ニ付他損傷札ノ交換ト決テ不混樣區別可致候此旨相達候事
但紙幣ノ數位ヲ描改シ五圓ヲ拾圓ニ拾錢ヲ貳拾錢ニ變換セシ類ハ假令正札ト雖モ贋摸ノモノニ付右ハ贋札ヲ以テ處分可致候

銀行紙幣贋造描改處分

十四年十一月五日 大藏省乙第四十號府廳へ達

銀行紙幣贋造札描改札處分方之儀ハ明治九年^四月第五拾七號布告及ヒ同年^五月當省中第十^二號布達同年^五月當省乙第四十號達ニ準據候儀勿論ニ候得共右處分方結了ノ上ハ該札相添銀行局へ可届出候ト可相心得且又右第五十七號布告規則第二條等ニ據リ引換フヘキ正紙幣ヲ改人ヨリ差出候^并ハ其接近ノ地ニ設立スル國立銀行本支店(其紙幣ヲ發行セ

銀行ニアササルモ)へ下付シテ交換セシメ代リ金ハ該銀行ヨリ直チニ其改入へ交付可爲致此旨相達候事

○造幣規則第十三條金銀地金類ヲ輸入シ代リ貨幣拂渡ヲ望

△運賃保險料 十九年十二月二日
大藏省告示第十三號

造幣規則第十三條金銀地金ノ類ヲ東京出張所ニ輸入シ第十條ニ揭示セル代リ貨幣拂渡場所ノ内何レノ場所ニ於テ拂渡ヲ望ムモ運賃保險料へ左ノ割合ヲ以テ納ムヘシ

運賃保險料 成貨百圓ニ付 金三拾貳錢五厘

第百二十章 價造金銀銅貨紙幣等取扱規則 明治九年四月十九日
第五拾七號布告

銀行又ハ爲替方又ハ兩替屋又ハ官廳ニ於テ備入候鑑定人等金銀銅貨紙幣ヲ鑑定ノ節則造品取扱規則左ノ通相定候條此旨布告候事

價造金銀銅貨紙幣等取扱規則

第一條 新金銀銅貨紙幣等價造品ハ詳ニ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ尋テ其而前ニ於テ圖戳シ速ニ其最寄警察出張所或ハ屯所或ハ區戶長ニ差出シ其額未チ申立ツヘシ若シ官廳ニ關スルキハ該廳ヨリ警察官署ニ通知スヘシ

但持主立會ハサル時ハ必ス代理人ヲ出サシムヘシ遠隔ノ地ヨリ遞送シ來レル者ハ立會人ヲ取リテ之ヲ斷截シ速ニ遞送主へ報告スヘシ

第二條 鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷截シタル時ハ改入ヨリ持主へ其斷截シタル正貨紙幣ヲ其同等ノ品ト引換相渡シ斷截シタル紙幣ハ事由ヲ詳記シテ管轄廳へ引換ヲ乞フヘシ

刑法第百八十二條以下

第三條 若シ正價定メ難キモノ有之節ハ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ分明ニ記載シ持主ノ而前ニ於テ其品ヲ封シ持主ヲシテ之ニ封印セシメ鑑定者ヨリ管轄廳へ差出スヘシ然ル時ハ該廳ニ於テ詳細吟味ノ上至ク正品ニシテ其製充分ナラス通用ノ際人民ノ疑ヲ生スヘキモノハ直ニ持主へ引換渡スヘシ其價造品ハ第一條ニ依ル

第四條 古金銀貨幣價造品ハ持主又ハ代理人ノ而前ニ於テ斷截シ直ニ其持主又ハ代理人へ還付スヘシ

第五條 價造ヲ知ルト雖モ斷截セスシテ持主ニ還付シ又ハ申立ヲ等閑ニスル者等ハ相當ノ處罰ヲ爲スヘシ

○變造紙幣處分方 明治九年五月十八日
大藏省甲第拾貳號布達

本年^四太政官第五拾七號公布價造金銀銅貨紙幣取扱規則第一條新金銀銅貨紙幣等價造品ハ其持主ノ而前ニ於テ斷截云々ト掲載有之然ル處新紙幣ノ儀ハ百圓ト五拾圓拾圓ト五圓貳圓ト壹圓半圓ト貳拾錢拾錢何レモ豎横ノ寸法同様ニ付數字ヲ描改シ五圓札ヲ拾圓ニ拾錢札ヲ貳拾錢或ハ半圓ニ變換セシ類比々有之右ハ素ヨリ價製ノ品トモ異リ斷截候テハ不都合ニ付該紙幣發見候ハ、裏面ノ紋色<sup>別紙ノ通各種毎ニ
裏面ノ紋色ヲ分ツ</sup>及ヒ描改ノ證ヲ所持人へ明示シ其儘警察出張所等へ差出同所於テハ右紙幣ノ原因其外問糺處分相濟候ハ、引揚切ニ取計「紙幣察」へ相納候儀ト可相心得此旨布達候事

(裏面彩紋略之)

● 伺指令

● 製造金銀貨幣斷等處分ノ儀ニ付福井始審裁判所檢事伺十六年十月二日

豫審公判檢事ノ捜査等ニ於テ製造金銀貨幣取扱い規則ニ依リ裁斷ス可キ金銀貨幣ヲ發見シ法ノ沒收ニ係ラサル時ハ其旨ヲ以テ裁判所所在ノ警察署ニ引渡シ該貨幣ハ同署ノ處分ニ任セ可然哉

指令 伺之通 十六年十月二十日

第百三十一章 損紙幣交換規則

明治十七年四月八日
大藏省第四拾壹號告示

明治十四年^五月 常省申第七拾五號布達損傷紙幣交換規則左ノ通改正候條右ニ照準シ引換方可取計候此旨告示候事

損紙幣交換規則

水火災或ハ鼠喰蟲喰等ノ爲メ毀損セシモノヲ交換スルトキハ毀損ノ原因ヲ取糺シ左ノ簡條ニ照準交換スヘシ

第一條 小破或ハ二ツ切レ三ツ切レ等幾片ニ細斷スルトモ中央ノ數位^(數位トハ各紙幣ノ種類ニ隨ヒ拾圓、五圓、壹圓、五拾錢、貳拾錢トアル黑色ノ文字ヲ云フ以下皆之ニ全シ)全存シ大藏卿出納局長ノ印章記錄局長ノ割印上下ノ番記號^(四箇)マテ接續スルモノ又全部所々破損スルトモ中央ノ數位全存シ大藏卿出納局長ノ印章記錄局長ノ割印ノ内壹個上下番記號四箇所ノ内二箇所^(記號一箇所番記號一箇所又番記號ノミニ箇所記號ノ箇所)存在スルモノ又中央ノ數位半存ト雖モ各印章全存番記號二箇所ヲ認ムルモノハ全額ヲ以テ交換ニ付スヘシ

但全紙接續スルトモ左右ノ番記同シカラサルモノ又ハ彩紋等不台他ノ紙幣ヲ以テ接續スルト認ムルモノハ交換ニ付セス

第二條 縦又ハ横斜等半片ハ消滅シ残り半斤ノ紙幣ハ中央數位半存シ大藏卿印章或ハ出納局長ノ印章記錄局長割印ノ内壹個上下番記號ノ内壹個ヲ認ムルモノハ半額ヲ以テ交換ニ付スヘシ

第三條 大藏卿及ヒ其他ノ印章番記號トモ全存スルト雖モ中央ノ數位ヲ認メサルモノ中央ノ數位存在スルトモ各印章及ヒ番記號ヲ認メサルモノハ交換ニ付スヘカラス

第百三十二章 兌換銀行券條例

明治十七年五月二十六日
第八號告示

兌換銀行券條例別紙ノ通制定シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

但明治七年^九月第百號布告ハ此條例布告ノ日ヨリ滿一ケ年ノ後廢止ス

右奉 勅旨布告候事

(別紙)

兌換銀行券條例

第一條 兌換銀行券ハ日本銀行條例第十四條ニ據リ同銀行ニ於テ發行シ銀貨ヲ以テ兌換スルモノトス

第二條 日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ對シ同額ノ金銀貨及地金銀ヲ置キ其引換準備ニ充ツヘシ日本銀行ハ前項ノ外特ニ七千萬圓ヲ限リ政府發行ノ公債証書大藏省證券

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

刑罰法第百八十二條參看
二十一年七月十九號ニテ
本條及ヒ第八條改正

其他確實ナル證券又ハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得但本項七千萬圓ノ内貳千七百萬圓ハ明治二十二年一月一日以降ニ係ル國立銀行紙幣ノ消却高ヲ限トシ漸次發行スルモノトス

日本銀行ハ市場ノ景況ニ由リ流通貨幣ノ増加ヲ必要ト認ムルキハ大藏大臣ノ許可ヲ得テ前二項發行高ノ外更ニ政府發行公債證書大藏省證券其他確實ナル證券若クハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルヲ得此場合ニ於テハ其發行額ニ對シ一箇年百分ノ五ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ但其割合ハ其時々大藏大臣之ヲ定ム

日本銀行ハ政府發行紙幣消却ノ爲メ貳千貳百萬圓ヲ限リ一箇年利子百分ノ二ノ割合ヲ以テ政府ニ貸付スヘキモノトス但明治二十一年以降ハ無利子タルヘシ

前項貸付金ノ償還年限及毎年償還金額ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三條 兌換銀行券ノ種類ハ壹圓五圓拾圓貳拾圓五拾圓百圓貳百圓ノ七種トス但大藏卿ハ各種ニ就テ其發行高ヲ定ムヘシ

第四條 兌換銀行券ハ租稅海關稅其他一切ノ取引ニ差支ナク通用スルモノトス

第五條 兌換銀行券ハ大藏卿ノ指定スル書式圖形ニヨリ日本銀行ニ於テ之ヲ製造シ時々其製造高ヲ大藏卿ニ上申スヘシ但其見本ハ發行期日前大藏卿ヨリ告示スヘシ

第六條 兌換銀行券ノ引換ヲ請フ者アルトキハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ營業時間中何時ニテモ兌換スヘシ

但支店ニ於テハ本店ヨリ準備金ノ到達スヘキ時間其兌換ヲ延期スルコトヲ得十八年幣ヲ以テ但書ヲ追加ス

第七條 金銀貨ヲ持參シテ兌換銀行券ニ引換ンコトヲ請フモノアルトキハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手数料ニテ之ヲ交換スルモノトス

第八條 日本銀行ハ兌換銀行券發行額及交換準備ニ關スル出納日表及毎週平均高表ヲ製シ之ヲ大藏大臣ヘ進達シ且毎週平均高表ハ官報ニ廣告スヘシ

第九條 大藏卿ハ日本銀行監理官ヲシテ特ニ兌換銀行券發行ノ件ヲ監督セシムヘシ但監理官ニ於テ必要ナリトスルトキハ何時ニテモ其手許有高及ヒ帳簿ヲ檢査スルコトヲ得

第十條 兌換銀行券ノ染汚毀損等ニヨリ通用シ難キモノハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手数料ニテ之ヲ引換フヘシ

第十一條 兌換銀行券ノ製造損券引換及ヒ消却等ノ手續ハ大藏卿之ヲ定ムヘシ

第十二條 兌換銀行券ノ偽造變造ニ係ル罪ハ刑法偽造紙幣ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第三百三十三章 爲替手形約束手形條例ヲ制定
爲替手形約束手形條例別冊ノ通制定ス
右奉 勅旨布告候事

(別冊)

明治十五年十二月十一日第五拾七號布告

爲替手形約束手形條例

第一章 爲替手形

第一節 爲替手形ノ性質及ヒ法式

第一條 爲替手形ハ振出人ヨリ支拂人ニ當テ記載ノ金額ヲ受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ拂渡サシムル證券ヲ謂フ

第二條 爲替手形ニハ左ノ件々ヲ記載シ振出人記名調印ス可シ

一 金額

二 振出ノ年月日及ヒ場所

三 支拂ノ期限及ヒ場所

四 支拂人ノ氏名

五 受取人ノ氏名

六 受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ支拂フ可キ旨

第三條 爲替手形ハ一ノ爲替ニ付キ同文ノ手形二通又ハ三通ヲ振出スヲ得此場合ニ於テハ各通ニ番號ヲ附シ内一通ニ對シ支拂ヲ爲シタル時ハ他ノ各通ハ無効タル可キヲ記載ス可シ

第四條 爲替手形ノ金額ハ五圓以上ニ限ル者トス

第二節 支拂期限

第五條 爲替手形ノ支拂期限ハ左ノ如ク區別ス

一 一覽拂

二 定期拂

三 一覽後定期拂

第六條 一覽拂ノ手形ハ其呈示ヲ受ケタル時直ニ支拂フ可キ者トス

第七條 定期拂ノ手形ハ手形ニ定メタル期日ニ支拂フ可キ者トス

第八條 一覽後定期拂ノ手形ハ一覽濟ノ日ヨリ其日數ヲ起算シ手形ニ定メタル期日ニ支拂フ可キ者トス

第九條 一覽拂ノ手形及ヒ一覽後定期拂ノ手形ハ振出ノ日附ヨリ三ヶ月以内ニ之ヲ呈示ス可シ

第十條 定期拂ノ期限ハ振出ノ日附ヨリ一覽後定期拂ノ期限ハ一覽濟ノ日ヨリ六ヶ月以内ト爲ス

第三節 爲替資金

第十一條 振出人ハ支拂人ニ對シ爲替資金ヲ交付スルノ義務アル者トス

第十二條 振出人ヨリ支拂人ニ對シ貸方計算アル時ハ之ヲ以テ爲替資金ニ供用スルヲ得

第四節 裏書

第十三條 爲替手形ハ裏書ヲ以テ其所有權ヲ移轉スルヲ得

第十四條 裏書ニハ買受人又ハ讓受人ノ氏名及ヒ年月日ヲ記載シ賣渡人又ハ讓渡人氏

名住所ヲ記シ調印ス可シ

第十五條 裏書人ハ振出人及ヒ自己以前ノ裏書人ト共ニ自己以後ノ裏書人及ヒ手形所持人ニ對シ相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フ者トス

第十六條 手形ノ裏面ニ餘白ナキ時ハ補箋ヲ爲シ裏書ヲ爲スヲ得

第五節 保證

第十七條 振出人裏書人及ヒ支拂人ハ他人ヲシテ手形ノ支拂ヲ保證セシムルヲ得 保證人ハ其保證ノ旨ヲ手形又ハ別紙ニ記載ス可シ

第十八條 振出人裏書人ノ保證人ハ本人義務ヲ欠タル場合ニ於テ本人ニ代リ他ノ義務者ト相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フ者トス

第十九條 保證人支拂ヲ爲シタル時ハ本人ニ代リ其權利ヲ有スル者トス

第六節 引受

第二十條 定期拂手形及ヒ一覽後定期拂手形ノ所持人ハ支拂人ニ其引受ヲ求ムルヲ得
第二十一條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ其旨及ヒ年月日ヲ手形ニ記載シ記名調印ス可シ

第二十二條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ振出人身代限ノ處分ヲ受ケタル場合ト雖モ其取消ヲ爲スヲ得ス

第二十三條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケサル時ハ所持人ハ引受ノ拒ミ證書ヲ受ク可シ
第二十四條 所持人拒ミ證書ヲ受ケタル時ハ其旨ヲ電信書留郵便其他證據トナル可キ

手續ヲ以テ振出人又ハ裏書人ニ通知シテ爲替金額及ヒ諸費用ニ相當スル抵當又ハ保證人ヲ以テ保證ヲ立テシムルヲ得

通知ヲ受ケタル裏書人ハ振出人又ハ自己以前ノ裏書人ニ對シ所持人同一ノ處置ヲ爲スヲ得

第二十五條 振出人又ハ裏書人ノ内既ニ相當ノ保證ヲ立タル者アル時ハ其以後ノ裏書人ハ保證ヲ立ルノ義務ヲ免ル、者トス

第七節 支拂

第二十六條 手形ニ貨幣ノ種類ヲ記シタル時ハ其貨幣ヲ以テ支拂フ可シ

第二十七條 手形所持人ハ支拂期限ニ於テ其支拂ヲ請求ス可シ若シ定式ノ祝日祭日或ハ慣習ノ休業日ニ當ル時ハ其翌日之ヲ請求スヘシ

第二十八條 手形所持人支拂金ヲ請取ル時ハ手形ニ領收ノ旨ヲ記載シ記名調印シテ金額ト引換ヘ支拂人ニ交付ス可シ

第二十九條 一ノ爲替ニ付キ手形數通アル時ハ支拂人ハ其引受ヲ記載シタル手形ニ對シ支拂ヲ爲ス可シ

第三十條 支拂人期限ニ至リ手形ノ支拂ヲ爲サ、ル時ハ手形所持人ハ支拂ノ拒ミ證書ヲ受ク可シ

第三十一條 支拂ノ拒ミ證書ヲ受ケタル者ハ其旨ヲ電信書留郵便其他證據トナル可キ手續ヲ以テ振出人及ヒ各裏書人ニ通知ス可シ

第八節 拒ミ證書

第三十二條 支拂人手形ノ引受又ハ支拂ヲ拒ム時ハ手形ニ附箋ヲ爲シ其旨及ヒ年月日ヲ記載シ記名調印ス可シ之ヲ拒ミ證書ト爲ス

第三十三條 支拂人拒ミ證書ヲ作ルヲ肯セス又ハ住所分明ナラス又ハ不在ニテ代理人ナキ時ハ所持人自ラ其始末ヲ記シ記名調印シテ郡區役所若クハ戸長役場ノ證印ヲ受ケ拒ミ證書ニ代用ス可シ

第三十四條 支拂人身代限ノ處分ヲ受ケタル場合ニ於テハ支拂期限前ト雖モ手形所持人ハ拒ミ證書ヲ受ケルヲ得

第九節 償還ノ要求

第三十五條 手形所持人支拂ノ拒ミ證書ヲ受ケタル時ハ其日附ヨリ十五日以内ニ振出人裏書人ノ中一人若クハ數人ニ對シ爲替手形ノ金額期限後ノ利子及ヒ拒ミ證書并ニ通知ノ費用ノ償還ヲ要求スルヲ得

第三十六條 第三十五條ノ要求ニ對シ償還ヲ爲シタル裏書人ハ其日ヨリ十五日以内ニ自己以前ノ裏書人又ハ振出人ノ中一人若クハ數人ニ對シ自己ノ償還シタル金額及ヒ其利子ヲ要求スルヲ得

第三十七條 振出人ハ爲替資金ヲ支拂人ニ交付シタルノ故ヲ以テ償還ノ要求ヲ拒ムヲ得ス

第三十八條 要求ヲ受ケタル者ハ拒ミ證書ヲ附シタル爲替手形及ヒ證據ヲ添ヘタル計

算書ト引換ヘニ非レハ償還ヲ爲スニ及ハス

第三十九條 第九條ノ呈示期限第二十七條ノ支拂請求期限及ヒ第三十五條第三十六條ノ要求期限ヲ怠リタル者ハ裏書人及ヒ爲替資金ヲ交付シタル振出人ニ對シ要求ノ權利ヲ失フ者トス但引受ヲ爲シ若クハ爲換資金ヲ受ケタル支拂人又ハ資金ヲ交付セサル振出人ニ對シ第九條第二十七條ノ期限ニ係ル者ハ振出ノ日附ヨリ起算シ第三十五條第三十六條ノ期限ニ係ル者ハ拒ミ證書ノ日附ヨリ起算シテ三ヶ年間償還ヲ要求スルヲ得

第十節 紛失

第四十條 手形所持人手形ヲ紛失シタル時ハ直ニ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ其手形ノ流通ヲ止ムル旨ヲ廣告シ又電信書留郵便其他證據トナル可キ手續ヲ以テ支拂人ニ通知シ其支拂ヲ止メシム可シ

第四十一條 手形紛失人ハ振出人ニ紛失ノ旨ヲ證シ代手形ヲ請受ケ各裏書人ヲシテ再ヒ之ヲ裏書セシメ更ニ其手形ヲ流通スルヲ得但振出人ハ手形紛失人ヲシテ保證ヲ立テシムルヲ得

第四十二條 手形紛失人代手形ヲ受ケ得サル時ハ支拂期限ニ至リ支拂人ニ對シ真正ノ所持人タル旨ヲ證明シ支拂ヲ請求スルヲ得但支拂人ハ手形紛失人ヲシテ保證ヲ立テシムルヲ得

第二章 約束手形

第四十三條 約束手形ハ振出人記載ノ金額ヲ受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ自ラ支拂フ可キ旨ヲ約束シタル證券ヲ謂フ

第四十四條 約束手形ハ定期拂ニシテ金額ハ貳拾五圓以上ニ限ル者トス

第四十五條 爲替手形ニ付キ定メタル規則ハ第三節第六節其他約束手形ノ性質ニ反スル條目ヲ除クノ外之ヲ約束手形ニ適用ス可シ

第三章 通則

第四十六條 第三十五條第三十六條ノ要求期限ハ路程ニ要スル日數八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ與フルモノトス

第三十五條第三十六條ノ要求期限及ヒ第九條呈示ノ期限外國ト關係スルモノハ其路程ニ要スル相當日數ノ猶豫ヲ與フルモノトス

第四十七條 第一節第四節及ヒ第四十三條第四十四條ノ規程ニ合セサル手形ハ裏書ヲ以テ所有權ヲ移轉スルコトヲ得ス

○爲替手形約束手形ニ關スル書式

明治十六年一月二十九日 大藏省第八號告示

明治十五年^{十二月} 第五十七號布告ヲ以テ爲替手形約束手形條例發行相成候ニ付テハ右手形ニ關スル書式ハ總テ別冊雜形ニ準據可致此旨告示候事

(別冊略之)

第二百三十四章 新舊公債證書發行條例

明治八年五月二十五日 第九拾五號布告

明治六年^{三月} 第百十五號及ヒ同七年^{六月} 第六十六號布告新舊公債證書發行條例別冊ノ通改

定候條此旨布告候事

(別冊)

新舊公債證書發行條例

明治五壬申年迄ノ間從來舊諸藩縣ニ於テ内國人民ヨリノ逋債ヲ改テ政府ノ公債トシ之ヲ大藏省ニ引受ケ其債主ヘハ各此公債證書ヲ交付シ定期ヲ逐テ之ヲ償却スルニ付政府ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一條 (新舊公債ノ區別及ヒ證書ノ種類記號ノ品別等ヲ明ニス)

第一節 弘化元甲辰年ヨリ慶應三丁卯年迄舊諸藩ニ於テ借用シタルモノヲ舊公債ト稱シ明治元戊辰年太政更始以後明治四辛未年七月廢藩迄及明治五壬申年迄ノ間舊諸藩ニ於テ借用シタルモノヲ新公債ト稱スヘシ

第二節 新舊公債トモ各其高ヲ五分シテ第一第二第三第四第五トシ證書面ノ金高ヲ五百圓三百圓一百圓五拾圓貳拾五圓ノ五種ニ區別スヘシ

第三節 新公債證書ハ向後抽籤ノ方法ヲ以テ其元金ヲ償却スヘキニ付便宜ノ爲メ四十七部分ニ別テ(いろは)四十七字ノ記號ヲ證書面ニ命名スヘシ

第二條 (新舊公債償却ノ年度及ヒ利息ノ割合ヲ明ニス)

第一節 舊公債ハ無利息ニシテ元金ハ明治五年壬申ヨリ明治五十四年迄五十年賦トシ其年ノ拂方ニ當リタル賦金ヲ毎年十二月一日ヨリ同十五日迄ノ間ニ之ヲ拂渡スヘシ

第二節 新公債ハ利息付ニシテ明治八年ヨリ明治二十九年迄二十二年ノ間ヲ限リ大藏省ノ都合ニヨリ毎年或ハ隔年ニ抽籤ノ方法ヲ以テ其年ニ拂戻スヘキ證書ノ記號ヲ公定シ其割合ニ隨テ之ヲ拂戻スヘシ其利息ハ年々元高百分ノ四分トシ明治五年壬申ヨリ明治二十九年迄毎年六月一日ヨリ十五日迄十二月一日ヨリ十五日迄ノ間ニ之ヲ拂渡スヘシ(本文總テ其金額ハ大藏省ノ都合ニヨリ金銀貨又ハ紙幣ヲ以テ之ヲ下渡スヘシ)
九年第五十號布告ヲ以テ(每十ノ下十字ヲ加)

但明治八年ヨリ抽籤法ヲ以元金ヲ拂ヒ戻ニ當リテハ年四分ノ利息月割ヲ以右抽籤法行ヒシ月迄ノ分下ケ渡スヘシ

第三條 (公債證書ノ渡方及ヒ其簿記ノ手續ヲ明ニス)

第一節 新舊公債證書共各債主ヘ交付スルニハ大藏省ニ於テ其金高及ヒ新舊ノ區分共調査シテ後之ヲ簿冊ニ登記シ證書五種ノ區別(新公債ナレハ四十七種ノ記號)中ニ於テ其金高ニ應シ相當ノ割合ヲ定メ其證書ハ簿冊ニ割印シテ各債主ノ地方管廳ニ送達スヘシ

但此公債證書ヲ其地方管廳ニ送達スルニハ勿論其債主ノ名而金高證書等ノ種類等詳明ニ目錄書ヲ添テ相渡スヘシ

第二節 各地方管廳ニ於テハ別ニ公債掛ノ局ヲ設ケ各種ノ簿冊ヲ備ヘ大藏省ヨリ渡サレタル證書ヲ點檢シ其債主ノ名而及ヒ證書ノ金高種類ヲ分別シテ之ヲ簿冊ニ登記シ且其證書裏面ヘ悉ク債主ノ名而ヲ記入シ管廳ノ割印ヲ加ヘテ其渡方ヲ取計フヘシ

第四條 (舊公債證書元金年賦并ニ新公債證書ノ利息渡方手續等ヲ明ニス)

第一節 毎年舊公債元金年賦并ニ新公債利息下渡方ハ各地方官ニ於テ各管下ノ公債證書所持人ノ數ヲ取調其年ノ渡方ニナルヘキ利息並元金年賦共金額内譯合計表ヲ作り新公債上半季ノ利金表ハ五月十日迄下半季ノ利金表及舊公債年賦金表ハ十一月十日迄ニ毎年大藏省ニ差出スヘシ(九年第五十號布告ヲ以テ(合計表)ノ下悉皆改正)

第二節 大藏省ヨリ右合計金ニ從テ其下渡スヘキ金高ヲ拂場所ヘ廻送ノ手續ヲナシ臨時官員出張スルカ又其地方官ニ委任シ都テ證書ノ下ニ附添スル其年ノ拂方ニ屬スル小札ヲ切取り引換ニ其拂方ヲ爲スヘシ

第三節 右切取りタル小札ハ其拂方ヲナシタル明細調書ト共ニ直ニ之ヲ大藏省ニ送納スヘシ

第五條 (新公債證書拂方諸般ノ手續ヲ明ニス)

第一節 新公債證書ノ元金拂方ヲナスニハ毎年又ハ隔年大藏省ノ都合ニ從ヒ抽籤ノ法ヲ以テ拂渡スヘシ

右抽籤ノ法ハ證書ノ記號ヲ明ニシ其年拂戻スヘキ金高ヲ定メ此金高ニ證書ノ高ヲ部分シ東京或ハ大坂等證書ノ金額最モ多キ場所ヘ國債寮ノ官員出張シテ其地方ノ長官及公債掛立會ノ上管下ノ證書所持人十八人以上ヲ集メ眼前ニ於テ籤ヲ抽キ其籤ニ當リシ部分ヲ其年ノ拂戻スヘキモノト定ムヘシ

第二節 抽籤ノ處置相濟ミ賦當ノ記號公定スレハ立會タル證書所持人等ヨリ其抽籤ノ

方法公正ナル事ヲ保證スル爲メ書面ヲ出サシメ然ル後何記號證書ハ何月何日何處ニ於テ拂戻スヘシト云フコトヲ布告書又ハ新聞紙ニテ普ク世上ニ公告スヘシ

第三節 右拂場所ハ大藏省ヨリ拂戻スヘキ金高ノ廻送ヲナシ公債拂方ノ官員出張シテ(時宜ニヨリテ)地方官ニ委任スルコトアルヘシ其議ニ當リタル證書引換ニ其拂方ヲナシ其證書ハ拂濟ノ證ヲ印シ明細書ト共ニ直ニ大藏省ニ送納スヘシ

第四節 右拂方ノ取扱ハ(年賦又ハ利息拂方トモ)大藏省ノ都合ニヨリテ追テ各地ニ創立スヘキ國立銀行ニ命シ名代人トシテ其處置ヲ爲サシムルコト有ルヘシ

第五節 凡ソ公債元金并ニ利賦金拂渡ノ際其期日ヲ失シテ受取方申出ラス其拂渡スヘキ年ノ翌年ヨリ向五ヶ年ヲ過クルキハ一切之ヲ拂渡サス證書所持主ノ損失タルヘシ然レトモ其受取り難キ事由ヲ該期限内ニ其管廳ニ申出テ認可ヲ經タル者ハ此限ニ在ラス

但起業公債證書(記名無記名)モ本節ニ準ス又次條改正追加ノ内第十二節ヲ除キ該公債記名證書ニ適用スルモノトス十二年第二十六號布告ヲ以テ第五節ヲ追加ス

第六條 (新舊公債證書授受賣買等ノ手續ヲ明ニス)

第一節 新舊公債證書モ全ク所持人ノ所有物タルハ他人(外國人ヲ除ク)ヘ讓渡賣渡質入等都テ勝手タルヘシ尤死者又ハ失踪者遺留ノ公債證書并養子ノ戶主離縁復籍スル時其養家ニ屬スル公債證書ハ特約アルモノ、外総テ其遺留財産ヲ相續スヘキモノ、所有ニ歸スルモノトス十二年第三十號布告ヲ以テ全項ヲ改正ス

但本文讓渡賣渡ハ第二節以下ノ手續ニ照準スヘク又死亡失踪離縁ニヨリ遺留セル證書ハ此條例附錄第二圖ノ振合ニ依テ名而書替ノ上管廳ノ檢印ヲ受クヘシ

第二節 證書ヲ授受及ヒ賣買スルニハ雙方ノ示談整ヒシ上ニテ甲ノ方(讓リ主賣主ト云フ)ハ證書表而ヘ形ノ通り(裏面離形)記名調印シテ別ニ其證書ノ種類記號番號金高枚數月日及ヒ乙(受ル者買人ト云フ)ノ姓名等ヲ認メ其證書ト共ニ甲ヨリ之ヲ其管廳ニ差出スヘシ

但裁判所ニ於テ公賣スル證書ヲ買受ケタル者又ハ裁判所ノ言渡ニヨリ讓買トナリタル證書ヲ有スル者此條例附錄第三圖ノ振合ニ依テ名而書替ノ上裁判所ヨリ管廳ヘノ通知書ヲ添ヘ管廳ノ檢印ヲ受クヘシ十四年第四十一號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス

第三節 管廳ノ公債掛ハ右證書ト屆書トヲ受取り其次第ヲ承リ正シ證書裏面ヘ形ノ如ク(裏面離形)年號月日ヲ記シ檢印シテ之ヲ其差出セシ者ヘ下渡シ其趣ヲ簿冊ニ詳記シ大藏省ヘハ翌月五日迄ニ届出ヘシ

第四節 右ノ手續ニテ檢印濟ノ證書ヲ甲ヨリ乙ヘ渡シタル時甲乙トモ同管下ノ者ナレハ別ニ屆書ヲ出スニ及ハスト雖モ管轄違ナレハ其證書ノ種類記號枚數及ヒ甲ノ姓名年號月日ヲ詳記シテ乙ヨリ其管廳ヘ速ニ届出ヘシ十二年第六號布告ヲ以テ結尾百二字ヲ刪除ス

但利賦金拂方施行中ニ讓受買受ノ證書他ノ地方ヨリ増加シ來ル分ハ先買主ノ届出ヲ聞置最初ノ拂方相濟シ上ニテ利賦金受取方追加表ヲ製シ尙大藏省ニ差出スヘシ

第五節 乙ノ地方管廳ニテハ右ノ届出アレハ前以テ備置タル公債簿冊ヘ其證書ノ金高

種類記號番號枚數及ヒ其名而取引ノ年號月日ヲ登記シ且證書へ割印シテ下ク渡スヘシ

第六節 右ノ手續ヲ以テ引取リタル證書ヲ更ニ他人ニ(外國人ヲ除ク)譲リ渡ス時モ都テ前條ノ手續ニ從テ之ヲ處置スヘシ

第七節 新舊公債證書ヲ管轄違ヒニテ讓渡買賣等ノ事アレハ甲ノ地方管廳ヨリハ即日乙ノ地方管廳へ其證書ノ種類記號金高及ヒ名而取引ノ年月日ヲ詳記シ送達スル時直ニ公債簿簿上ヲ削除スヘシ尤此時證書へ割印ヲ爲スニ不及乙管廳ニテハ右送達書ヲ得タレハ直ニ其旨ヲ甲管廳へ回報スヘシ尤甲管廳ヨリ乙管廳へ送達ノ封書ヲ都合ニ因テ讓受買受人へ托シテ送達スルモ妨ナシ且大藏省へハ一月分翌月五日迄ニ甲乙管廳ヨリ互ニ届出ヘシ十二年第六號布告ヲ以テ(妨ナシ)ノ下四十字ヲ刪除ス

但乙ノ管廳ニテハ右送達之ナキ間ハ其證書賣買スルヲ差留置ヘシ

第八節 新舊公債證書所持ノ者管轄替相成ル節ハ甲ノ地方管廳ヨリ乙地方管廳へ相達スル儀ハ第七節ノ通りタルヘシ本人ハ所持ノ證書種類記號番號金高枚數及ヒ轉籍ノ年號月日住居ノ地名等詳記シ乙管廳ニ届出ヘシ管廳ニテハ公債簿冊ヲ登記シ證書へ割印シテ下渡スヘシ

第九節 他ノ府縣ヨリ寄留ノモノ新舊公債證書ヲ讓受買受ムトスル時ハ寄留地ノ管廳ニ申立管廳ニテハ本管ノ人民同一ノ取扱ヲナスヘシ就テハ年々元利金モ其應ヨリ拂渡スヘシ

但後日本籍へ復歸スルキハ本人ヨリ即日管廳へ届出ヘシ管廳ニテハ復歸ノ地方廳へ通達方並本人届方等第八節ノ通タルヘシ

第十節 新舊公債證書所持ノモノ他ノ府縣へ寄留スル時ハ年々元利拂及讓渡シ賣渡トモ寄留地管廳ノ主務トナスニ付寄留セムトスル者ハ證書ノ種類記號番號金高枚數トモ本管廳へ届出ヘシ本管廳ニテハ寄留地ノ管廳へ送達シ寄留地ノ管廳是ヲ受テ取扱ヲナス手續ハ第七節第八節ニ照準スベシ若シ其身他へ寄留スト雖モ都合ニ因テ公債證書ハ本貫へ殘シ置年々元利受取或ハ讓渡賣渡ヲナス如キハ寄留地管廳ニテ與カル事ナカルヘシ然レトモ所持高ノ内都合ニ因リ幾分カ引分ケ寄留先へ携帶スル時ハ其分ヲ本管廳へ届出本管廳ヨリ寄留地ノ管廳へ送達ノ手續ハ前條ニ記載セル通タルヘシ尤本貫へ殘シタル證書ハ本管廳ノ所轄勿論ニシテ年々元利受取或ハ讓渡賣渡等本人ヨリ委任狀ヲ與ヘシ代理人ヲ以テ其取扱ヲ爲シ妨ケナカルヘシ但後日本籍へ復歸スル時ハ第九節但書ノ通タルヘシ

第十一節 都テ讓渡又ハ賣買等ノ相對ノ約定ヲ以テ其所有權ヲ轉移スルヲ得ヘシ然レトモ前各節ノ手續ヲ了セサル間ハ其讓受主買主ニ於テ假令其證書ヲ所持スルトモ利賦金及ヒ元金ハ官簿ニ記載ノ債主ニアラサレハ下渡サス又證書紛失等ヨリ代リ證書ヲ願出ルモ亦前ニ同シ十二年第六號布告ヲ以テ全節改正

第十二節 毎年六月一日ヨリ十五日迄ニ新公債利息渡方并十二月一日ヨリ十五日迄ニ新公債利息舊公債元金年賦渡方ヲ爲スニ付五月一日ヨリ六月十五日迄十一月一日ヨ

リ十二月十五日迄ハ各地方證書所持人ノ混淆セサル爲メ右證書ノ讓渡賣買ノ届出ヲ
見合スヘシ九年第五十號布告ヲ以テ全額ヲ改正シ十一年舊債ニ號布告ヲ以テ文中
ヲ改正シ十二年第六號布告ヲ以テ(賣買)ノ下(ノ届出)ノ三字ヲ加フ

第十三節 公債證書ヲ諸官廳ノ所有トシテ引受クル節ハ其廳主學官ノ官名姓名ヲ記シ
讓渡等ノ節ハ其官印(官印ナキハ其實印)ヲ捺スヘシ十二年第二十六號布告
ヲ以テ本項ヲ追加ス
十三年第三十號布告
ヲ以テ但書ヲ追加ス

第十四節 銀行及ヒ公認シタル會社學校又ハ町村組合等ノ類共同合資ニシテ所有主壹
個人ニ限リ難クトモ其内主長タル者又ハ證書管保ノ責ニ任スル者等壹個人ノ姓名ヲ
記シ肩書ニ其責任タル名義ヲ記シ(例ヘハ學校ハ其取締又ハ世話掛銀行又ハ會社ハ
頭取其支店ハ支配人町村組合ハ總代人等何レモ其責任タル名目ヲ肩書ニシ以テ壹個
人ノ私有ニ非ルヲ明ニスルノ類)而シテ讓渡其他一切右記名者ノ實印ヲ以テ取引
致スヘシ右記名者代換等ノ節ハ右ノ類ニ限リ代任ノ者ヘ引繼キ證書書替ニ及ハスト
雖トモ代換ノ譯及ヒ其肩書姓名印影ヲ管廳ヘ届出ヘシ其廳ニ於テハ簿冊ヘ其譯并名
而年號月日等ヲ登記シ置クヘシ然ル後テ代任ノ者更ニ記名者ト成リ讓渡其他一切其
肩書姓名實印ヲ以テ取引致スヘシ十二年第二十六號布告ヲ以テ本項但書共追加シ十三年第
三十號布告ヲ以テ(其廳ニ於テハ)ノ下(廿三字)ヲ改正ス

但是迄銀行會社學校等ニ於テ記名者ヲ定メス所有スル向ハ證書書替ニ及ハス本節
ニ照ラシ記名者ヲ定メ管廳ヘ届置クヘシ向後讓渡其他一切本節ニ照準シテ取引致
スヘシ

第七條 (新舊公債證書引當物等ニナシタル處置ノ手續ヲ明ニス)

第一節 新舊公債證書借金ノ引當又ハ質物ノ證據金トシ所持人ヨリ他ニ預ク旨クコト
有リトモ其拂戻スヘキ元金利息ハ其所持人ヘ下渡スヘシ尤モ本人調印ノ委任狀ヲ持
參セル時ニハ外國人ヲ除ク外何人ヘナリトモ相渡スヘシ

第二節 若シ又買入流込トナリタル類ハ讓リ渡賣買ノ手續ヲナス事第六條第二節第三
節第四節ノ通タルヘシ

第八條 (新舊公債證書共裏面並ニ引換等ノ手續ヲ明ニス)

第一節 新舊公債證書讓渡賣買頻繁ニシテ裏面記名ノ場所ナキニ至ル時ハ其所持人ハ
書面ヲ以テ其地方管廳ニ申立證書ノ繼足ヲ願ヒ其證書ヲ差出スヘシ

第二節 地方管廳ニテハ其證書ノ假受取ヲ所持人ニ渡シ置證書ヘハ兼テ大藏省ヨリ渡
置タル記名紙ヲ補足シ割印シテ其次第年號月日等ヲ簿冊ニ記入シ假受取ト引換ニ之
ヲ其所持人ニ渡スヘシ

第九條 (新舊公債證書共紛失等ノ處置ヲ明ニス)

第一節 新舊公債證書ノ所持人若シ證書ヲ取失フカ又ハ盜難ニ逢テ證書ヲ盜取ラレシ
時ハ何號何番何高ノ證書幾許ヲ紛失又ハ盜取ラレタル由ヲ直ニ其地方管廳ヘ届出管
廳ヨリ之ヲ大藏省ヘ届出ヘシ

但管廳ニテハ大藏省ヘ届出ル時管内ヘ其趣ヲ布達スヘシ

第二節 大藏省ニテ右ノ届書ヲ受取レハ速ニ其趣并ニ證書種類番記號枚數等ヲ掲ケ何

月何日後ハ右證書ヲ取引スヘカラス又何人ニ不限所持致居候ヲ見聞候者ハ速ニ管轄廳ヘ訴出管轄廳ヨリハ即大藏省ニ可届出旨ヲ布達ス地方管廳ニテハ即右ノ旨ヲ新聞紙其他ノ手續(新聞紙ナキ地ハ町村高札場ニ揭示セシム)ヲ以テ紛失又ハ盜取ラレシ月ヨリ七ヶ月間管内ヘ公布スヘシ

第三節 右公布ノ間ハ其證書ノ元金又ハ利息共之ヲ拂ヒ渡サ、ルヘシ

第四節 七ヶ月ヲ過テ其證書發見セサレハ大藏省ニテ其證書ニ換フ可キ新證書ヲ作り其地方管廳ヲ通シテ之ヲ所持人ヘ交付スヘシ尤公告時間中ニ積リタル元利ノ高ハ其新證書ヲ渡シタル次ノ拂期月ニ一同之ヲ拂渡スヘシ

但此新證書ヲ渡ス時元證書ノ記號其外紛失又ハ盜難ニ付此條々ノ手續ヲナセシ後更ニ交付スルノ趣意ヲ大藏省及ヒ其管廳ノ簿冊ニ記入スヘシ

第十條 (新舊公債證書共燒失等ノ處置手續ヲ明ニス)

第一節 水火災ニテ證書流焼失ノ事アレハ所持人ハ前條ノ手續ニ從テ書面ニテ其由ヲ管廳ニ中立新證書下渡方ヲ乞フヘシ

第二節 管廳ニテハ其流焼失ノ次第ヲ推糺シ判然タルハ直ニ其次第及ヒ推糺ノ手續ヲ大藏省ヘ中立ヘシ

但其流焼失若シ判然タラサレハ第九條紛失ノ手續ニ從テ之ヲ處置スヘシ

第三節 大藏省ニテハ其申立ニ從テ代リ證書ヲ作り之ヲ其管廳ニ送達シテ所持人ニ交

付スヘシ

但證書流焼失ニ付新證書交付ノ趣旨ハ大藏省地方官ノ簿冊ニ詳記スヘシ

第四節 若シ又水火災ニテ其證書ノ部分燒切レ又ハ消滅シテ通用シ難キ程ナレハ所持人ハ證書ノ殘紙ヲ添ヘ書面ニテ其由ヲ其管廳ニ中立證書ノ書替ヲ乞フヘシ

第五節 其管廳ニテハ其證書ノ殘紙ヲ添ヘ書面ニテ大藏省ヘ申立書替證書ヲ得テ之ヲ所持人ニ下渡スヘシ

但其書替ノ手續ハ大藏省地方官ノ簿冊ニ詳記スヘシ

第十一條 (新舊公債證書贗造等之處分ヲ明ニス)

第一節 何人ニ不拘公債證書ヲ故ラニ剝去リ又ハ切裂キ又ハ塗抹シ孔ヲ穿テ糊付ニスル等ノ事ヲナスヘカラス若シ犯ス者アレハ裁判ノ上其金高十倍以下ノ罰金ヲ命スヘシ但舊公債證書ハ年賦拂濟ノ金高ヲ引去餘錢ノ小札金額ニ依テ計算シ罰金ヲ當ルモノトス

第二節 何人ヲ論セス此公債證書ヲ贗造シ又ハ人ヲシテ之ヲ模擬セシメ又ハ人ノ贗造スルヲ助ケ又ハ贗造ト知リテ通用セシメ又ハ證書ノ圖書文字ヲ變換シ又ハ人ヲシテ變換セシメ又ハ變換セシモノト知リテ之ヲ通用シ其他似寄ノ板版紙品彫形ノ圖書文字等ヲ所持スル者ハ都テ裁判ノ上法ニ處スヘシ

第十二條

第一節 政府ノ都合ニヨリテ要用ノ事アレハ利息及償却年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補

シ又ハ之ヲ改正スルコアルヘシ
第二節 右増補改正等アレハ速ニ其由ヲ世上ニ公告スヘシ
右之通相定候事

證書(讓賣)渡裏而維形

(維形中御印ハ朱刷)

第一節 印

一此證書是迄拙者所持ノ處貴殿へ讓渡候事實正也
明治 年月日 甲 某 印
何 府 下何大區何小區何町何番地
乙 某 殿
本文之通相違無之候也

明治 年月日 何 某 印

乙某寄留人ナル時ハ左ノ通

本貫何 府 諸士族カ
縣 平民カ

何 府 下何大區何小區何町何番地寄留

何所何番地居留

乙 某 殿

右ノ通タルヘシ尤施行濟ノ分ハ此限ニ非ス

(御印及〇並「」ヲ施スモ
ノハ朱刷以下亦同シ)

朱 (管應公債掛ノ檢印ヲ捺スヘシ)

十三年第...
以テ第...
ナラシメ...
一ノ分...
一ノト...

附 錄 第 二 圖

一此證書是迄拙者所持之處貴殿へ讓渡候事實正也
明治 年月日 何 某 印

右本文之通相違無之者也

何(府縣)
公債掛
何 某 印

(經三寸七分 横一寸八分) 朱 (管應公債掛ノ檢印ヲ捺スヘシ) (十四年第四十一號 布告ヲ以テ追加)

(何某所持之處) (何々ニ付公債ニ因テ拙者買受テ候事實正也) (何裁判所ノ賣渡ヲ以テ流質ト相成拙者引受候事實正也)

一此證書是迄拙者所持之處貴殿へ讓渡候事實正也

附 錄

第十二類

和稅及貸紙幣公債區町村費

三百八十七

第 三 圖

明治何年何月何日

何 某 印

本文之通相違無之者也

明治何年何月何日

何(府)縣
公債掛
何等風何某印

○公債證書亡失届出方

明治十七年四月二十四日
大藏省第四拾八號告示

公債證書所有者其所有ノ公債證書ヲ亡失シタルハ明治八年五月第九拾五號布告新舊公債證書發行條例第九條第一節第十條第一節ニ據リ届出ツヘキノ處公債證書亡失ニ關スル告示ハ急速ヲ要スルモノニ付自今他管廳所轄ノ證書ト雖モ左ノ場合ニ於テハ其亡失地ノ管廳ヘ直ニ届出ルヲ得

轉籍寄留ノ爲メ他ノ管下ヘ携帶其地管廳割印又ハ押印未済ノモノヲ亡失シタル時
自己ノ都合ニ依リ公債證書ヲ他管下ヘ携帶又ハ他管下ノモノヘ買入若シクハ預ケタル等ノモノヲ亡失シタル時
他管下ノ人民ニシテ旅行滯在中其地管廳所轄ノ公債證書ヲ讓受買受等ヲ爲シ猶旅中ノ故ヲ以テ本籍管廳割印又ハ押印未済ノモノヲ亡失シタル時

右告示候事

○金札引換公債條例

明治十三年十月二十七日
第四拾七號布告

明治六年三月百貳拾壹號布告金札引換公債證書發行條例并改正追加ノ分共更ニ別冊ノ通改定候條此旨布告候事

(別冊)

改正金札引換公債條例

第一章 總則

- 第一條 金札引換公債證書ハ政府發行ノ紙幣ヲ交換支消スル爲メ發行シ其元利金共ニ金銀貨幣ヲ以テ支拂フモノトス
- 第二條 金札引換公債證書ハ記名利札付ニシテ五百圓百圓五拾圓ノ三種トス
- 第三條 何人ニテモ(外國人ヲ除ク)前條ニ記載スル各種證書面ノ金高ノ紙幣ヲ差出シ金札引換公債證書ニ交換スルヲ得ヘシ十六年第四十八號布告
十六年第四十八號布告
十六年第四十八號布告
- 第四條 金札引換公債證書ヲ以テ交換シタル紙幣ハ大藏省ニ於テ成規ニ遵ヒ之ヲ截斷スヘシ

第二章 元利金ノ仕拂

- 第五條 金札引換公債ノ元金ハ其證書交付ノ年ヨリ三ヶ年据置四ヶ年目ヨリ向十二ヶ年間政府ノ都合ニヨリ抽籤ノ法ヲ以テ消却シ利息ハ一ヶ年六分(百分ノ六)トシ元金消却ニ至ル迄毎年五月十一月ノ兩度ニ拂渡スヘシ
- 但抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂戻スニ當リテハ年六分ノ利息月割(抽籤十五日以前ニ係

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

十七年大藏省第四十八號告示ヲ以テ公債證書發行條例并改正追加ノ分共更ニ別冊ノ通改定候條此旨布告候事

刑法第二百四條參看

十六年第四十八號金札引換公債條例ニ關スル告示ヲ以テ停止ス

レハ前月迄ノ分十六日後ニ係レハ半ヶ月分ヲ下渡スヘキモノトス)ヲ以テ右抽籤
法ヲ行ヒシキ迄ノ分下渡スヘシ

第三章 證書ノ交付及ヒ簿記ノ手續

第六條 紙幣ヲ以テ金札引換公債證書ニ交換セント欲スル者ハ其紙幣并ニ紙幣ノ高ヲ
記載シタル交換願書ヲ其地方ノ管廳ニ差出スヘシ

第七條 地方管廳ニ於テハ紙幣ト願書トヲ受取り其受領證ヲ製シテ本人ニ渡シ其紙幣
ヲ大藏省出納局若クハ其出張所ニ納付シ其預リ證ト共ニ金札引換公債證書申請書ヲ
大藏省國債局ニ送付スヘシ

第八條 交換願書ヲ差出シタル者ニ地方管廳ヨリ其受領證ヲ交付スルコト各月十五日以
前ナレハ其月十六日以後ナレハ其翌月ヨリ計算シテ其年利ヲ拂渡スヘシ

第九條 國債局ニ於テハ申請書ニ據リ其金高ニ相當スル公債證書ノ番號記號枚數ヲ定
メ其債主ノ住所姓名ヲ簿冊ニ登記シ並ニ判印シタル上ニテ其證書ヲ各債主ノ地方管
廳ニ送達スヘシ

第十條 地方管廳ニ於テハ其債主ノ住所姓名及ヒ證書ノ金高種類枚數番號記號ヲ公債
掛ノ簿冊ニ登記シ及ヒ證書裏面ノ右側へ債主ノ姓名ヲ記入シ且ツ管廳ノ判印ヲ加ヘ
本人ニ渡置キタル受領證ト引換ヘニ證書ヲ交付スヘシ

但證書交付ノ後他管ニ移轉シ若クハ他管ヨリ移轉シ來ルモノハ其出入増減表ヲ製
シ每翌月五日迄ニ大藏省國債局ニ届出ツヘシ

第十一條 公債證書ト引換ヘタル受領證ノ裏面ニ本人ヲシテ證書ノ受取ヲ記サシメ翌
月五日迄ニ之ヲ取纏メ明細表ヲ添ヘ大藏省國債局ヘ送致スヘシ

第四章 證書ノ格式及ヒ賣渡讓渡ノ手續

第十二條 此條例頒布以後ト雖モ金札引換公債證書ハ従前ノ金札引換公債證書無記名
利札付ノ格式ヲ用ヒ不要矛盾ノ文字ハ朱書ヲ以テ點鼠スヘシ

第十三條 金札引換公債證書ノ所有者ニ於テ始メテ之ヲ他人(外國人ヲ除ク)へ賣渡シ
若クハ讓渡サントスル時ハ其證書ヲ其地方管廳ニ差出シテ繼足紙ヲ請願スヘシ
管廳ニ於テハ新舊公債證書ニ用フル繼足紙ヲ該證書ノ左側ニ糊付繼印シテ請願人ニ
下付シ名前書替ノ手續ヲ爲サシメタル上其檢印ヲ取計フヘシ

但利息渡方混淆セサル爲メ毎年四月一日ヨリ五月十五日迄十月一日ヨリ十一月十
五日迄證書ノ讓渡賣買ノ届出ヲ見合スヘシ

第十四條 此條例頒布以前交付シタル金札引換公債證書ハ記名無記名ノ分共改定ノ
書ト引換ユヘシ

第十五條 凡ソ此條例ニ明文ヲキノ件ハ都テ明治八年^{五月}第九拾五號布告改正新舊公債
證書發行條例第四條ヨリ第十二條迄及ヒ右ニ關シ爾來改正增補ノ个條ニ準據スヘシ
○金札引換無記名公債證書條例
明治十六年十二月二十八日
明治十六年十一月二十八日
第四拾八號布告
金札引換無記名公債證書條例左之通制定シ明治十三年^{十月}第四拾七號布告金札引換公債
條例第三條ヲ停止ス

金札引換無記名公債證書條例

- 第一條 金札引換無記名公債證書ハ政府發行ノ紙幣ヲ交換支消スル爲メ發行シ其元利ハ金共銀貨ヲ以テ仕拂フモノトス
- 第二條 此公債證書ト交換シタル紙幣ハ大藏省ニ於テ之ヲ燒却スルモノトス
- 第三條 此公債證書ハ望人ノ申込ニ任セ大藏卿隨時之ヲ發行スルモノトス但大藏卿ハ財政ノ都合ヲ計リ其申込ヲ拒ムコトアルヘシ
- 第四條 此公債證書ハ無記名利札付ニシテ千圓五百圓百圓ノ三種トス
- 第五條 此公債證書ハ證書額面百圓ニ付發行價格紙幣百圓ト定ム此證書ヲ引受ケンコトヲ望ムモノハ隨時日本銀行本支店又ハ代理店ヘ申出ヘシ
- 第六條 此公債證書ノ見本ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス
- 第七條 此公債ノ元金ハ其證書交付ノ年ヨリ五ヶ年据置其翌年ヨリ向フ三十ヶ年ヲ限リ毎年抽籤法ヲ以テ償還スヘシ但償還ノ金高ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ六十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス
- 第八條 此公債ノ利子ハ元金償還ニ至ルマテ毎年五月十一月ノ兩度ニ拂渡スモノトス但元金ヲ償還スルトキハ月割ヲ以テ右抽籤ヲ行フ月マテノ利子ヲ拂渡スヘシ
- 第九條 滿期ニ至リ償還ノ證書ニ屬スル利子ハ償還ノ月マテノ分ヲ拂渡スモノトス
- 第十條 此公債ノ利子ハ其元金拂込ノ日ニ從ヒ各月十五日前後ヲ以テ區別シ十五日以

- 前ナレハ其下半年分ヨリ十六日以後ナレハ其翌月分ヨリ拂渡スモノトス
- 第九條 此公債ノ元金償還利子拂渡ノ事務ハ總テ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ其時期及場所等ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ三十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス
- 第十條 此公債ノ利子ハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ利札ヲ切取り之ト引換ニ拂渡スヘシ
- 第十一條 此公債證書ハ何人ニテモ授受賣買スルコトヲ得
- 第十二條 此公債ノ元金償還ノトキハ日本銀行ニ於テ抽籤配賦計算ノ割合ヲ定メ東京橫濱居住人ニテ此公債證書ヲ多額所持スル者拾名以上并大藏省國債記録兩局ノ官員五名以上立會ノ上抽籤ヲ執行シ其當籤證書ノ記號番號種類金高等ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス
- 第十三條 此公債證書ノ所有者其證書ヲ亡失セシトキハ其事由并證書而ノ金高記號番號及所有セシトキノ手續ヲ詳記シ其亡失セシ地ノ官廳ヲ經テ大藏省ニ届出ヘシ大藏卿ハ其證書ノ授受賣買ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルトキハ同様ノ手續ヲ以テ届出ヘシ
- 第十四條 亡失ノ證書ヲ發見セシ其償還年限ノ末期ニ至リ證書消滅セシト認ムヘキ場合ニ於テハ該證書ノ元利金額ヲ其届出人ヘ拂渡スヘシ
- 第十五條 此公債證書當籤ト爲リ元金ヲ拂渡スヘキ場合ニ於テ其證書ノ亡失セシコトヲ覺知シタルトキハ其當籤ノ効ヲ失フモノトス
- 第十六條 此公債證書汚染又ハ毀損セシトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ證書

第十一條 利子及負紙幣ノ償還ノ利子

ノ引換ヲ大藏省ヘ請求スヘシ但其證書面金高記號番號及大藏卿ノ印章ヲ檢査シ其真正ナルヲ證認シ得ヘキモノニアラサレハ引換サルヘシ此引換ヲ得タルモノハ本人ヨリ相當ノ手数料ヲ銀行ヘ拂フヘシ

第十六條 此公債證書引換又ハ償還ノトキ其證書汚染毀損シ金高記號番號及大藏卿ノ印章ヲ認メ難キモノハ其元利金トモ償還方總テ亡失證書ト同一タルヘシ

第十七條 此公債ノ元利金受取方申出テス其拂期月ヨリ滿十五ケ年ヲ過クルトキハ一切之ヲ償還セサルヘシ

第十八條 政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ利子ノ割合及元金償還年限ヲ除クノ外此條例ヲ増製改正スルコアルヘシ

右奉 勅旨布告候事

第二百三十五章 起業公債

明治十一年四月三十日 第十七號布告

今般全國中公益ノ事業ヲ興シ物産繁殖ノ道ヲ開キ内外ノ商賣ヲ盛ニスルタメ新ニ壹千貳百五拾萬圓ノ内國債ヲ起シ其費用ニ供スヘキニ被決定右募債方一切大藏卿ヘ御委任相成候條此旨布告候事

但詳細之儀ハ大藏卿ヨリ可及布達候事

○起業公債證書發行條例

明治十一年五月一日 大藏省甲第拾三號布達

今般内國債募集ノ儀ニ付本年四月太政官第七號布告ノ旨趣ニ因リ起業公債證書發行條例

別冊ノ通り相定メ施行セシメ候條此旨布達候事

(別冊)

起業公債證書發行條例

此公債ハ明治十一年四月太政官第七號布告ノ旨趣ニ基キ要用ノ金額ヲ募集スル爲メ起ス所ニシテ是ヲ大日本政府ノ公債トシテ各債主ヘハ此公債證書ヲ交付シ年限ヲ定メテ之ヲ償却スルニ付大藏省ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一條 (公債證書ノ元高種類並ニ利息ノ制限ヲ示ス)

第一節 此公債ノ元高ハ壹千貳百五拾萬圓ニシテ年六分(百分ノ六)ノ利付トシ其元金ハ二箇年間据置キ三箇年目(即チ明治十三年)ヨリ向廿三箇年ヲ限リ(即チ明治三十五年迄)毎年大藏省ノ都合ヲ以テ(第四條ニ掲グル)抽籤ノ方法ヲ用ヒ之ヲ拂戻スベシ而シテ其利息ハ(第三條第二節ノ但書並ニ第四節ノ分ヲ除キ)募並拂込ニ皆濟ノ後ヨリ明治三十五年迄毎年六月十二月ノ兩度ニ之ヲ拂渡スヘシ
但明治十三年ヨリ抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂戻スニ當テハ年六分ノ利息月割(抽籤十五日以前ニ係ルハ前月迄ノ分十六日以後ニ係ルハ半箇月分下渡スヘキモノトス)ヲ以テ右抽籤法ヲ行ヒシテ迄ノ分下渡スヘシ

第二節 此公債證書面ノ金高ヲ五百圓百圓五十圓ノ三種ニ區別シ利息ノ小札付キトス但本文ノ利札ハ每半年利息渡シノ時ニ其渡方ヲ取扱フ銀行等ニテ切取り引換ニ其金額ヲ得ヘキモノトス

第二條 (公債證書授受買賣等ノヲ示ス)

第一節 此公債證書ハ(第六條ニ掲クル記名ニ變更スル分ヲ除キ)所有主ノ名ヲ記サズ故ニ書換又ハ管轄ノ捺印ヲ受クル等ノ手續無クシテ授受買賣等(外國人ヲ除クノ外)各自ノ隨意タルベシ

但買入書入(外國人ヲ除キ)及ヒ相續人ヘノ遺物モ勝手タルヘシ

第三條 (募債並ニ出金等ノ手續概略ヲ示ス)

第一節 此公債ノ募集方並ニ元利金ノ渡方トモ都テ第一國立銀行並ニ三井銀行ヘ委任ノ取扱ハシムルカ故ニ申込ノ手續、引受ノ實高、期限、場所及利息並ニ元金ノ渡方其他必要ノ條件ハ右兩銀行本店若クハ支店及ヒ其取引仲間等ヨリ進テ新聞紙等ヲ以テ廣告ニ及フベシ

第二節 募リニ應シ出金スルノ時期ハ都合四度ト定メ最初引受方申込ノ節手付金ヲ拂込マシメ其後ハ第一第二第三ト割拂ヲ以テ順次ニ出金セシムルモノトシ其時日ハ右兩銀行等ヨリ廣告スヘシ

但第三割拂迄ノ利息ハ其出金高ニ準シ年六分ノ割合ナル月割ヲ以テ之ヲ拂渡スヘシ
十一年同省甲第三十三號布達ヲ以テ(月割)ノ下割註五十三字ノ内(モノトス)ノ下十三字ヲ削リ其他四十字ヲ第四節月割ノ下ニ移ス

第三節 右四度ノ内手付金拂込ノ節ハ該銀行ノ受取書ヲ與ヘ第一割拂ノ拂込ニハ右受取書ト引換ニ假證券ヲ與ヘ第二割拂ニハ新假證券ヲ以テ舊假證券ト取換ヘ第三割拂ノ拂込濟ニ至リ此公債證書ヲ假證券ト引換ニ交付スヘシ

但公債證書ノ種類ハ大藏省ノ都合ニ依リ之ヲ交付スヘシ

第四節 手付金又ハ第一第二第三割拂ノ拂込金トモ都テ其定期ノ時日ニ先ツテ入金スル者ヘハ其高ニ對シ年六分ノ割合ナル利息月割(拂込十五日以前ニ係ルハ半箇月分十六日以後ニ係ルハ翌月ノ分ニ立テ、計算スルモノトス)ヲ以テ入金ノ内ヨリ割引シテ債主ヘ拂渡スヘシ
同上(月割)ノ下割註ヲ加フ

第五節 右ノ如ク四度ニ配賦シテ拂込マシムルニ付テハ若シ初度ノ手付金相濟ミ更ニ第一割拂若クハ第二第三割拂出金ノ定期ヲ愆マツ者ハ其以前差出シタル金額ハ當人ノ損失ニ歸セシメテ返與セサルベシ

第六節 出金未タ皆濟ニ至ラズ此公債證書ヲ受取ラサル以前タリトモ當人ノ都合ニ依リ第一割拂ヨリ交付シタル假證券ヲ授受買賣實入書入ニスルハ(外國人ヲ除クノ外)勝手タルベシ尤モ授受買賣ノ節ハ其證券ノ裏面ニ讓渡人(又ハ賣主)ノ姓名住所ト讓受人(又ハ買主)ノ姓名住所ト記載シ且ツ調印スルモノトス

但此讓受人(又ハ買主)ニテ其次ノ割拂出金ヲ愆期スルハ本條第五節ノ通りタルベシ

第七節 若シ申込ノ出金高募集スベキ見込高ヨリ超過スルハ該銀行ニテ之ヲ總體ノ申込高ニ割付ケテ平等ニ減却シ而シテ其手付金ノ過剩トナル分ハ第一割拂ノ拂込金ニ廻スベシ尤モ其時ノ都合ニ依テハ別ニ適宜ノ方法ヲ設ケテ之ヲ減却スルヲモアルヘシ

第四條 (抽籤ノ手續概略ヲ示ス)

第一節 毎年抽籤ヲ以テ此公債ノ拂戻シヲ定ムルニハ此公債ヲ取扱フ銀行本店ニ於テ其年ノ十月中該地方身柄ノ人ニテ此公債證書(無記名記名トモ)ヲ所持スル者五人以上ヲ撰ミ大藏省國債局ノ官員ト其地方廳ノ官員各兩名以上立會ノ上抽籤ヲ以テ其年ニ拂戻スベキ證書ノ記號番號ヲ公定シ中リ籤ノ記號番號ハ速ニ新聞紙等ヲ以テ廣告スベシ)

第五條 (證書ノ毀損紛失盜難流燒失等ノ心得方ヲ示ス) 同上(毀損ノ下七字ヲ加フ)

第一節 此公債證書ハ自然垢付或ハ少々ノ損シ等アルトモ金高及ヒ主要ノ印部等ニ損害ナク正真ノ證書タルヲ保認スベキ分ハ當然ノ規則ニ隨ヒ元利金ノ渡方ヲ爲スベシ尤モ過失ニテ此公債證書ノ一部分ヲ燒損シ又ハ金高及ヒ主要ノ中部等ヲ毀損シ或ハ之ヲ見認メ難キ程ノ墨附等アレハ速ニ其手續書ヲ添ヘテ兩銀行ノ本店又ハ大阪ニ在ル支店ニ持參シテ引換ヲ乞フヘシ兩銀行ハ其事實ヲ承明シテ後之ヲ大藏省ヘ具申シテ此引換ヲ爲スヘシ尤モ大藏省ニ於テハ其事實ハ勿論該證書面ニ金高番記號ノ部分必ズ判然存在シ眞正ノ證書ニ相違ナシト見認ムル分ハ之ガ引換ヲ爲スベシ但此引換ヲ乞フニハ本人ヨリ相當ノ手数料ヲ銀行ヘ拂フベシ

第二節 此公債證書紛失盜難又ハ流燒失ニ罹ル分ハ所有主ニ於テ其事實ヲ審明シ證書ノ記號番號金高枚數及ヒ所有トナリシキノ手續等詳細相認メ地方管廳ヲ經テ大藏省ヘ届出置償却年限ノ末期ニ至ル迄該證書終ニ顯出致サス全ク消滅セシニ相違無キニ

於テハ該證書ニ對シテ積リタル利息元金同一同ニ之ヲ拂渡スヘシ 十一月三十一日以前に於テ本節追加

第三節 前節届出ノ後該證書顯出シ而シテ未ダ犯罪人ノ手ニ在カ或ハ犯罪ノ情ヲ知り轉受セシモノカ或ハ情ヲ知ラスモ恩惠(貨幣又ハ物品ヲ渡サズシテ受取ルノ類)ノ讓與ニ係ルモノハ原所有主ニ於テ之ヲ取戻スヲ得ヘシ 同上但前二節ノ場合ニ於テ事實判明致シ難キハ都テ法官ノ裁決ニ付シ相當ノ處分ニ及フコアルヘシ

第六條 (記名公債證書ニ變改スル手續並ニ變改セシ以後ノ規則ヲ示ス)

第一節 此公債證書ハ授受買賣等ヲ便ニスル爲メ本來無記名ナレモ所有主ノ請願ニ依リテハ之ヲ變改シテ更ニ記名證書ト爲スヲ得ベシ其變改ノ手續並ニ規則左ノ如シ

第二節 無記名證書ヲ記名ニ變改スルニハ證書ヲ引換ユルニ非ス又證書本紙ニ記名スルニ非スシテ本條第四節ノ取扱ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

第三節 右記名ヲ請願スルニハ第三條最後出金ノ定期ヨリ七八十日乃至五六十日以前ニ其旨ヲ此債ヲ取扱フ兩銀行ノ本支店若クハ取引仲間等ニ申込ムヘシ右銀行ハ(支店並ニ取引仲間等ニ申込タル分ハ之ヲ取纏メ)請願人ノ姓名住所並ニ入用證書ノ金高等ヲ詳記シ大藏省ヘ具申シ記名極印濟ミノ證書ヲ(記名紙相添ヘ)受取リ之ヲ其本人ヘ交付シ本人ヨリ更ニ之ヲ管廳ヘ持出テ記名其他次節ノ手續ヲ受クベシ

第四節 前節ノ如ク大藏省ヘ具申ノ上ハ同省ニ於テ該證書ニ記名タル極印ヲ押シ之ヲ簿冊ニ登記シ置キ再ヒ之ヲ其銀行ヘ送付シテ其本人ヨリ管廳ヘ持出ル

モノトス管廳ニテハ該證書ノ種類金高記號番號枚數及ヒ所有主ノ姓名住所年月日等ヲ簿冊ニ登記シ該證書ニ記名紙ヲ糊附シ該廳ノ繼印ヲ爲シ所有主ノ姓名住所ヲ記入シ該廳ノ割印及ヒ公債掛ノ捺印ヲ捺シテ再ヒ之ヲ所有主ヘ付與スヘシ

但一旦無記名證書ヲ引受ク置キ追テ記名ニ改メント欲スル者ハ該證書ニ其種類金高記號番號枚數ノ目錄書及ヒ願書ヲ添ヘ管廳ヘ申立ツヘシ管廳ヨリハ願人ヘ證書ノ受取書ヲ渡シ置キ之ヲ大藏省ヘ具申シテ極印濟ミノ證書并ニ記名紙ヲ受取り成規ノ如ク再ヒ之ヲ其本人ヘ付與スルノ手續ヲ爲スモノトス尤モ記名紙ハ地方官ノ見込ヲ以テ豫メ之ヲ大藏省ヨリ受取り置クモ適宜ナルヘシ

第五節 前節ノ如ク無記名證書ヲ記名證書ニ變改シタル上ハ之ヲ授受賣買シ或ハ引當物ニ爲シ又ハ紛失盜難及ヒ流燒失等ノ廉ハ明治八年(五月)太政官第九十五號布告改正新舊公債證書發行條例第六條七條八條九條十條ヲ適用スヘシ尤モ右條例ヲ此記名公債證書ニ適用スル場合ニ於テハ右條例中換用ノ文字並不用ノ廉々左ノ如シ

但元利渡方等ノ手續ハ無記名公債證書ト同様ナルモノトス

右條例第六條ヨリ第十條迄ノ中ニ「新舊公債證書共」並ニ「新舊公債證書」トアルハ都テ「此記名公債證書」ト改ム

同第六條第一節但書ノ「其都度大藏省ヘ届出ヘシ」ヲ「置クベシ」ニ改ム

同條第二節ニ「證書裏面ヘ形ノ通り裏面離形」及ヒ同上第三節ノ「證書裏面ヘ形ノ如ク(裏面離形)」ハ都テ「記名紙ヘ末ニ附スル離形ノ通り」ト改ム

同條第三節ノ「大藏省ヘハ云々」ノ十五字ヲ「置クベシ」ニ改ム

同條第四節ノ但書ヲ削除ス

同條第五節並ニ第七節八節ノ「證書ヘ割印」ハ都テ「記名紙ヘ割印」ニ改ム

同條第七節ノ「且大藏省ヘハ一月分翌月五日迄ニ云々」ノ二十七字ハ不用

同條第九節ノ「就テハ年々元利云々」ノ十八字ヲ「尤モ年々元利金拂方ハ此公債ヲ取扱フ銀行ニテ拂渡スヘシ」ニ改ム

同條第十節ノ「年々元利拂及」ノ六字並ニ「年々元利受取或ハ」ト兩所ニ在ル都合十六字及ヒ第十二節ヲ削除ス

同條同節中ノ「前條」ヲ「第七節」ニ改ム

同第七條第一節ノ「其所持人ヘ下渡スヘシ云々」ノ四十七字ヲ「何人タリトモ其持參人ヘ(外國人ヲ除クノ外)相渡スヘシ」ニ改ム

同第八條割註ノ二十一字ヲ「此公債證書記名紙繼足ノ手續ヲ明ニス」ニ改ム

同條第一節ノ「裏面記名ノ場所」ヲ「記名紙ノ餘棹」ニ改メ「證書ノ繼足」ヲ「記名紙ノ繼足」ニ改ム

同第九條第一節ノ但書ヲ削除ス

同條第二節ノ「地方官廳ニテハ即右ノ旨ヲ云々」ノ六十三字ヲ削除ス

同條第三節ノ「公布」ヲ「布達」ニ改ム

同條第四節ノ「元利」ヲ「利金」ニ改ム

第七條 (證書贗造等ノ處分ヲ示ス)

第一節 此公債證書(無記名記名トモ)ヲ私ニ剝去リ又ハ切裂キ又ハ塗抹シ孔ヲ穿チ糊附ニスル等ノ事ヲ爲スヘカラス若犯ス者アレハ裁判ノ上其金高十倍以下ノ罰金ヲ命スヘシ

第二節 此證書ヲ贗造シ又ハ人ヲシテ贗造セシメ又ハ人ノ贗造スルヲ助ケ又ハ贗造ト知リテ通用シ又ハ證書ノ圖書文字ヲ變換シ又ハ人ヲシテ變換セシメ又ハ變換セシモノト知リテ之ヲ通用シ其他似寄ノ板版紙品等ヲ所持スル者ハ都テ裁判ノ上法ニ處スヘシ

第八條

第一節 政府ノ都合ニ依リ要用ノコアレバ利息及ヒ償却年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補シ又ハ之ヲ改正スヘシ

第二節 右增補改正等アルキハ速ニ其旨趣ヲ公告スヘシ

明治十一年五月

大 藏 省

記名紙離形

[括弧]内並ニ印ハ捺ヲ朱

割]

本文證書(何大區何小區何町何某)へ相渡候者也

[印

(何府)公債掛

明治(何)年(何)月(何)日

(何

某)印

一此證書是迄拙者所持之處賣殿へ讓渡候事實正也

明治(何)年(何)月(何)日

(甲)何某

印

(何府)下何大區何小區

(何町)何番地

(乙)何某)殿

本文之通相違無之候也

(何府)公債掛

明治(何)年(何)月(何)日

(何

某)

印

○中山道公債證券條例

明治十六年十二月二十八日
第四拾七號布告

中山道鐵道公債證券條例左ノ通制定ス

中山道鐵道公債證券條例

附法第三
四號

- 第一條 中山道鐵道公債證券ハ非馬縣下上野國高崎ヨリ岐阜縣下美濃國大垣ニ至ルマ
テ中山道ニ沿ヒ及ヒ大垣ヨリ三重縣下伊勢國四日市ニ至ルマテ鐵道ヲ敷設シ及ヒ其
事業ヲ經營スルノ資金ニ充ツルカ爲メ發行スルモノトス十七年第十七號布告ヲ以テ(沿ヒ)
下(及ヒ)以下二十一字ヲ加フ
- 第二條 此公債證券發行高ハ貳千萬圓ヲ限リ大藏卿工業ノ都合ヲ計リ漸次之ヲ發行ス
ルコトヲ得其發行ノ手續ハ大藏卿時々之ヲ定ムルモノトス
- 第三條 此公債證券ハ無記名利札附ニシテ千圓五百圓百圓ノ三種トス
- 第四條 此公債ノ利子ハ年七分トス
- 第五條 此公債證券引受ノ申込高大藏卿ノ需用スル金高ヨリ超過スルキハ其超過高ニ
比例シ各申込人ヘ對シ證券渡高ヲ減少スルモノトス但價格ヲ定メテ發行シタル場合
ニ於テ其價格以上ニテ申込ム者ニハ其渡高ヲ減少セサルヘシ其價格ハ大藏卿之ヲ定
ムルモノトス
- 第六條 此公債證券ノ見本ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス
- 第七條 此公債證券ノ元金ハ證券發行ノ年ヨリ五ヶ年據置其翌年ヨリ向フ二十五ヶ年
ヲ限リ毎年抽籤法ヲ以テ償還スヘシ但償還ノ金高ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ六十日以

前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

此公債ノ利子ハ元金償還ニ至ルマテ毎年六月十二月ノ兩度ニ拂渡スモノトス但元金
ヲ償還スルトキハ月割ヲ以テ右抽籤ヲ行フ月マテノ利子ヲ拂渡スヘシ
満期ニ至リ償還ノ證券ニ属スル利子ハ償還ノ月マテノ分ヲ拂渡スモノトス

此公債ノ元金償還ハ總テ通貨ヲ以テ仕拂フモノトス

第八條 此公債ノ利子ハ其元金抽込ノ日ニ從ヒ各月十五日前後ヲ以テ區別シ十五日以
前ナレハ其下半年分ヨリ十六日以後ナレハ其翌月分ヨリ拂渡スモノトス

第九條 此公債ノ元金償還利子拂渡ノ事務ハ總テ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ
其時期及ヒ場所等ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ三十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノト
ス

第十條 此公債ノ利子ハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ利札ヲ切取り之ト引換ニ拂
渡スヘシ

第十一條 此公債證券ハ何人ニテモ授受賣買スルコトヲ得

第十二條 此公債ノ元金償還ノトキハ日本銀行ニ於テ抽籤配賦計算ノ割合ヲ定メ東京
橫濱居住人ニテ此公債證券ヲ多額所持スルモノ拾名以上并大藏省國債記録兩局ノ官
員五名以上立會ノ上抽籤ヲ執行シ其當籤證券ノ記號番號種類金高等ハ大藏卿ヨリ告
示スルモノトス

第十三條 此公債證券ノ所有者其證券ヲ亡失セシトキハ其事由并證券而ノ金高記號番

號及所有セシトキノ手續ヲ詳記シ其亡失セシ地ノ官廳ヲ經テ大藏省ニ届出ヘシ大藏卿ハ其證書ノ授受賣買ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルトキハ同様ノ手續ヲ以テ届出ヘシ

亡失ノ證書ヲ發見セス其償還年限ノ末期ニ至リ證書消滅セシト認ムヘキ場合ニ於テハ該證書ノ元利金額ヲ其届出人ヘ拂渡スヘシ

第十四條 此公債證書當籤ト爲リ元金ヲ拂渡スヘキ場合ニ於テ其證書ノ亡失セシコトヲ覺知シタルトキハ其當籤ノ効ヲ失フモノトス

第十五條 此公債證書汚染又ハ毀損セシトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ證書ノ引換ヲ大藏省ヘ請求スヘシ但證書而金高記號番號及大藏卿ノ印章ヲ檢査シ其真正ナルヲ證認シ得ヘキモノニアラサレハ引換サルヘシ此引換ヲ得タルモノハ本人ヨリ相當ノ手数料ヲ銀行ヘ拂フヘシ

第十六條 此公債證書引換又ハ償還ノトキ其證書汚染毀損シ金高記號番號及大藏卿ノ印章ヲ認メ難キモノハ其元利トモ償還方總テ亡失證書ト同一ナルヘシ

第十七條 此公債ノ元利金受取方申出テス其拂期月ヨリ滿十五ケ年ヲ過ルトキハ一切之ヲ償還セサルヘシ

第十八條 政府ノ都合ニ依リ要用ノ事ナレハ利子ノ割合及元金償還年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補改正スルコトアルヘシ

右奉 勅旨布告候事

○金祿公債證書發行條例

明治九年八月五日 第百八號布告

家祿賞典祿ノ儀永世一代或ハ年限等ヲ以テ給與有之候處其制限ヲ定メ來明治十年ヨリ別紙條例之通公債證書ヲ以テ一時ニ下賜候條此旨布告候事

(別紙)

金祿公債證書發行條例

第一條 華士族及ヒ平民トモ各自ノ家祿賞典祿給與ノ制限ヲ改メ一時ニ之ヲ下渡スルト爲シ以テ公債證書ヲ付與スヘシ

一永世祿ノ者ヘハ

金祿元高賞典祿アルモノハ家祿ニ合計シ元高トス

年限

七萬圓以上	五ケ年分
六萬圓以上	五ケ年二分五厘分
五萬圓以上	五ケ年半分
四萬圓以上	五ケ年七分五厘
三萬圓以上	六ケ年分
二萬圓以上	六ケ年二分五厘分
一萬圓以上	六ケ年半分
七千五百圓以上	六ケ年七分五厘分
七千圓以上	七ケ年分
五千圓以上	

五千圓未滿
二千五百圓以上
千圓以上

右一ヶ年五分ノ利子ヲ給ス

七ヶ年二分五厘分
七ヶ年半分

千圓未滿
九百圓以上
八百圓以上
七百圓以上
六百圓以上
五百圓以上
四百圓以上
三百圓以上
二百圓以上
百圓以上

右一ヶ年六分ノ利子ヲ給ス

七ヶ年七分五厘分
八ヶ年分
八ヶ年二分五厘分
八ヶ年半分
八ヶ年七分五厘分
九ヶ年分
九ヶ年二分五厘分
九ヶ年半分
十ヶ年分
十ヶ年二分五厘分
十ヶ年半分
十一ヶ年分

百圓未滿
七十五圓以上
五十圓以上
四十圓以上
三十圓以上
二十圓以上
十五圓以上

右一ヶ年七分ノ利子ヲ給ス

十一ヶ年半分
十二ヶ年分
十二ヶ年半分
十三ヶ年分
十三ヶ年半分
十四ヶ年

一終身祿ノ者ハ

右永世祿年限十分ノ五ヲ給ス

但利子ハ永世祿ノ割合ト同シ

一年限祿ノ者ハ

十一年以上ノ者ハ右永世祿年限十分ノ四ヲ給ス
十年未滿ノ者ハ右永世祿年限十分ノ三五ヲ給ス
八年以上ノ者ハ右永世祿年限十分ノ三ヲ給ス
六年未滿ノ者ハ右永世祿年限十分ノ三ヲ給ス
四年未滿ノ者ハ右永世祿年限十分ノ二五ヲ給ス
三年未滿ノ者ハ右永世祿年限十分ノ二ヲ給ス
二年ノ者ハ右永世祿年限十分ノ一五ヲ給ス
但利子ハ永世祿ノ割合ト同シ

第二條 此公債證書ノ利子下渡シハ明治十年分ハ十一月翌年五月ニ相渡シ以後之ニ準シ年々兩度ニ下渡スフトス

但利子下ケ渡シ混淆セサルヲ毎四年四月一日ヨリ五月廿八日迄十月一日ヨリ十一月廿八日迄ハ證書ノ讓渡シ賣買等ノ届出ヲ見分スヘシ十二年第廿六號布告ヲ以テ(賣買等)ノ下三字ヲ加フ

第三條 家祿賞典祿元高ヲ付與スル年限ニヨリテ利子ノ差異ヲ生スルキ元高ニ向テ公債證書ヲ付與スル制限左ノ如シ

一金壹萬圓 家祿賞典祿合高

此六ヶ年半分金六萬五千圓此公債證書ノ利子一ヶ年五歩金三千二百五十圓ト成ル一金九千九百圓 家祿賞典祿合高

此六ヶ年七分五厘分金六萬六千八百二十五圓此ノ公債證書ノ利子一ヶ年五歩金三千三百四十一圓廿五錢トナル

右比較九千九百圓ノ方利子九十一圓廿五錢ノ過ト成ル然ル時ハ壹萬圓ノ利子金額ニ超過セサルヲ以テ制限トナス故ニ九十一圓廿五錢ヲ引去リ利子三千二百五十圓ニ適當スル公債證書ヲ下渡ヲ以テ規則トス其他右ニ類似ノ件ハ皆之ニ準ス

第四條 此公債證書ハ利子ノ差ニヨリ區別アリト云ハ其發行スル種類ハ左ノ如シ
五圓 十圓 廿五圓 五十圓 百圓
三百圓 五百圓 千圓 五千圓

第五條 前條公債證書ヲ付與スルキニ當リテ公債證書ニ未滿ノ端金ハ總テ通貨ニテ相渡スヘシ

第六條 此公債證書ノ元金ハ五ヶ年間之ヲ據置キ六ヶ年目ヨリ大藏省ノ都合ニ因リ毎

年抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ消却シ都合三十ヶ年間ニ悉皆之ヲ消却スヘシ

第七條 此公債證書發行ニ付テノ順序其外トモ此條例外ノ事件ハ都テ新舊公債證書發行條例ノ通りタルフト心得ヘシ

○諸記名公債ノ元利賦金渡方日本銀行ニ於テ取扱ハシム十九年七月八日大藏省令第二十四號
北海道廳又ハ府縣廳ニ於テ取扱來候諸記名公債ノ元利賦金拂渡方ノ儀來十一月一日ヨリ總テ日本銀行支店又ハ代理店ニ於テ之ヲ取扱ハシム但其代理店ハ日本銀行ヨリ廣告スヘシ

○諸公債證書ノ元金拂渡期限ヲ經過シ受取方不申出所有主ノ損失ニ屬スル證書取扱十九年一月九日大藏省第三號府縣令

諸公債名證書ノ元金其條例ニ定メアル拂渡期限ヲ經過シ受取方申出テス所有主ノ損失ニ歸シタル證書ハ當省ニ於テ該證書ノ無効ナルヘキ旨ヲ告示スヘキニ付右ノ證書コソアルキハ公債簿冊ニ據リ該證書ノ種類金高記號番號等其年十二月末日ノ現狀ヲ以テ取調翌年一月三十一日限リ其地發還當省ヘ届出ヘシ

右相達候事

○諸記名公債元利賦金支拂方取扱順序

十九年七月八日
大藏省訓令第三十號

諸記名公債元利賦金支拂方取扱順序左ノ通相定ム

諸記名公債元利賦金支拂方取扱順序

第一條

管廳ハ諸記名公債利賦金支拂期節ニ臨ミ其支拂期前月一日沖繩縣ハ前々月一日ノ越高

即其日ノ所管高ニ據リ左ノ第一號書式ノ如ク取調其翌日ヨリ五日以内ニ發遣シテ日

府日本銀行本店へ又債主一人毎ニ其支拂ヘキ利賦札ノ金高ヲ左ノ第二號書式ノ如ク

取調左ノ期日迄ニ發遣シ其支拂ヲ爲スヘキ日本銀行支店又ハ代理店へ報告スヘシ

一新公債

毎年五月十日
十一月十日

一舊公債

毎年十一月十日

一金札引換公債

毎年四月十日
十月十日

一金祿公債

毎年四月十日
十月十日

第二條

諸記名公債當籤又ハ滿期償還ノ告示到達ノ日ヨリ七日以内ニ發遣シ日本銀行本店へ又

如ク取調當籤又ハ滿期償還ノ告示到達ノ日ヨリ七日以内ニ發遣シ日本銀行本店へ又

其債主ノ姓名證書ノ金高ヲ左ノ第四號書式ノ如ク取調告示到達ノ日ヨリ十日以内ニ

發遣其支拂ヲ爲スヘキ日本銀行支店又ハ代理店へ報告スヘシ

第三條

來ル十一月一日以前ニ係ル未渡ノ元利賦金ヲ請求スルモノアルトキ又ハ第一

條所管高第二條償還合金高ニ増減ヲ生スルトキハ第一條第二條ニ準シ日本銀行本支

二十二年二月
大藏省訓令
第二十號
以テ第一號
中テ第三號
加シテ第一
第二號第一
式第二號
改正第一
第三號

店及代理店へ報告スヘシ

第四條

諸記名公債證書ノ所有者ヲシテ來ル十月十五日迄ニ其所有證書取扱店ヲ指定

セシメ届出サシムヘシ又其姓名住所印鑑ヲ戶長(戶長ナキトキハ那區長)ノ保證ヲ得テ日本銀行本

支店又ハ代理店へ差出サシムヘシ但姓名代替り改印等ノトキ并ニ新ニ公債ヲ讓受買

入タルモノモ本文同様其印鑑ヲ差出サシムヘシ

第五條

管廳ニ於テハ前條届出ニ依リ其取扱店毎ニ帳簿ヲ設ケル手又ハ數店ヲ一帳簿

トスルモ適宜ナルヘシ

第六條

日本銀行代理店ハ一管廳下便宜ノ場所ニ之ヲ定メ同行ヨリ廣告セシムヘシ

(書式略之)

○亡失ノ諸公債證書發見ノ節復手ノ手續及該證書引上處分

引 十四年十二月十五日
大藏省乙第五十號府縣へ達

諸公債證書ノ内盜難紛失等届出當省ノ布達ヲ經タル證書他ノ管轄内ニ於テ發見當省へ

届出候節記名證書ハ所轄廳(無記名ノ分ハ最前届出ノ廳)へ直ニ右發見ノ次第明細ニ通

知シ該證書ヲシテ記名者(無記名證書ハ所有者)ニ復手ノ手續可取計儀ト可相心得此旨

相達候事

但記名證書ハ成規ノ七ヶ月ヲ經過シ代リ證書ヲ記名者へ交付後ニ發見ノ分ハ直ニ警

察官へ通告シ他管轄ノ證書ナレハ該證書引上ノ處分ニ可及儀ト可相心得候事

○公債證書亡失ニ關スル取扱手續 十七年四月二十二日
大藏省第二十三號府縣へ達

第十二類 租税及貨紙幣公債區町村費

第四百十三

凡公債證書亡失ニ關スル告示ハ急速ヲ要スルモノニ付本年四月第四十八號告示ニ據リ亡失ノ届出アルキ其取扱手續左ノ通之ヲ定ム

公債證書亡失ニ關スル取扱手續

- 第一條 他管廳所轄ノ證書亡失ノ届出アルキハ本管廳所轄ノ證書同一ノ取扱ヲ以テ該届出ヲ受理シ其旨速ニ管内ヘ告示シ詳細書ヲ以テ同時ニ大藏省ヘ届出且證書所轄廳ヘ通知スヘシ
- 第二條 前條ノ場合ニ在リテ證書所轄廳ヨリ亡失地ノ管廳ヘ證書ノ送達書已ニ到達シアレハ所持人ノ届書ヲ該送達書ニ照シ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第三條 證書所轄廳ノ送達書未タ亡失地ノ管廳ヘ到達セスシテ證書ノ種類記號番號金高枚數及ヒ記名等證明シ難キキハ届出人ヨリ實際取引授受ノ證據物或ハ手記等ノ如キ書類ヲ提出セシメ左ニ掲載スル各項ニ據リテ篤ト取糾シ相違ナキモノト認定シ得ル證憑アルモノハ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 一 證書ノ所轄廳
- 二 證書ノ種類記號番號金高枚數
- 三 前記名者ノ氏名族籍住所
- 四 讓渡賣渡等ニ關スル取引授受ノ證據物若シクハ證據物無之トキハ其年月日並授受取引ノ場所及ヒ原由
- 五 利賦札截斷現金交換濟之分何年何月渡リ迄ノ分界

第四條 證書所轄廳ヘ往復セサレハ證書ノ種類記號番號金高枚數及ヒ記名等證明シ難キキハ直ニ證書所轄廳ヘ照會シ確報ヲ得テ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 無記名公債證書亡失シタルキモ亦第一條ノ如ク管内ヘ告示ヲ爲シ大藏省ヘ届出ヘシ

右相達候事

● 伺指令

● 當籤公債證書ノ件ニ付群馬縣ヨリ大藏省ヘ伺 十九年八月六日(十九年八月十八日官報)

記名當籤公債證書ハ從來元金ト交換實還納ノ月ヲ以テ所轄高ヲ減額致來リ候處本年十一月一日以後元利賦金拂渡方ハ日本銀行又ハ代理店ニ於テ取扱候儀ニ付當籤證書ハ其當籤ノ月ヲ以テ所轄高ヲ減額スル儀ト相心得然ルヘキ

指令 十九年八月十四日

伺ノ趣本年七月三十一日官報ヘ掲載滋賀縣ヨリ當省第三十號訓令ニ關スル伺第四項ニ對シ指令ノ趣ニ據リ日本銀行ヨリ未拂ノ報告ヲ得サルモノハ所轄高ノ減少ニ立ル儀ト相心得ヘキ事

● 整理公債取扱方ノ件ニ付滋賀縣ヨリ大藏省ヘ伺 十九年十一月九日(同月二十日官報)
今般省令第三十號整理公債取扱順序第九條ニ據リ從前發行記名公債證書ヲ以テ照察シタルモノ該證書ヲ日本銀行ヘ拂込ニ方リ記名欄内記署名及檢印等ノ手續ニハ及ハサルヤ然レハ所管廳債主簿削除ノ儀ハ最後滿額拂込ノ上日本銀行又ハ國債局ノ通知ニ由リ取計フヘキヤ

指令 十九年十一月十八日

伺ノ趣引換濟ノ證書ハ其種類並記號番號等告示スルニ付右告示ニ掲載セル所管證書ハ債主簿ヨリ削除スヘキ儀ト

心得ハシ

●當籤又ハ滿期償還公債證書汚染毀損等ノ件ニ付日本銀行ヨリ大藏省ヘ伺九十年十二月十五日

(同月二十五日官報)

諸公債證書水火災等ニテ其部分焼切レ又ハ消滅シテ通用シ難キ程ノモノハ新舊公債證書條例第十條中第四節及ヒ第五節ノ通可相心得ハ勿論ニ候得共爰ニ當籤又ハ元金償還ニ係ル元利賦金掛減ニ際シ該證書及ヒ之ニ付着セル利賦札トモ毀損又ハ汚染等ノ分有之候トキハ其概要ノ文字ヲ毀損シ又ハ其文字中汚染等ニ係ルト雖モ其紙中ニ於テ之カ正確ナルヲ鑒別シ得ヘキモノハ所有者ヨリ事由書テ徵求シ可御渡候ヘ共其正否ヲ鑒別シ能ハサル程ノモノハ如何處分政シ可然哉

指令 十九年十二月二十二日

同ノ趣所駐廳ノ證明書ヲ持參スル者ニ限リ支拂方取計フヘキ儀ト心得ヘシ

●公債元利賦金報告ノ件ニ付滋賀縣ヨリ大藏省ヘ伺二十年二月二十五日

(同月十四日官報)

本年貴省訓令第十二號ニ據リ疑義ノ際左ニ

貴省訓令第三十號第三條中追加所管滋賀縣合高ニ増減ヲ生スルトキ全體各取扱店ノ増減ナレハ之ヲ日本銀行本店ヘモ報告シ其甲乙取扱店ヲ變換シテ全體ノ合高ニ増減ナキモノハ本店ヘ報告ニ及ハサル乎

指令 二十年三月十日

甲乙取扱店ヲ變換シタル場合ニモ本店ヘ報告スヘキ儀ト心得ヘシ

●金祿公債證書利札請求方ノ件ニ付北海道廳ヨリ大藏省ヘ上申二十年四月十六日

(同月三十日官報)

本年二月御省訓令第十一號金祿公債證書本年十一月以降可相渡利札本年四月一日當廳主管高及今後轉入證書ノ準備ニ充テ別記仕置書(仕置書之)ノ通り該利札御送付有之度

指令 二十年四月二十八日

上申中轉入證書ノ準備ニ充ツヘキ利札ハ本年四月一日以後ノ轉入ニシテ同日以前府廳ノ轉出ニ係ル分ハ更ニ請求シ同日以後ノ轉出ニ係ル分ハ其轉出廳ヨリ送付ヲ受クヘキ儀ト心得ヘシ

第二百二十六章 印紙類賣下賣捌規則

明治十九年六月八日 大藏省令第二十一號

印紙類賣下賣捌規則左ノ通相定メ來ル七月一日ヨリ施行ス

但從前ノ印紙類賣捌規程ハ同日ヨリ廢止ス

印紙類賣下賣捌規則

第一條 此規則ヲ以テ賣下又ハ賣捌ヲ爲スヘキ印紙類左ノ如シ

證券印紙 手形用紙

烟草印紙

訴訟用印紙

賣藥印紙

第二條 印紙類ノ賣下ハ地方廳之ヲ管理シ郡區役所ヲシテ其手續ヲ爲サシムヘシ

第三條 印紙類ハ第五條第六條ニ依リ賣捌ノ許可ヲ得タル者ノ外賣下ヲ爲サハルモノトス

トス

第四條 北海道廳長官府知事縣令ハ其管內各郡區ノ實況ニ應シ印紙類賣捌所ノ配置方

ヲ計畫シ豫メ其員數ヲ定メ之ヲ大藏省ニ届出ヘシ

第五條 印紙類ノ賣捌ハ左ノ資格アリテ其郡區內ニ居住スル者ニ限リ之ヲ許ス
一陸軍海軍及ヒ官吏恩給令ニ依リテ傷痍ノ爲メ終身恩給ヲ受クル者

一 巡査看守給助例ニ依リテ傷瀆ノ爲メ終身恩給ヲ受クル者
 一 陸軍恩給令第二十一條第一項海軍恩給令第二十二條第一項官吏恩給令第十條ニ掲ケル寡婦孤兒ニシテ扶助料ヲ受クル者
 一 巡査看守給助例第二條第三項ニ掲ケル寡婦孤兒ニシテ扶助料ヲ受クル者
 第六條 第五條ノ資格アル出願者其郡區内印紙賣捌所ノ定數ニ滿タサルトキハ其郡區内ニ居住シテ一般陸軍恩給令海軍恩給令官吏恩給令巡査看守給助例ニ依リ恩典ヲ受クル者ヲ以テ之ニ充ツ可シ
 前項資格アル者ヲ以テスルモ猶定數ニ滿タサルトキハ二年以内ノ期限ヲ定メ一般人民ニ許可スルコトアルヘシ
 第七條 烟草營業人若クハ其家族又ハ同居ノ者ニハ烟草印紙賣捌ヲ許可セズ賣藥營業者請賣者行商者若クハ其家族又ハ同居ノ者ニハ賣藥印紙賣捌ヲ許可セサルモノトス烟草稅則第三十九條賣藥印紙稅規則第八條訴訟用印紙規則第十一條證券印稅規則第二十五條ニ依リ處罰ヲ受ケタル者ニハ滿三年間印紙類ノ賣捌ヲ許可セサルモノトス
 第八條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ居住地ノ郡區役所ニ願出テ賣捌所ノ標札ヲ受ケ之ヲ戶外ニ掲出ス可シ
 第九條 印紙類賣捌人改名又ハ同郡區内ニ轉居ノ節ハ其郡區役所ニ申出テ標札ノ訂正ヲ受ケヘシ
 但標札燒失毀損等ノ節ハ更ニ其下渡ヲ受ケヘシ

第十條 印紙類ハ其代金上納ノ後之ヲ下渡ス可シ
 但第五條第六條ノ受恩典者ニハ其代金五百圓マテハ公債證書ヲ抵當トナシ六箇月以内之レカ延納ヲ許スコトアル可シ
 第十一條 印紙類ハ各一ト口ノ拂受高ニ從ヒ左ノ割引法ヲ以テ賣下ヲ爲ス可シ
 拂受高一ト口 割引高
 五百圓未滿 百分ノ七
 五千圓未滿 百分ノ八
 五千圓以上 百分ノ九
 第十二條 印紙類ハ賣捌所ノ外ニ於テ一切賣捌クテ得ス
 第十三條 印紙類ハ必ス定價ヲ以テ賣捌クヘシ賣捌ノ外讓與貸與スルコトヲ許サス
 第十四條 印紙類賣捌人ハ印紙受拂ノ帳簿ヲ調製シ印紙受拂ノ都度其種類員數及ヒ年月日ヲ記載スヘシ
 但烟草印紙賣藥印紙賣捌タル者ハ買受人ノ住所氏名ヲモ記載シ置クヘシ
 第十五條 印紙類水火盜難等ノ爲メニ亡失スルモ其代金ノ返付ヲ請求スルコトヲ得ス
 第十六條 印紙類賣捌人所持ノ印紙ニシテ損傷又ハ汚染シタルモノハ十錢以上取纏メタルモノニ限り左ノ割合ヲ以テ之ヲ交換スヘシ
 損傷印紙壹圓ニ對シ 交換下付印紙八十錢
 汚染印紙壹圓ニ對シ 交換下付印紙八十錢
 第十七條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得タル者左ノ事項ニ該ル時ハ賣捌殘餘ノ印紙類及ヒ賣

捌標札ヲ返納ス可シ此場合ニ於テハ返納印紙而稅額十分ノ一ヲ減シタル代價ヲ以テ之ヲ買戻スヘシ

- 一 廢業又ハ二箇月以上休業スル時
- 一 受恩典者ニシテ恩給ヲ受クルノ權消絶シ又ハ恩給停止ヲ受ケタル時
- 一 他郡區ニ移住スル時
- 一 賣捌ヲ禁止セラレタル時

第十八條 烟草印紙賣藥印紙ハ他府縣居住ノ者ニ賣渡スコトヲ許サス

第十九條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得タル者ハ烟草印紙賣捌ニ關スル業務ヲ烟草營業者若シハ其家族又ハ同居ノ者ニ委託スルコトヲ得ヌ賣藥印紙ノ賣捌ニ關スル業務ヲ賣藥營業者請賣者行商者若クハ其家族又ハ同居ノ者ニ委託スルコトヲ得ヌ

第二十條 北海道廳長官府知事縣令ハ隨時主任官ヲ派遣シ印紙類賣捌ノ實況及ヒ現在高等ヲ檢査セシムヘシ

第二十一條 此規則ニ違背シタル者アル時ハ其情狀ニ依リ北海道廳長官府知事縣令ニ於テ其賣捌方ヲ禁止スルコトアル可シ

○印紙類賣下賣捌規則取扱手續

十九年六月十二日大藏省訓令第二十號北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

明治十九年^{六月}當省令第二十一號印紙類賣下賣捌規則取扱手續左ノ通心得ヘシ

印紙類賣下賣捌規則取扱手續

第一項 印紙類賣捌所ノ配置ヲ計畫スルニハ從來賣捌ノ景狀ニ依リ且土地ノ便否商況

等ヲ參酌シ總ヘテ印紙ノ賣買ニ差支ナキ時期シテ之ヲ定ムヘシ

第二項 印紙類ハ需用ノ景況ト現在高トテ參酌シ凡六箇月分賣下ノ見込相立第一號離形ニ倣ヒ主稅局ニ請求スヘシ

第三項 印紙類ノ受拂ハ主任官二名以上ノ立會ヲ要スルモノトス

第四項 印紙類到達ノ節ハ日數五日以内第二號離形ニ倣ヒ到達ノ月日ヲ記載セシ領收證書ヲ主稅局ニ送付スヘシ

第五項 印紙類賣捌所ノ標札ハ第三號離形ニ據リ調製下付スヘシ但二種以上賣捌クモノハ各種類ヲ一枚ニ併記スルモ妨ケナシ

第六項 他府縣ヨリ轉籍又ハ寄留シタル者若クハ他郡區ヨリ轉居シタル者ニシテ印紙類ノ賣捌ヲ請願スル時ハ規則第七條二項ノ年限中ニ係ラサル者ナルヤ否及第二十一條ニ據リ禁止セラレタルコトナキヤ否ヲ詳査スヘシ

第七項 印紙類賣捌人員増減ハ一箇年ヲ二期ニ分チ第四號離形ニ倣ヒ^{十六}月末日ノ現在員ヲ取調ヘ七月二十日限リ其應差立主稅局ヘ送付スヘシ

第八項 印紙類賣下賣捌規則第十條但書ニ據リ印紙代金ノ延納ヲ許可スル時ハ其抵當トナスヘキ公債證書ノ價格ハ明治十三年當省乙第一號達ニ據テ之ヲ定ムヘシ但代金延納ヲ許可シタル時ハ第五號離形ニ倣ヒ賣捌人ヨリ上納ノ受書ヲ差出サシムヘシ

第九項 規則第十條但書ニ依リ延納ノ代金其收入方翌年度ニ亘ル者ハ現收入年度ノ稅

表ニ編入スヘシ

第十項 印紙類ヲ運送會社ニ運搬セヨメタル分ハ到達ノ節社員等爲立會檢査ヲ遂ク若シ損傷汚染或ハ護謨糊着等ニテ全ク使用シ得ヘカヲサルモノヲ發見シタル時ハ社員ノ手續書ヲ徵シ之ニ其枚數調書ヲ添付シ處分方ヲ稟議スヘシ

但天災地變等ニ罹リタルモノハ本項手續書ニ社員外二名以上ノ證明ヲ爲サシムヘシ

第十一項 印紙類萬一封中ノ員數ニ過不足ヲ生シタルモノアル時ハ其封紙帶紙ニ立會官吏ノ姓名書ヲ添付シ處分方ヲ稟議スヘシ

第十二項 印紙類ノ受拂ヲ爲シタル時ハ主任ニ於テ即日受拂及ヒ殘高ヲ記帳シ現在高ト對照スヘシ

第十三項 前項ノ場合ニ於テ主任官交代スル時ハ帳簿ト現在高トヲ對照シ受渡ヲナスヘシ

第十四項 印紙類賣下賣捌規則第十七條ニ依リ返納セシ印紙(代金延納ニ係ルモノヲ除ク)ハ其種類(長形ヲ區分シ)枚數及代金等明細仕譯書ヲ添付シ其時々代金下付方ヲ稟議スヘシ

但代金納付ト印紙返納ト其時日年度ヲ異ニスル時ハ代金納入年度ノ區分ヲ立テ之ヲ稟申スヘシ

第十五項 北海道廳長官府知事縣令ハ隨時各郡區役所ニ主任官ヲ派遣シ印紙類受拂ノ實況及ヒ現在高等ヲ精査セシムヘシ

(第一號離形乃至第五號離形略之)

○賣藥印紙交換規則

十九年七月七日 大藏省令第二十三號

賣藥印紙交換規則左ノ通相定ム

賣藥印紙交換規則

第一條 賣藥營業人所持ノ賣藥中性効ヲ失シタルモノヲ廢棄センカ爲メ既貼ノ印紙不用ニ屬スル場合ニ於テ一人分既貼印紙額一ト口拾圓以上ハ其願出テニ由リ左ノ割合ヲ以テ新印紙ト交換スヘシ

- 一 既貼印紙拾圓以上壹圓ニ付 交換新印紙八拾錢
- 一 貳拾圓以上壹圓ニ付 同 八拾五錢

第二條 賣藥ノ裝置又ハ印紙ノ貼用方完全ナラサルモノ及ヒ印紙ノ汚染毀傷シタルモノハ交換スルヲ得ス

第三條 賣藥印紙ノ交換ヲ願出ツル者ハ賣藥ノ箇數及印紙各種枚數ノ仕譯ヲ爲シタル書面ヲ添ヘ其賣藥ヲ所在府縣廳ニ差出シ檢査ヲ受ヘシ

第四條 府縣廳ハ其賣藥ヲ檢査シ既貼ノ印紙ニ消印シ又ハ之ヲ切斷スルヲ以テ受取濟ノ證ト爲シ其賣藥ヲ下戻シ同時ニ新印紙ヲ下付スヘシ

○印紙類賣下代金不納ノ者代金納付ノ分手數料ヲ給セス納付金減額

十九年九月三十日 大藏省令第二十九號

明治十七年五月三十一日以前ニ係ル印紙類賣捌人中特ニ印紙類賣下代金延納ヲ許可セシ者及身代限ノ處分ヲ受ケ賣下代金不納ノ者爾後右代金ヲ納付スル分ハ別ニ賣捌手数料ヲ給セス納付金ノ内ヨリ該手数料相當ノ金額ヲ減スヘシ

○訴訟身代限又ハ財産公賣ノ際諸印紙類買上方

七十二號府縣(沖繩縣ヲ除ク)ニ達

明治十七年十月二十日大藏省第

民事訴訟身代限リ又ハ税金不納ニヨリ財産ノ全部ヲ公賣スル際諸印紙手形用紙ヲ所持スルモノ及ヒ烟草賣藥營業者廢業又ハ其營業稅不納公賣處分ノ際該印紙ヲ所持スルモノハ損傷汚染ノ分ヲ除キ手数料トシテ代價百分ノ十ヲ上納スルルハ之ヲ管廳ニ買上ルコトヲ得

但買上タル印代類ハ各廳之受ニ組入レ買上代金ハ收稅長ヨリ主稅官長ヘ別途請求シ手数料ハ雜收入トシテ納付スヘシ
右和達候專

○印紙類賣下賣捌取扱手續第八項印紙代延納抵當公債證書

價格ヲ定ム

二十年七月四日
大藏省訓令第四十八號

明治十九年六月當省訓令第二十二號印紙類賣下賣捌規則取扱手續第八項印紙代金ノ延納ヲ許可スル時其抵當トナスヘキ公債證書ノ價格ハ左ノ通之ヲ定ム
各公債證書抵當價格

中山道鐵道	額面百圓ニ付	金九拾五圓
七分利付金藏	額面百圓ニ付	金九拾圓
五分同		
六分同		
起業	額面百圓ニ付	金九拾圓
金札引換		
海軍		
整理		
新公債	額面百圓ニ付	金七拾貳圓

○人民所持ノ印紙賣買方

二十年十一月十五日
大藏省訓令第六十五號

北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

左ノ場合ニ於テ人民ノ所持スル印紙ハ同郡區内ニ在ル印紙類賣捌人ニ之ヲ賣渡スコトヲ得ルモノトス但此場合ニ於テハ印紙類賣捌人ヲシテ其買取ノ事由及ヒ賣渡人ノ住所氏名ヲ帳簿ニ詳記シ置カシムヘシ

- 一 印紙類賣捌人ニシテ印紙類賣下賣捌規則第十七條ノ或項目ニ該當スルトキ
- 一 印紙ヲ所持スル人民ニシテ明治十七年大藏省第七十三號達ノ場合ニ該當スルトキ
- 一 何人ニ限ラス遺失印紙ヲ拾得タルモノニシテ成規ニ據リ當該官署ヨリ其拾得印紙ヲ給付セラレタルトキ

● 同指令

● 印紙類賣捌特許ノ儀ニ付福井縣ヨリ大藏省へ 同十六年七月七日

八年大政官四十八號通ニ據リ扶助料ヲ受ルモノモ印紙類賣捌特許ノ部ナルヤ右相伺候也

指令 申出ノ通 十六年七月二十日

● 印紙類賣捌出願入處分ノ儀ニ付大阪府ヨリ大藏省へ 同十六年五月廿六日

官年第二十七號公達第一條ニ依リ印紙類賣捌ヲ出願スルモノ、内明治九年十月第九十九號公達陸軍恩給令發行以前ノ救助ヲ受クルモノ（明治七年二月佐賀恭徳征討ノ際陸軍ニ從事シ戦地ニ於テ傷疾ヲ受ケシニ因リ救助トシテ年金下賜ノモノ）ニシテ該令ニ依リ恩典ヲ受クルモノニハアラサルモ功勞ニ依リ年金ヲ受クルハ異ナルナシ然ラハ印紙類賣捌手續第一條ニ準據處分シ可然ト右相伺候也

指令 十六年八月十日

現今扶助ヲ受ケ居ルモノハ客年第二十七號布達第一條ニ準據シ賣捌ヲ許可スヘキ儀ト可相心得事

● 分引ト稱シ印紙價額ヨリ低價ニ賣捌ノ儀ニ付福岡縣ヨリ大藏省へ 同十六年七月六日

印紙賣捌人ニシテ分引ト稱シ印紙ノ價額ヨリ幾分カ低價ヲ以テ賣捌ク者アリ這ハ官ヨリ定メタル價額ヲ亂ルノ廉ヲ以テ賣捌ヲ差止メ然ルヘキヤ右相伺候也

指令 十六年七月廿六日

賣捌ヲ差止ムルニ及ハス分引ハ成ラサル旨申渡スヘシ

● 印紙類賣捌出願ノ受恩典者保證人ノ儀ニ付東京府ヨリ大藏省へ 同十六年九月三日

受恩典者印紙類賣捌出願ノ者保證人ノ制限ハナキモ証人戸主ニ非サルカ又ハ戸主ト雖モ同居等ニシテ固ヨリ不動產ヲ所有セス拂下印紙價額ニ對シ保證ノ任不適當ト認ムルモノハ許可セサルヘキヤ右相伺候也

指令 十六年九月十四日

同ノ通保證人不適當ト認ムルモハ更ニ相當ノ者ヲ選定ノ上出願セシムヘシ

● 印紙類賣捌ノ儀ニ付和歌山縣ヨリ大藏省へ 同十六年八月四日

明治五年以來公務上傷疾ニ罹リ終身一人扶持扶助料下賜ノ元兵卒ニシテ同八年四月第四十八號公達陸軍武官傷疾扶家族扶助概則年十二ニ依リ客年十二月第二十七號御布達印紙類賣捌手續第一條ニ準スヘキヤ右相伺候也

指令 同ノ通 十六年九月十八日

● 印紙賣捌許否區分ノ儀ニ付静岡縣ヨリ大藏省へ 同十七年六月三日

印紙賣捌規程第三條（第一條ノ資格ヲ有スル出願者第二條ノ定員ニ滿タサルモハ一般陸軍恩給令海軍恩給令巡査看守給助例ニ依リ恩典ヲ受クル者ヲ以テ之ニ充ツヘシ）ハ現ニ恩典ヲ受ケ居ル者ニ限ルヤ又ハ既ニ一時ノ恩典ヲ受ケタル者モ包含スルヤ

指令 十七年六月十日

現ニ恩典ヲ受ケ居ルモノニ限ルヘシ

● 印紙類賣捌規程ノ儀ニ付福岡縣ヨリ大藏省へ 同十七年六月十日

陸軍恩給令第六拾六條ノ孤兒ハ印紙類賣捌規程第五條ノ資格アリヤ同第六拾九條ノ父母祖父母ハ規程第三條ノ資格アリヤ

指令 十七年七月三日

總テ申出ノ通

● 犯則等ニ依リ沒收ノ物件取扱方石川縣ヨリ大藏省へ 同十九年三月十九日

裁判所ニ於テ犯罪等ニ依リ沒收シタル物件ハ引續キ便宜賣却ノ儀御達有之ニ就テハ該物件ノ内取扱方疑義ノ際左

一 沒收新印紙ノ回移ヲ受ケタルハ該印紙ハ本廳ノ受ニ廻込ムヘキヤ
一 前項印紙ノ内烟草帶印紙ニシテ兩端ヲ縫合セタルノミニシテ割印等ナキモノト雖一旦裝置ノ用ニ供シタルモ
ノハ燒却スヘキヤ

指令 十九年四月一日

伺ノ趣兩項共不取締無之標燒却可取計事

●烟草印紙ノ件ニ付青森縣ヨリ大藏省主稅局へ照會

十九年三月十五日
(十九年三月十一日官報)

印紙賣捌人ニ於テ會テ印紙拂受ケ置キタルニ烟草製造人國業セルヲ以テ後來賣捌ノ途ナシ然ルニ此ノ賣捌人ハ他
ノ印紙モ共ニ賣捌クモノナレハ國業セスシテ其ノ賣捌ノ途ナキ烟草印紙ノミヲ買上テ賣捌スルモノアリ是等ハ已
ムテ得サルニ出ツルモノナレハ印紙賣捌人國業ニ準シ賣捌クヘキヤ
烟草印紙發行ノ際高價ノ印紙ヲ拂受ケタルニ今日ニ至ルモ尙一印紙モ賣捌カス且後來賣捌ノ目途ナキヨリ他ノ同
小印紙ト交換ノ儀出願スルモノアリ是ハ無論賣捌クヘキヤ

回答 十九年二月十八日

第一項第三項總局若シカラス尤第一項ノ者ハ其ノ烟草印紙番板ヲ返納セシムヘシ

●需用ノ見込ナキ烟草印紙返納方ノ件ニ付新潟縣ヨリ大藏省へ伺十九年三月九日

(十九年五月
七日官報)

煙草印紙明治十六年中改正以降各種御渡ノ内爾後今日ニ至ル迄需用ノ見込ナキ分六百十二萬千八百三十五枚別紙
仕譯書ノ通返納致シタシ(別紙仕譯
書ハ略ス)

指令 十九年四月二十九日

伺ノ趣閣屆候事

但運搬荷造等ノ手續ハ主稅局ヨリ更ニ通達スヘシ

●損傷印紙交換セシモノ處分方ノ件ニ付千葉縣ヨリ大藏省主稅局へ照會 十九年八月十日

六(十九年八月
廿四日官報)

本年御省令第二十一號印紙類賣下賣捌規則第十六條ニ損傷汚染ノ印紙ハ拾錢以上取纏メタルモノニ限リ交換セシ
ムヘシト之アリ然ルニ訓令第二十二號同則取扱手續中ニ其交換セシ印紙ノ處分法ヲ示サレサルモ即從前ノ擬合ニ
倣ヒ每半年分取纏メ主稅局へ送付スヘキモノヤ

回答 十九年八月二十日

交換ニ係ル損傷汚染印紙處分ノ儀御意見ノ通

第百三十七章 諸貸付金整理順序

十九年四月二十四日
大藏省訓令第五號北海道廳府縣

諸貸付金整理方ノ儀十九年度以後左ノ通心得ヘシ

但書式ハ別ニ送付ス (書式略ス)

諸貸付金整理順序

第一條 諸貸付金ノ徵收ハ明治十九年三月閣令第三號歲入歲出出納規則ニ準據スルモノトス

第二條 諸貸付金ヲ徵收スルニ付テハ明治十九年三月當省令第四號歲入取扱順序第十六條第十七條ニ據ル

第三條 諸貸付金ハ左ニ掲クル科目ニ分ツテ整理スヘシ

- 一 舊藩貸 從前ノ舊藩貸ヲ云フ
- 二 勸業貸 從前ノ勸業貸ヲ云フ

第十二條 左ニ掲クル諸件ハ其期限後十五日以内ニ該廳ヲ發シ當省ヘ送付スヘシ
一 毎年四月一日ノ現狀ニ依リ諸貸付未納金報告書(書式第一號)及ヒ返納年度未定内
譯表(書式第二號)ヲ調製スルヲ

二 前項報告書ニ對シ其増減ヲ毎年四月一日ノ現狀ニ依リ増減増告表(書式第三號)ヲ
調製スルヲ

三 毎月納濟ノ金額ハ歳入取扱順序第二十五號ニ準シ歳入報告書ヲ調製スルヲ

四 前項ノ報告書ト同時ニ勸業貸及練替貸ノ收入濟仕譯書(書式第四號)ヲ調製スルヲ

五 第四條ニ依リ諸貸付金ノ返納期限ヲ六箇月以内延期シタルトキハ毎月之レカ報告
書(書式第五號)ヲ調製スルヲ

第十三條 此整理順序ニ對シ從前ノ當省達中矛盾スル廢止ス

第二百二十八章 内國旅費規則

十九年六月八日(同月九日布告)
閣令第十四號

内國旅費規則ヲ定ムルコト左ノ如シ但明治九年太政官第六十四號達旅費定則中内國ノ
部ハ廢止ス

内國旅費規則

第一條 内國旅費ハ官吏公務ニ依リ本邦内ヲ旅行スルトキハ旅行中一切ノ費用ニ充ツ
ル爲メ之ヲ支給ス

第二條 内國旅費ハ各官等ニ依リ分テ六等トシ別表ノ定ムル所ニ從ヒ順路ノ路程ニ依
リ瀛車瀛船賃車馬賃及日當ヲ支給ス但車馬賃及日當ハ管内外ニ區別シ之ヲ支給ス

第三條 瀛車賃ハ瀛車旅行、瀛船賃ハ瀛船旅行、車馬賃ハ陸路旅行、日當ハ宿泊料及其
他ノ諸費ニ充ツル爲メ之ヲ支給ス

第四條 官有ノ舟車馬及各官廳ニ於テ借入備入タル舟車馬等ニテ旅行シ若クハ旅行ノ
性質ニ依リ特ニ舟車馬等ノ實費拂キ許可シタルトキハ本令ノ瀛車賃瀛船賃及車馬賃
ヲ支給セス

第五條 瀛車賃ハ哩數、瀛船賃ハ海里數、車馬賃ハ里數日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給スヘ
シ「外國旅費」ノ日當ヲ給スルトキハ本條ノ日當ヲ支給セス

第六條 赴任ハ管外旅行ヲ爲メ其管内ヲ通過スルトキハ其路程ハ管外ニ準シ又管内巡
回ノ際其便宜ニ依リ管外ヲ通過スルトキハ其路程ハ管内ニ準スヘシ

第七條 日當ハ陸路六里未滿、瀛車十哩未滿及瀛船十海里未滿ノ旅行ニハ支給セサル
モノトス但公務ノ都合ニ依リ宿泊ヲ要スルトキハ宿泊ノ數ニ應リ日當ヲ支給スヘシ
第八條 瀛車賃瀛船賃及車馬賃ハ其種類毎ニ經過セシ路程ノ總數ヲ合算シテ之ヲ支給
スヘシ但其一位未滿ノ端數ハ計算セサルモノトス

第九條 旅行ノ兩會計年度ニ跨ルトキハ各年度毎ニ之ヲ區別シ旅費ヲ計算スヘシ但瀛
車賃及瀛船賃ハ會計年度ニ係ハラズ瀛車瀛船ノ到達地ニ着シタル日ヲ以テ之ヲ區別
シテ計算スヘシ

第十條 檢田測量及土木工事等ノ爲メ現場ヲ巡視スルトキハ車馬賃ヲ給セス日當額ニ
三割ヲ増給スヘシ

第十二類 租稅及貨幣紙幣公債區町村費

第十一條 赴任旅費ハ舊任地ヨリ新任地ニ至ルマテ本官相當ノ車馬賃瀛車賃若クハ瀛船賃ノ二倍ヲ支給スヘシ

第十二條 廳官若クハ退官ノ際事務引繼殘務取調其他公務ノ爲メ旅行セシムルトキハ前官相當ノ旅費ヲ支給スヘシ

第十三條 新ニ任用スル爲メ召喚スルモノハ其新任官相當ノ旅費ヲ支給スヘシ

第十四條 旅行中歸省其他私事ノ爲メ許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルトキハ順路ノ路程ニ應シ旅費ヲ支給スヘシ

第十五條 旅行中廢官死亡又ハ諭旨退官シタルモノハ前官相當ヲ以テ舊任地マテノ旅費ヲ支給スヘシ

第十六條 前二條ノ場合ニ於テ日當ヲ支給スル爲メ其日數ヲ計算スルハ瀛車旅行ハ一日二百哩詰、瀛船旅行ハ一日百海里詰、陸路旅行ハ一日十二里詰トス 但距離接近シテ數種ノ旅行ニ跨ルトキハ各其路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行時間ハ十二時間トシ其日數ヲ計算スヘシ

第十七條 各省大臣ハ大藏大臣ト協議シ平常旅行ヲ要スル官吏ニ對シ特ニ其旅費額ヲ定メ月額ヲ以テ之ヲ支給スルコトヲ得

第十八條 各省大臣ハ大藏大臣ト協議シ定額ノ旅費ヲ減少スルコトヲ得

第十九條 二十年六月二十三日
閣令第十七號ヲ以テ削除ス 陸海軍 武官 文官 及 警察官ノ旅費ハ主任大臣大藏大臣ト協議シ別ニ之ヲ定

第二十條

二十年三月二十一日閣令第六號ヲ以テ(武官)ノ下支官ノ二字ヲ加フ

第二十一條 神官及雇員其他本令ニ明文ナキモノ、旅費ハ主任大臣大藏大臣ト協議シ之ヲ定ムヘシ

別表

等	級	旅 費 額					
		瀛車賃	瀛船賃	管外車馬賃	管内車馬賃	管外日當	管内日當
一等親任官	一四每二	一海里每二	一里每二	一里每二	一日每二	一日每二	一日每二
二等勅任官	金拾五錢	金拾五錢	金五拾六錢	金三拾貳錢	金 四 圓	金 三 圓	金 三 圓
三等奏任官	金拾貳錢	金拾貳錢	金四拾貳錢	金貳拾四錢	金 三 圓	金 貳 圓	金 貳 圓
四等奏任官	金九錢	金九錢	金貳拾八錢	金拾六錢	金 貳 圓	金壹圓四拾錢	金壹圓四拾錢
四等奏補官	金九錢	金九錢	金貳拾貳錢	金拾貳錢	金壹圓四拾錢	金 壹 圓	金 壹 圓
五等判任官	金六錢	金六錢	金拾四錢	金八錢	金九拾錢	金七拾錢	金七拾錢
六等判任官	金六錢	金六錢	金八錢	金六錢	金七拾錢	金五拾錢	金五拾錢

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

○內國旅費規則附則ヲ追加ス

十九年十二月二十三日 閣令第三十四號各官廳

明治十九年^{六月}閣令第十四號內國旅費規則ニ附則ヲ追加スルコト左ノ如シ

內國旅費規則附則

第一條 北海道廳、沖繩縣、東京府小笠原嶋廳、長崎縣對馬嶋廳、鹿兒嶋縣大嶋嶋廳所轄地及東京府管轄伊豆七嶋內ハ管内巡回ト雖モ管外旅行ニ準シ旅費ヲ支給スルコトヲ得

第二條 北海道廳、沖繩縣管轄內ハ車馬賃ニ限り管外額ノ五割以内ヲ増給スルコトヲ得

但北海道廳管轄內ハ毎年十一月ヨリ翌年三月マテ五箇月間車馬賃ニ限り管外額ノ二倍以内ヲ増給スルコトヲ得

第三條 各省大臣ハ前二條ニ據リ旅費額ヲ定メタルトキハ大藏大臣ニ通知スヘシ

○學校職員郡區書記戶長旅費支給方

二十年六月十四日 內務省訓令第三十七號府縣

明治十九年勅令第六十五號同年閣令第三十五號ノ學校職員及郡區書記戶長等國庫費支辨ニ屬スル用務ヲ以テ旅行セシムルトキ學校職員ハ其委任待遇ヲ受クルモノ年俸千圓^{月俸八圓}已上ハ三等旅費年俸千圓未満ハ四等旅費^{改算ス}判任待遇ヲ受クルモノ月俸四十圓^{年俸月額}已上ハ五等旅費月俸四十圓未満ハ六等旅費郡區書記戶長ハ其官^{準官}相當旅費^{ニ改算ス}同年閣令第十四號內國旅費規則ニ依リ支給スヘシ

○內國旅費規則心得

十九年六月十二日 大藏省訓令第二十三號

閣令第十四號ヲ以テ內國旅費規則ヲ定メラレタルニ付左ノ通心得ヘシ

內國旅費規則心得

- 一 府縣大小書記官ハ三等旅費收稅長ハ四等旅費屬官判任御用掛ハ月俸四十圓以上五等旅費月俸四十圓未満六等旅費ヲ給スヘシ
- 一 北海道廳長官府知事縣令ハ旅行ヲ命スルトキ豫メ事務ノ便宜路程ノ近便等ヲ量リ經過ノ路筋旅行日數ヲ定ムヘシ
- 一 海灣河湖等ノ海里ヲ以テ路程ヲ算セサル場合ハ里數ニ應シテ車馬賃ノ額ヲ支給スヘシ
- 一 非常急行上司隨行等ノ如キ場合ニ於テ定額ノ車馬賃ヲ以テ支辨シ難キト見認ルトキハ北海道廳長官府知事縣令ノ見込ヲ以テ臨時實費拂ヲ許可スヘシ
- 一 海里ノ距離ハ明治五年第三百三十號布告ニ據ルヘシ
- 一 赴任旅費ハ在官者ニシテ在勤地ヲ轉シタル時ニ限り之ヲ支給スヘシ
- 一 新任ニ任用ノ者ハ在勤地マテ規則第十三條ノ旅費ヲ支給スヘシ
- 一 兼官者ハ兼官ノ用務ニ據リ旅行スルトキハ兼官相當ノ旅費ヲ給シ本官兼官ノ用務ヲ兼ルトキハ本官相當ノ旅費ヲ給スヘシ
- 一 但兼官無給ナルトキハ其旅費額ハ本官ノ給額ニ依ル
- 一 從前特例ヲ以テ旅費支給ノ法ヲ定メタルモノト雖モ總テ閣令第十四號內國旅費規則ニ據ルヘシ

○内國旅費支給方心得

大藏省訓令第二十八號

閣令第十四號ヲ以テ定メラルタル旅費支給方左ノ通り心得ヘシ

内國旅費支給方心得

- 一 北海道廳集治監典獄ハ内國旅費規則四等旅費ヲ給ス
- 一 内國稅徵收費支辨ニ係ル府縣等外御用掛及備員ノ旅費ハ左表ニ據ル

瀛車	賃	瀛船	賃	管外車馬賃	管内車馬賃	管外日當	管内日當
一哩	毎ニ	一海里	毎ニ	一里	毎ニ	一日	毎ニ
金	五	錢	金	五	錢	金	五
五	錢	金	七	錢	金	五	錢
五	錢	金	五	錢	金	五	錢
五	錢	金	五	錢	金	五	錢

一 北海道廳府縣ノ判任官并ニ準判任官(新官制ニ據リ官等ヲ定メサルモノ)ハ属官御用掛リノ外ト雖モ總テ當省訓令第二十三號第一項ニ據リテ旅費ヲ給ス但地方稅支辨ノ官吏ト雖モ國庫ヨリ旅費ヲ給スルトキ亦同シ

一 支給上新舊旅費規則相跨リタル場合ニ於テハ新規則施行期日後直ニ到着セシ御用地ヲ以テ打切り又巡廻中ノ者ハ該期日ヲ押へ新舊支給方ヲ區分スヘシ

●同指令

●管内赴任旅費ノ件ニ付栃木縣ヨリ大藏省主計局へ照會 二十年二月(同月廿六日官報)
官吏管内赴任ノ節旅費及日當支給方ノ儀ハ内國旅費規則第六條赴任又ハ管外旅行ノ爲メ其管内ヲ通過スルト

キハ其路程ハ管外ニ準シ云々ト有之ニ付管内中ノ赴任ハ無論管内ノ車馬賃瀛車賃若クハ瀛船賃ノ二倍ヲ支給シ可然ヤ

回答 二十年二月五日
御解見之通

●内國旅費規則第七條ノ件神奈川縣ヨリ大藏省へ伺 二十年三月十九日(同月二十八日官報)
内國旅費規則第七條ニ日當ハ陸路六里未滿瀛車十哩未滿及瀛船十海里未滿ノ旅行ニハ支給セスト有之候處右各種ノ旅行相跨リ其行程各日當支給ノ定限ニ滿タサル場合ニハ瀛車瀛船ノ行程ハ之ヲ陸里ニ換算シ總算六里ニ滿ルトキハ日當ヲ支給シ然ルヘキヤ

指令 二十年三月二十四日
伺ノ通
●非職者任用旅費ノ件ニ付北海道廳ヨリ大藏省主計局へ照會 二十年四月一日(同月六日官報)
非職ノ者ノ赴任旅費ハ規則第十一條ニ據ルカ又ハ第十三條ニ據リ支給シ然ルヘキヤ
回答 二十年四月四日

非職官吏ハ客年閣令第一號第三條ニヨリ住所ニ居住スヘキ量メナキヲ以テ復任若クハ他縣へ轉任ノ場合モ旅費規則第十一條ニ據ラス本入現住地ヨリ單ニ通常旅費ヲ支給スル儀ナリ

●租稅檢査員旅費支給方ノ件(埼玉縣)伺 明治廿一年三月廿九日
租稅檢査監督員巡回旅費支給方ノ義ハ内國旅費規則ニ照據シ現場巡視アルトキハ三割増日當及瀛車車馬賃等支給致シ來リ候處近來諸費節約ノ折柄ニ付現場巡視日當額ト普通日當並瀛車車馬賃額ト對照シ其多キ方ヲ以テ支給額ニ相定候ハ、幾分ノ減少可相成ニ付來四月一日ヨリ旅行致度
(大藏省)指令 明治廿一年四月十日
伺ノ趣聞屆候條租稅檢査監督員ノ巡回旅費ハ現場巡視日當ト具日ノ普通日當並瀛車車馬賃額トナ對照シ其多キ一方ヲ支給スヘシ

